

開議 午前 9時00分

◎開 議

○議長（中田隆幸君） これより本日の会議を開きます。

---

◎議事日程の報告

○議長（中田隆幸君） なお、本日の議事日程はお手元に配付のとおりです。  
説明員は6月16日と同様ですので、御了承願います。

---

◎諸般の報告

○議長（中田隆幸君） 日程に入る前に諸般の報告を行います。  
5月7日に告示された後期高齢者医療広域連合議会議員選挙の結果を報告します。  
静岡県後期高齢者医療広域連合規約第7条第2項第4号に規定する区分の当選人については、お手元に配付のとおりです。  
次に、川根本町議会会議規則第129条第1項ただし書きによる議員の派遣決定の報告を配付しておりますので、御了承ください。  
以上で諸般の報告を終わります。

---

◎一般質問

○議長（中田隆幸君） 日程第1、一般質問を行います。  
通告により、通告された質問者は、根岸英一君、中澤莊也君、藺田靖邦君、坂本政司君、野口直次君、鈴木多津枝君、芹澤廣行君であります。順番に発言を許します。  
再質問については、議会運営申し合わせにより一問一答方式とします。  
なお、許された質問時間は30分ですので、的確に質問、答弁をするようにお願いします。  
4番、根岸英一君、発言を許します。4番、根岸英一君。  
○4番（根岸英一君） おはようございます。4番、根岸英一です。  
トップバッターということで緊張しておりますが、よろしく申し上げます。  
先日、6月5日から7日まで当町におきまして、第48回全国ホテル研究会川根本町大会が

開催をされました。初日のホテル観賞会は、あいにくの雨で中止となりましたが、2日目の文化会館での小学生の活動発表はエコパーク登録の町にふさわしいすばらしい発表でありました。

また、寸又峡野外特設ステージでの懇親会には北海道、沖縄をはじめ、他県からの参加者170名とスタッフ、関係者総勢200名が互いに組を回り、余興と地元料理のおもてなしに大いに盛り上がりました。町を元気にするためにイベント、観光等での誘客や交流人口の増加を図らなくてはと改めて考えたところであります。

一般質問通告書に従い、2点質問いたします。

1点目の質問です。

若者交流センターの建設について。

12日の全員協議会の中で概略説明がありました。若者交流センターには、図書館、学習センター、インキュベーションセンター、合宿学生の宿泊所、川根留学生の寄宿舎が計画されておりますが、若者交流人口を増やすためにどのような施策を考えているのか。また、交流センターをどのように活用していくのか、現在の計画、構想について具体的な説明をいただきたい。

2点目ですが、カヌーの町として全国にアピールをし、交流人口を増やすPRについて伺います。当町は平成15年旧本川根町るとき静岡国体わかふじ国体でカヌーの競技の会場となりました。全国大会を開催した実績がございます。以後、カヌーの町としてカヌー教室やカヌー大会等を開催し、カヌーの普及を図ってきましたが、少子化、高齢化等も影響し、町内外への普及が図れていないのが現状であります。

そのような中、数年前から実施しております主に町外者を対象としたエコツーリズムネットワークのカヌー大会や、カヌーを利用した活動、静岡スポーツフェスティバルカヌー競技中部地域大会、また川根高校カヌー部の活躍はカヌーのまちづくり、カヌーの普及に大きく貢献しております。当町には、地元出身の大村朱澄さんというカヌーを志す子供たちの手本がございます。川根高校には、すばらしい指導者がおります。川根高では今年は裁量枠2名を含む3名の川根留学生と町内6名の合計9名の1年生がカヌー部へ入部しております。

接岨湖カヌー競技場では、高校生の県大会は実施されておりますが、東海大会は行われておりません。コースロープや自動発艇装置等の施設設備が不十分なためであります。施設設備の充実を図れば、全国大会も開催できます。全国でもカヌー競技ができる市町は限られており、施設整備を図り競技場近くに合宿等で宿泊できる施設を整備し、大学や高校等へのカヌー合宿PRをして、交流人口を増やす考えがないか伺います。

施設の充実を図れば、5年後の東京オリンピックの練習会場、事前合宿に名乗りを上げれば、カヌーの町川根本町のPRが全国、世界に発信できると思います。カヌーの町川根本町のPRの看板がございません。トーマス人気でにぎわっている今、地名から接岨湖まで大きな看板を5カ所ほど設置すればPR効果が大きいと思います。

以上、2点について質問いたします。よろしくお願いします。

○議長（中田隆幸君） ただいまの根岸英一君の質問に対し、町長の答弁を求めます。

町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 皆さんおはようございます。

それでは、ただいまの根岸議員の一般質問に対しましてお答えさせていただきます。

まず、冒頭でお礼を申し上げたいと思いますけれども、ホテルの全国大会、大変地元の皆さんにもお世話になりましたけれども、多くの皆さんに参加をしていただきまして、協力いただきまして成功裏に終わったということに対しましては、心よりお礼を申し上げたいというふうに思います。特に、議員の皆様方にも大変な御苦勞をなさっていただいたということで、感謝を申し上げたいというふうに思っております。

それでは、まず最初に若者交流センターの建設について説明をさせていただきます。

先日の補正予算におきまして、設計監理費をお認めいただき、今後は来年3月の完成に向けて建設を進めているというところでございます。

御質問の若者の交流人口を増やすための施策につきましては、教育関係の事業だけではなく、町のあらゆる事業展開の中で進めていかなければならないというふうに認識をいたしております。

今回、建設予定の若者交流センターには、若者が宿泊できるスペースをはじめ、学習のためのスペース、ミーティングルーム、食堂等、多くの方々の交流のために必要な機能を設け、現在町が実施をしております事業を含め、幅広い利活用ができるような施設の建設を進めていく予定であります。

現在、町が実施している事業といたしましては、焼津市の子供たちとの交流事業である「海の子山の子交流教室事業」での利用が想定をしております。

また、教育委員会の事業ではありませんが、静岡市の常葉大学の「たぬきの仲間たち」の大学生と地元の方々との交流事業、現在、行政改革推進委員会の矢尾板先生が取り組んでおられます、千葉淑徳大学の学生の皆さんとの交流等が考えられるところであります。さらに加え、川根高校の川根留学生の受け入れとあわせ、高校世代から大学世代を中心とした町外の若者と、町内の同世代の若者との相互交流を深めていくことができる事業を、戦略的に進めていくことが大切であるというふうに考えております。

なお、今後こうした事業を効率的に実施していくためには、施設の運営方法や利用料金、条例や規則等のルールなどをつくり、検討していかなければならない課題であります。年度内完成を目指し、担当課を中心として事業を進めております。

今後、若者交流センターの利活用を通じ、川根本町が乳幼児期から青年期まで、素晴らしい子育て環境の整った町にしていくという大きな展望を持ち、今後も関係の皆様のお意見を聞きながら、さらなる交流事業の向上に努めていきたいというふうに考えております。

次に、カヌーの町としての全国のアピールをしようというような御提言だったというふう

に思いますけれども、カヌーのまちづくりの取り組みにつきましては、これまで町内の小・中学校におけるカヌー指導や接岨湖などの一般の方々を対象としたカヌー出前教室を開催してカヌーの普及を図ってまいりました。

また、近年では新たな観光のスタイルとしてエコツーリズムを推進していく中で、川根本町エコツーリズムネットワークが中心となって、カヌーとツーリングを結びつける動きも活発になりつつあります。

さらに、競技力の向上を図るために川根高校カヌー部への支援を行っておりますが、地元選手の活躍は、町民に勇気と希望をもたらすとともに、カヌーの町を全国にアピールできるすばらしい機会であると考えております。

競技場近くへの合宿等の整備につきましては、カヌー競技に特化した形での合宿等の整備という点では、競技場が非常設であるということや、活用の範囲が限られることから、現在、施設整備に係る構想はございませんが、町では、町外のスポーツ・文化に関する活動をする団体が実施する合宿等の誘致を促進するための補助事業としまして、「川根本町選ばれる観光のまちづくり事業」を実施し、交流人口の拡大及び地域の活性化を図っているところであります。

このようなこれまでの対応に加え、今後は、今年度設立を予定しております「川根本町カヌー普及協議会」において、関係する皆様から御意見をいただきながら、カヌーの普及、カヌーのまちづくり推進をさらに進めていきたいというふうに考えております。

よろしくお願いたします。

○議長（中田隆幸君） 再質問を許します。4番、根岸英一君。

○4番（根岸英一君） 交流センターについての説明をいただきました。全協の説明とほぼ同じと、詳細についてはまだこれからになっていくと思いますけれども、全協で説明を受けた後、現地を三度見てまいりました。三角の特殊な地形といたしますか、建物はちょっとつくりにくい形になっていきますけれども、狭いような感じもいたしました。そこへ宿舎、合宿所、それらが入って狭くはないかということを一とつ気になりましたんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（中田隆幸君） 教育総務課長、前田修児君。

○教育総務課長（前田修児君） ただいまの根岸議員さんの御質問であります。あそのの沢脇のところの三角地が少し狭くはないかという御質問でありますけれども、私ども教育委員会でも当然現地を見ておりますし、その中で先日補正予算の中で上げさせていただく中でも、設計監理のほうのお願いをさせていただきましたけれども、当然教育委員会といたしましてもあの場所において、この前、全協で申し上げましたとおりの機能を持った施設を建設するという前提の中で考えさせていただいております。

もちろん、狭いということは多少認識はしておりますけれども、あの中で今考えられるスペース、それを十分に活用して施設を建設していきたいという考えでおります。

また、設計業者さん、今度入札がありますけれども、決まりましたら、詳細設計を含めて、また議会の皆様にも随時、御報告をさせていただきながら、またその狭い中でこの事業がしっかりできるようなことで進めてまいりたいと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（中田隆幸君） 4番、根岸英一君。

○4番（根岸英一君） センター内に学習センター、図書館等もできるようになっております。町民から以前よりちらほらと図書館等も一つ活用しよいいのも欲しいよという声も入ってきています。できれば子育て支援等も備えたといいますか、そういったのも考えていてくれたらありがたいとか、また、町民が自由に使え、勉強でき、また、その他の学生とも交流できるようなそういった機能の図書館にさせていただければありがたいと思います。

それは要望ですのであれですけれども、詳細についてはまだまだ先になって、いろいろ聞かせていただきますけれども、まだ計画の段階で本当に詳細についてはまだ後からいろいろ言ってくると思いますけれども、私は何よりもこの交流センター内に川根留学生の宿泊施設を組み込まれているということ、これでひとつ安心をしたところでございます。町内に川根高付近に10軒、20軒と下宿先と下宿屋があればいいんですけれども、高齢化し過ぎているとか、部屋は幾つもあるんですけれども、食事の支度ができないとか、そして留守にできない、そういったような理由でなかなか現在の段階ではそういう下宿をお願いするという事は難しい状況でございます。

しかし、こういう下宿があれば地域の活性化にもなりますし、また今後下宿というのも考えていったほうがいいのかとそんなふうに思っておりますけれども、何につけても留学生の寮を組み込んでくれたということに、ひとつ感謝をいたします。

川根高では5年ぶりに茶摘みの体験を復活いたしました。地域の伝統文化や自然環境と関連した学びを創造し、学校の魅力化に取り組んでおります。留学生が交流センターで3年間の高校生活を満喫し、将来川根本町で生活したり、町に貢献できる意思を持つ生徒育成を方針であります。川根留学生をはじめ、多くの学生や若者、町民が交流センターを活用し、町のよさを発見していただき、川根本町に定住、移住してくれる若者が増えることを期待してこの交流センターの質問は終わりにいたします。

続けてよろしいですか。

○議長（中田隆幸君） はい。

○4番（根岸英一君） カヌーについてですけれども、昨年カヌー普及協議会の準備会と申しますか、それを設立して会議をやっていると思っております。それで、27年度にカヌーの町として町内に活動を普及し、町の活性化を図ることを目的としてカヌー普及協議会を立ち上げるようになっておりますが、その進捗状況についてちょっと伺いたいと思っております。

○議長（中田隆幸君） 生涯学習課長、藪下和英君。

○生涯学習課長（藪下和英君） それでは、4番議員の御質問にお答えさせていただきます。

昨年度カヌー普及の仮設準備会を開催させていただきまして、本年度それをさらに進めて

いくために普及協議会を設立していく予定でございます。現在、その設立に向けて事務局で検討している状況でございます。現在、カヌーのまちづくりの推進を第1次の川根本町の総合計画の基本構想や後期基本計画の中で明確に位置づけているとともに、社会教育ビジョンの中でも基本的な施策の一つとして文化・芸術・スポーツの振興の重要目的として列記し、様々取り組みを今後行っていく中で、まだ本年度準備段階でございますので、協議会の内容等今後早急に検討をし、設立に向けて進めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（中田隆幸君） 4番、根岸英一君。

○4番（根岸英一君） 町のほうのカヌーについて活性化を図るために普及協議会を立ち上げて取り組んでいくということですから、ひとつカヌーのほうももっと力を入れて取り組んでいただければと思います。

また、カヌーにはレジャーカヌーと競技カヌーと大きく分けると二つあると思います。レジャーカヌーの普及も重要でございますけれども、競技カヌーに力を入れてカヌー教室だけにとどまらず、ジュニアカヌークラブを組織育成していくことが必要だと考えています。大村朱澄さんのような選手を輩出するにも、幼少期から継続した一貫の指導があったはずだと思います。中学校にもカヌー部ができ、高校までの6年間指導体制ができれば成果も上がり、大きなPRにもなっていくと思います。この点はどうでしょうか。中学校にカヌークラブを教育委員会のほうから設立してもらうように要望して、そして6年間でもっともっと強い川根本町からカヌーに強い子供たちを出していくと、こういったことも大事なことでないかとそんなふうに思いますが。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 今、根岸議員がおっしゃられたことは大変重要だと思っております。

特に国体が終わってから、その後、大きな大会を当町で開催していなかったというようなことがございまして、少し存在的には忘れられたような形になっているというような中で、やはり県のカヌー協会の役員の方々の皆さんも一度ジャパンカップ等開催をしてもらえないかというような要請も実は来ております。そのような中で、やはり今言われたとおり大村朱澄さん、それから池住先生、それぞれ指導者がいるときにやはり後進の育成はやっておかないと、いざやりたいと思ってもなかなか間に合わないという状況が来ると思っておりますので、人材育成のために、やはり対応していくことが必要というふうに考えております。その中で当然ながら部活の関係の応援、支援等につきましても、行政がやるべきだというふうに考えておりますので、それでいろんな形で皆さんと相談しながら対応はしていきますけれども、そのような対応をしていきたいというふうに思っておりますので、御協力をまた重ねてお願いしたいというふうに思います。

○議長（中田隆幸君） 4番、根岸英一君。

○4番（根岸英一君） 川根高校の話にまたなりますけれども、川根高カヌー部1年生で留学

生を含む4名が入部して3カ月したところです。なかなか力のある生徒たちで東海大会で好成績を上げまして、今度インターハイへ出場することになりました。裁量枠で、志を持った留学生が入学するという、これも町にとっても本当にいいことであって、やはりカヌーをやりたいという子供をここへ川高を目指してやってきております。

また、川根高校も2年前から校長や副校長が川根留学生募集に向けて、県内の中学校をくまなく訪問してくれております。その際、裁量枠等の説明をしながら、カヌーのPR等もしてくれております。全くPRをしていないわけでもないんですけれども、やはり大きな看板、これをひとつつくっていただきたいと、そんなように思いますが看板設置についてはどのように考えますか。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 実は今現在、看板を考えているという状況ではありません。まず検討して、今言われたようなことも含めると、やはりそういうような位置づけも必要かなというように感じております。今、看板があるのは「NEW!!わかふじ国体」のときの看板が残っているというぐらいで、奥泉にありましたけれども、その程度しかないということだもんですから、実際カヌーの町かなという感じが一般の方はしていると思います。ですので、やはり啓蒙活動も含めて、看板の設置も含めて検討させていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（中田隆幸君） 4番、根岸英一君。

○4番（根岸英一君） 町長が検討するという回答でございましたけれども、検討してくれるなら、こういうことも検討していただきたいなど。

使用していない、使えないカヌー、それが何艇か残っていると思います。それらのカヌーを大きいのをちょっとペンキで塗装し、きれいにして、どんと通りに5カ所ほど地名と上長尾、役場があるので、上長尾、そして川根高校がある徳山、千頭、接岨も、そういうのを立てれば、それはトーマスも通って、車もたくさん入ってきています。だから、川根本町は何だすごいよ、茶畑にカヌーがあるよ、そういったようなことで大きな宣伝効果があると思いますが、そういうことも考えながら看板をつくっていただければと、そんなことをお願ひします。

それから、いいですか。

○議長（中田隆幸君） 今のは要望ですね。

○4番（根岸英一君） 要望です。

○議長（中田隆幸君） 質問をやってください。

○4番（根岸英一君） 設備なんですけれども、競技場のコースロープとか、自動発艇装置、これらが常時使える状態であれば全国の大会もできるということです。だからこの辺もダム湖にそういうものを取りつけたままにはおけないとは思いますが、国交省との話し合い等も必要になってくるかとは思いますが、そういうものを取りつけて全国大会等開

催できるようになれば、全国からカヌー愛好家が来ますし、また大会も開催され、本当にPRが行き届くと思います。そして、先ほどもちょっと触れましたけれども、オリンピックに名乗りを上げれば、事前練習とか、そういうのに外国からも来てくれるかもしれない。そうしてエコパーク登録といった一つの宣伝効果もありますので、そういうのも設備をしっかりとやっていただくように考えていただけますか。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 今、看板という話がありましたけれども、その件についても当然重要なことだと思っております。その中でもう少し大事なことは、地元の人がやはりカヌーで競技、またはレジャー的なカヌーをやるというような町民がこぞって対応ができる、そのような地域にしなきゃいけないというのが非常に重要だと思っております。

特に今は、少しカヌー人口は減りましたけれども、以前は相当な子供さんも含めてやった時代があったんですが、今現在はなかなかそのような徹底がされていないという現状があります。

それから、今調べてもらっておりますけれども、昔使った施設の点については、使えないものがほとんど多いというようなことも確認はしております。それらも修理しながら対応していくことはやはり誘致をする必要条件ではないかというふうに思っておりますので、これはカヌー連盟、カヌー協会等々と上部の団体とも相談しながら対応していく必要があるというふうに思っております。

いずれにしても、やはり議員の皆さんにもカヌーに乗っていただくというようなこともやっていただければ、普及の一翼を担えるのではないかというふうに考えておりますので、その点についても大勢の皆さんが対応できるような楽なカヌーのレジャー的なもの、それと専門的な競技用のカヌー、それぞれを少し分離しなきゃいけない面もあるものですから、その点もカヌーの町として底辺から底上げすることが必要というふうに思っておりますので、これも大きな検討課題かなというふうに考えております。よろしくお願いします。

○議長（中田隆幸君） 4番、根岸英一君。

○4番（根岸英一君） 町長の回答のように、レジャーカヌーと私が今説明をしている競技カヌー、二つに分かれると思うんですけども、レジャーカヌーはレジャーカヌーとしてやはり町で取り組んでもらわないといけないと思うし、それとも関連もするんですけども、子供たち、今子供会等なくなってありませんけれども、やはり当町もかつてはサッカーをやる子供がおりましたが、それも子供会を中心に教育委員会からの要望等がございまして、子供会のサッカー大会をやるようになったと、そういう経緯もございます。

だから、ジュニアカヌークラブ、そういったものも検討していただき、小さいときからカヌーの競技についても目を向けてもらうとか、取り組んでもらうとか、スポーツとして頑張ってもらおうようなそういうような施策もやっていただきたいなとそんなふうに思います。

そして、施設と並行して合宿所について伺います。そういうのはお金がかかることなんですけれども、合宿所を整備するとか。お願いします。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 先ほども若者交流センターのところで説明させていただきましたけれども、やはりそういう合宿所的なものも交流センターを含めて対応できるような形にしていきたいという考えは持っております。その中で、地元にとすることは、今現在考えておりませんけれども、徳山の町有地、その辺を対応していきたいというふうに考えております。

○議長（中田隆幸君） 4番、根岸英一君。

○4番（根岸英一君） 高校・大学へ接岨湖のカヌー競技場を練習用に使ってください、合宿に使ってくださいと、そういうPRもしていただきたいわけです。そのために、合宿所ということも要望しているんですけれども、寸又峡の温泉旅館にしろ、ある意味接岨の奥泉の民宿にしろ、一応合宿用の宿泊させるためのそういう組合みたいなものをつくって、そして受け入れるということも考えていけるんじゃないかと、そんなふうにも思っております。とにかく交流人口を増やすということで、取り組みにはそうやってよそから合宿等をお願いして、連れてくるというのが重要だと思います。その辺はいかがでしょうか。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） エコパークに登録されたということもあるものですから、カヌーは大変適しているというふうに感じている。そのような中でもう一つ申し上げておきたいのは、やはりエコパークの拠点はどういうふうな形にしていくかということも非常に大事だと思っております。その中に、北小の今あいている学校の跡地等々をどういう形で考えていったらいいかということも十分皆さんと検討しながら、議論をしていく必要があるのかなということで、エコパークの拠点も必要だというふうに考えておりますので、その辺も含めて検討していきたいというふうに思っております。

先ほど、カヌーの競技場の近くには考えていないということを申し上げましたけれども、北部の拠点として、またはエコパークの拠点としてあの辺が位置づけられないかなということを検討はしておりますけれども、そのような拠点づくりも当然ながら加味して考えていかなければいけないというふうに思っています。

○議長（中田隆幸君） 教育総務課長、前田修児君。

○教育総務課長（前田修児君） ただいま、根岸議員さんのほうから御質問の中で、町長が交流センターのほうに合宿所というお話もありましたけれども、正直先ほど狭いという御指摘もあったんですけれども、なかなか合宿所的にやっぱり使っていくというのは非常に無理があるのかなというふうに私どもは感じております。町長が今ほかの拠点施設というお話もありましたけれども、そうした中で、ぜひ今後検討していきたいとそんなふうに考えておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（中田隆幸君） 商工観光課長、安竹賢治君。

○商工観光課長（安竹賢治君） 先ほど町内の宿泊等を合宿に利用できないのかというお話がございましたが、その中で、現在町のほうで支援している補助金がございますので、その一つをちょっと御紹介させていただきたいわけですが、川根本町選ばれる観光のまちづくり事業補助金というのがございます。

これにつきましては、町外に所在する高等学校、あるいは大学、高等専門学校、あるいは学生等で同好会をつくっている組織、文化活動ももちろん入りますが、それらを対象としまして、町内の宿泊施設を利用する場合は、一人1,000円以上を経費として宿泊人数に応じて1,000円を乗じた額をその施設のほうに支援しているという事業がございます。上限が10万円でございますので、昨年も利用した宿がございますが、そういったことでこのような支援を利用していただければ、町内の合宿所も町の宿泊施設に利用できるんじゃないかというふうに思っていますので、その一端だけ御紹介させていただきました。

○議長（中田隆幸君） 再質問ありますか。4番、根岸英一君。

○4番（根岸英一君） 1,000円の補助金があるという説明、ちょっとそれも私聞いていたんですけども、それは宿泊施設のほうとの関係で。

それから、先ほど町長がエコパークの拠点としてのリンクではないんですけども、それも一緒に考えていきたい、そういう話があり、私もそういうことは一応考えておりますが、やはりカヌーで人を呼ぶ、交流人口を増やす、これは町もカヌーに力を入れていく以上、ぜひやっていただきたいことでありまして、何とか早期に取り組みを開始していただきたいなとそんなふうに思います。

先ほどから質問していますこのような設備や施設、これらの充実を図りさえすれば、高校・大学をはじめ、若者の交流人口も増えてきます。また、カヌーに対する子供たちの影響もかなり大きいものがあると思います。町の活性化につながっていきますし、今後検討していかねばならないユネスコエコパークの拠点等についても考慮しながら、ぜひ取り組んでいただけることをお願いしまして、カヌー、交流センター、カヌー普及の質問を終わらせていただきます。

○議長（中田隆幸君） これで、根岸英一君の一般質問を終わります。

次に、5番、中澤莊也君、発言を許します。5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） 皆様おはようございます。5番、中澤莊也です。

一般質問通告書に従って質問を行います。

質問事項は、川根茶の伝統文化を守るには。ユネスコエコパーク認定一周年これからの取り組みについてであります。

最初に、川根茶の伝統文化を守るにはについて、幾つかの質問をいたします。

川根茶は単なる地域の地場産業としての役割だけではなく、私たちの日常生活においてなくてはならない、大切な伝統文化としての役割も担ってきました。その川根茶が今非常に厳しい状況に瀕しています。茶価の低迷、生産農家の高齢化や後継者不足、消費者ニーズの多

様化、生活様式の変化によるお茶消費量の減、まさにボクシングの試合に例えれば、腹部に受けたボディブローが徐々に効いてきて、ついには立ち上がれなくなり、ニュートラルコーナーでテクニカルノックアウトダウンの宣告を受ける瞬間のボクサーの姿に似ているような気がします。

現在の厳しい川根茶を取り巻く環境を見れば、これをやったから状況が飛躍的に改善されるということは考えにくい状況ではありますが、手をこまねいていても出口は一向に見えてきません。今こそ危機感と共通認識を持ち、川根茶の未来を築き伝統文化を守っていくために、官民一体となった取り組みが必要と考え、以下のことを伺います。

一つ、川根茶の生産基盤をいかにして守るか。これについては、農地の荒廃、耕作放棄地の解消、農地集積バンク、権限移譲等についてお答えを願いたいと思っております。

二つ目、大型共同工場への支援・再編についての町の考え方を伺います。昨年、凍霜害やひょうの被害で、各大型工場を回らせていただいたとき、周りからはすばらしい茶工場と思われていて、ここのお茶はいい、高く売れるという、そのような工場の工場主が私にこんなことを言っていました。

「莊也、このままでは川根茶はだめになってしまう、町内を1カ所か2カ所にまとめて大型工場を再編する必要がある。そして今なら私たちは茶主としてそういう労力を提供できる。」そのような悲痛な声を聞いております。

三つ目は、農用地域の見直しの取り組み状況であります。平成27年に農業委員会の意見を聞きながら農用地の見直しということで取り組まれておりますが、非常に地域の実情を見れば、これはもう農地としては機能していかないという土地が幾つかあります。それについて地域の考え方を聞くということがたびたび言われていますが、その進捗状況について伺いたいと思えます。

次に、ユネスコエコパーク認定一周年、これからの取り組みであります。

「自然と人間の共生」というユネスコの理念にかなっているということで、昨年6月12日に川根本町全域が南アルプスユネスコエコパークに認定され、早くも1年が経過いたしました。この間、ユネスコエコパーク認定の意義や、後世に残すべき豊かな自然環境や歴史文化の価値をどのようにして町は地域の人たちに周知しようとしてきたのか、またユネスコエコパークの町川根本町をいかに町内外に発信してきたのか、1年を振り返りながら、今後の取り組みについて以下のことを伺います。

一つ、ユネスコエコパークの認定をどのように地域振興に生かそうとしているのか。これは周りからのお客さんが多く、大札山、山犬段等に来ますが、林道の整備、標識等については余り整備をされていないような状況であります。そのようなことも含めて答弁を願いたいと思えます。

先ほど、町長が申されていたように二つ目の質問ですが、ユネスコエコパークの拠点整備。拠点整備とあわせて、人材育成の育成、これについては野口議員も緑の協力隊、ふるさと協

力隊のことを質問されるということになっておりますが、人材育成、町外、県外からの人材育成という面も含めてお答えを願いたいと考えております。

三つ目、ユネスコエコパークの管理計画の作成はということで、静岡市がつくっておられます管理計画、その中に川根本町との連携、川根本町と井川を結ぶ井川閑蔵線のことだと思いますが、そのことについても管理計画の中には出ております。そのような点についてもお答えを願いたいと思います。

最後に、リニア中央新幹線の工事に関心の目をということで、昨年議員も視察をさせていただきましたが、トンネルの掘削工事によって大量に排出される残土、それが燕沢という溪流のところに置かれるということですが、非常に見ても危険な状態でありまして、南アルプスは非常に若い山でまだ動いて、造山運動を繰り返しています。そのような場所にそのような大量の土砂を置いて危険性はないのか、そのような認識をどのように持たれているのかということをお伺いしたいと思います。

以上であります。

町当局からの前向き、かつ積極的な答弁を期待いたします。よろしく申し上げます。

○議長（中田隆幸君） ただいまの中澤莊也君の質問に対し、町長の答弁を求めます。町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） それでは、中澤議員の一般質問に対しましてお答えさせていただきます。

はじめに、川根茶の生産基盤をいかに守るかという御質問でございますけれども、川根茶の生産農家は生産及び販売の環境に対峙しながら、生産販売をしております。これは、茶農家だけでなくあらゆる業種が経済環境をはじめとする社会環境に対峙して業務を行っているわけであります。

しかし、議員がおっしゃるように茶農家の高齢化や後継者不足に対して、我々行政もそして茶業関係者自らも地域課題としてしっかり取り組まなければなりません。茶農家の経営内容が様々でありますので、押しなべて申し上げるということは難しい面もございますけれども、今後限られた担い手で川根茶をさらに盛り上げていくとするならば、生産性と生産コストに徹底的に対応する経営体による生産方式と、他の産地にはまねのできない茶の生産をする生産方式の両方を、茶産地として実現する方向になるのではないかというふうに考えております。そのためには、必要な機械化への支援や必要な茶の苗木の供給など、川根茶産地が日本を代表する銘茶産地であり続ける策を講じていきたいというふうに考えているところであります。

国内の茶需要におきましては、原料抹茶の需要が急速に拡大している状況でございます、抹茶の生産への期待感が高まってきているふうに感じております。抹茶用生葉の栽培に興味を示している生産農家もおりますので、需給状況、製造と販売のサプライチェーンなどを含めて、収益性のある事業展開を期待しているところでありますが、川根茶の真髄は、香気と

滋味に満ちた煎茶であることも考えております。

次に、大型共同工場への支援・再編についてでございますけれども、27年産一番茶で町内の一つの共同製茶工場が荒茶製造を停止するという話をいただいております。組合員において、今後の茶園管理と荒茶製造をどうしていけばいいかを思案した上での御判断だと伺っております。このような共同製茶工場が出てくることは想定されることでありまして、これまでは個人工場の製造の受け皿になっている側面もありましたので、地域の荒茶製造セクターとして機能し続けていただきたいというふうにも思っております。共同製茶工場にはそれぞれの歴史や事情があり、重ねて組合員個々の状況も関連してくることがございますので、町としては農協や農林事務所とも相談に乗っていただきたいというふうに考えておりますし、このような会議を持っているところであります。

このような状況の中にあっても、自らが川根茶の中心的な製茶工場であるという認識をし、そういう意識で茶の生産に取り組んでいる、あるいは人材育成に積極的に取り組まれている工場もあるわけでございます。こちらをもっときめ細かな意見交換、情報共有を進めて、サポートをしていきたいというふうに思っております。

それから、農用地見直しの取り組みの状況でございますけれども、農用地区域やいわゆる青地農地の用途区分を示す内容を含む、川根本町農業振興地域整備計画の更新作業に平成26年度から取り組んでいることは、議員も御承知のことでございます。平成26年度に基礎調査を行い、今年度計画の更新を行いますので、事務を進めております。

次に、ユネスコエコパークに関する質問の答弁の前に、去る6月6日に静岡市内におきまして今年度の南アルプス世界自然遺産登録推進協議会総会が開催されました。

御承知のとおり、当協議会は構成3県10市町が連携して当地域の世界遺産登録に向けて要望活動やPR活動などを行って現在に至っております。

一方、環境省では次期世界遺産候補地の選定を検討するため、平成25年度から2カ年にわたり、他の候補地を含め16地域のその可能性を探る詳細調査を実施し、27年2月に調査結果が公表されております。

その調査結果は「南アルプスは世界遺産候補地としての可能性は認められなかった」結論づけをされております。協議会においては、今までの議論・研究で培われたノウハウを駆使し、南アルプス地域のあり方に即した継続ある議論・検討を行い、平成25年8月に締結した南アルプスエコパーク基本合意書に基づく取り組みを一層推進するとともに、今後の活動のあり方を議論・検討をしていきたいということでございます。今後は、世界自然遺産の登録活動を前面に出す活動ではなく、エコパーク推進と地域活性化につなげる方策の検討などに対応していくという議論が大方の市町村の考え方となっております。

以上が、現在の協議会の方向性であります。

議員からの質問1点目、認定を地域振興にどのように生かすかということでございますけれども、認定の意義は「自然と人間の共生」という大きなテーマを持ち、これまで私たちが

行ってきた地域の自然環境保全と営みが、持続的に共存しているという評価をいただいたものであり、本町は大いに自信と誇りを持っていいということでございます。

この認定をいかに地域振興に結びつけるかということは、すなわちいかに定住人口、交流人口の増加、地域経済の活性化に結びつけるかということになりますが、世界遺産に認定されますと次の日から、マスコミに取り上げられ、国内はじめ、国外から多数の方々が訪れるというのは、国内の最近の認定地域を見てもおわかりだと思います。

本町の場合は、既に何回も述べておりますが、指定区域の核心地域は光岳周辺と限定的であり、その周辺が緩衝地域、全町が移行地域で指定であります。しかも核心地域へのアクセスは昨年12月議会でも写真を提示いたしましたとおり、道路自体が崩落しており通行は不能であります。静岡森林管理所でもこの工事の復旧に、大変莫大な費用と時間がかかり、光岳のアクセスは林道上に登山道を新たに整備するしかないなどとの意見を交換したところであります。

したがって、本町は南アルプスの南麓でこの自然を生かした、交流人口を増やすということ以外は考えられない状況にあるというのが現況でございます。

例えば、核心地域までは行かないまでも、奥寸又の散策ルートを調査して、登山客に限定しない気軽に行けるルートの開発の可能性がないか、千頭ダム周辺までの旧軌道敷が生かせないかなど、豊富な自然を活用できないかを検討していきたいというふうに考えております。

その中でも議員も中心になって活動されておりますエコツーリズムのフィールドになり、気軽なトレッキングができないか。誘客の目玉にならないかを検討していきたいというふうに考えております。昔は温泉と紅葉があればお客さんは来てくれたという時代が確かにありました。今は、観光地の差別化といいますか、珍しい・初めて見る・味わう・体験するというように、わざわざこの遠方に来ていただく付加価値を持った地域にしていかなければいけないというふうに考えております。

また、開かれたダムの認定も受けている長島ダムの湖面を利用した先ほども答弁申し上げましたけれども、カヌーツーリングも含めて体験型の観光を模索していくことや拠点施設での環境学習・研修の場に、地域に現在ある施設に付加価値をつけていきたいというふうに考えております。

ユネスコエコパークの拠点整備や、人材育成はという御質問もございました。12月議会でも答弁いたしておりますが、当面は寸又峡にある南アルプス山岳図書館、接岨区にある資料館やまびこ、そして茶茗館を情報発信拠点施設として考えております。南アルプス山岳図書館は、寸又峡の事業協同組合で管理運営されており、現在も南アルプスファンクラブが支援し、サポーターとして当地域周辺の山々の案内や、登山道の整備、自然観察会などを何回か実施しているようであります。もちろん、ここには南アルプスの情報が図書や写真でも得られるところでもあります。

資料館やまびこにつきましては、展示してあるものが地域の歴史・文化のほか、環境学習

や南アルプスに関する学術的展示物もございますので、十分に情報発信拠点施設の位置づけになると考えております。エコパークの登録を受けたから何か施設改修を加えたり、管理運営方法を変更したということはありません。

茶茗館につきましては、文字どおりお茶の情報発信拠点施設の一つでございます。この地域が主要産業の伝統と文化を守ってきたことがエコパーク登録の評価そのものでありますので、エコパークに認証されたからといって、リニューアルあるいはコンセプトを変更する必要は決してないというふうに考えております。

次に、人材育成に関してでございますけれども、冒頭で申し上げましたけれども、本町の自然を活用して地域振興に貢献されておられる本町エコツーリズムネットワークの会員の皆様は、エコパークの理念である「自然との共生」を実践されております。環境教育の充実や地域を再認識するための取り組みをより充実させていくために、町といたしましても昨年度にツアーガイド育成事業を実施し、伝える技術、リスクマネジメントの野外救急法、売れる満足するプログラムデザインについてスキルを学び、今後必要な研修カリキュラム案などの報告書をまとめました。

なお、南アルプスエコパーク静岡地域連携協議会、これは以前、南アルプス・奥大井自然公園運営協議会という組織がございましたけれども、本年度からは井川地域と川根本町の自然や環境情報を多くの町民に知っていただくための情報誌「いかわね新聞」を年3回発行予定し、全戸配布及び公共施設への配架を予定しております。まもなく第1号がお届けされる予定であります。これらを通じまして新たな人材育成と町民へ両地域の資源の周知を図っていきたいというふうに考えております。

エコツーリズムネットワークにおかれましても、今後事業の中でツアーガイド、インタープリターの育成を実施していただければと考えております。

ユネスコエコパーク管理計画の作成はという御質問でございますが、御承知のとおり静岡市は協議会構成市町3県10市町村の登録地域で初となる管理運用計画を策定いたしました。静岡市はリニア中央新幹線の建設工事を見据えた、環境保全環境の監視など新たな開発への対応方針を急ぐ必要があったためであります。協議会としては本年度の事業として、ユネスコエコパークによるすぐれた自然環境の持続的かつ永続的な保全管理と利活用に共同で取り組むために、計画作成と新たな組織体制の設置に向け検討を進めることとしております。今後は、静岡市域版をもとに全体の管理運営計画をまとめていくこととなりますが、細部は地域の諸事情を反映したものになると考えております。

リニア中央新幹線工事の監視の目をという御質問もございました。御存じのとおりJR東海のリニア中央新幹線工事予定地は、静岡市葵区の大井川源流部でございます。静岡市は独自に工事予定地などの自然環境調査を実施しております。本町を含め大井川流域圏の関係自治体、利水者も流量、水質に関しましては大変関心があるところでございますので、今後、注視をしていかなければいけないというふうに考えております。よろしく願いいたします。

○議長（中田隆幸君） 再質問を許します。5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） それでは、まず川根茶の関係のことから再質問させていただきます。

今、町長の答弁の中で、これからの川根茶の将来性というんですか、生産性とかコスト、そういうものを重視していくということでもあります。

そうしますと、茶園は当然機械化されていく、機械化できない部分については荒廃農地として残ってしまう。そのようなことが考えられますし、昨年の調査でも50haに及ぶ耕作放棄地が町内にあるという報告がございました。今まで一生懸命守ってきた少しばかりの茶園を、頑張って耕作したいんだけど、高齢でできなくなる。病気でできなくなるという現状があります。そのような人たちをどのように考えるのか。ただ農地を集積したら川根茶が再生するとは私は思いません。それが生産基盤を守ることにつながるというふうに考えますが、町当局のお考えを伺います。

○議長（中田隆幸君） 産業課長、後藤泰久君。

○産業課長（後藤泰久君） 方策の一つとしては共同化、機械化とともに、もう一つはきめ細やかな管理をし、高級茶をつくっていくという二つになると思います。

また、どうしてもできない人、体力的にもできない人も出ておりますので、昨年から申し出ておりますやはり転作、あるいはやっぱり一番は人にやってもらうということで継続していただきたいんですが、どうしてもできない人には管理の楽な作物に転作をするということで補助制度も完備しておりますので、そちらで対応したいと思います。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 担当課長からも説明をさせていただきましたけれども、私もう一つ大事なことは、人材育成だというふうに思っています。その中で、せっかく農林業センターが県下で唯一町内に存在するものですから、そのセンターを中心とした活動をもう少し具体的に広めていく必要があるというふうに思っております。これは農業のお茶だけでなく、林業も絡めた農林業センターですので、その連携も含めた中で人材を育成していきたいというふうに具体的に思っておりますので、また皆さんと相談しながら進めていきたいというふうに思っております。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） 今、先ほど後藤課長の答弁の中に、簡単な作物に転作していったら、耕作放棄地の解消に努めるということなんですが、それができなくなっているんです、実際。高齢でできなくなっているし、連れ添いの一人がいなくなればそういうことまでもできなくなっている状況にある。貸したいけれども、借りてくれる人がいない。そういうような仲立ちをするというのがやっぱり行政の仕事になってくるというふうに考えますが、その辺について再度伺います。

○議長（中田隆幸君） 産業課長、後藤泰久君。

○産業課長（後藤泰久君） それぞれの農家の方、将来のことを見据えてやっていると思いま

す。体力的にあと5年は頑張れるというならば、貸せるような対策の作業道を入れて準備をしておく、乗用が入れるような畝にしておくということで、借り手がつくような対策を前もってしていただきたいと思います。

以上です。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） 再度聞きます。そういうことができなくなっている。力がなくなっている。富める者はますます豊かに、貧しき者はますます貧しく、そういうような状況なんですよね。だからそれは何とかして考え方をしていく必要があると思うんです。農道をつけて作業ができなくなる。それは当然考え方としては間違っていないと思うんですよ。5年間維持していくというのはね。それができなくなっているという状況をどのように考えているのか伺います。

○議長（中田隆幸君） 産業課長、後藤泰久君。

○産業課長（後藤泰久君） 現状は議員おっしゃるとおりであると思いますが、やはり自分の茶園に責任を持って、管理していくということが大事だと思います。できないから困ったではなくて、責任を持って管理していく、それが重要ではないかと思います。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） 議論が平行になりますので、次の質問に移ります。

大型工場への支援ということで、私がここで質問したいことについては、今言われたように、耕作放棄地っていうんですか、農業が自分ではできなくなっている、そういう人たちがたくさん地域には出てきております。それを大型共同工場が共同茶園という形で管理している工場があるわけですが、そういうものに対する支援、町では人的面も含めてであります、支援ということを考えているのかどうか伺いたいと思います。

○議長（中田隆幸君） 産業課長、後藤泰久君。

○産業課長（後藤泰久君） 議員おっしゃるように、共同体でやっている工場もあると思います。それに対する補助、農園としましては、やはりそういう機械の補助、共同体による補助制度を利用していただいて、共同作業に取り組んでいくということで、応援をしていきたいと考えております。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） 制度の中では確かに機械化ということで、厚い補助があるわけですが、私が申し上げたいのは固定資産税ぐらい、例えば地代を本来ならやってほしいという方が逆に地代を払っても共同工場にやってもらおうというのが筋だと思うんですが、やはり地域の実情を鑑みればそのようなわけにはいきませんので、大型工場で幾らかの地代を払って、共同茶園を管理しているという状況にあります。

組合員は自分たちの農業をしながら共同茶園を管理しているわけですよ。その中で、まさに安い賃金でそういう工場を地域の産業を守ろうとして頑張っているわけです。そういう

人たちに対する支援も私はあってもいいのではないかというふうに考えますが、町の考え方を伺います。

○議長（中田隆幸君） 産業課長、後藤泰久君。

○産業課長（後藤泰久君） やはり地域の中での管理ということで、その地代まで、それは茶工場により、地域により取り決めて進めていっていただきたいと思います。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） 地域の事情はあるかと思いますが、やはり町のほうでの施策として取り組んでおられる耕作放棄地の解消、地場産業を守るという観点から再度検討していただきたいと思います。これは検討していただければということで、回答は結構でございます。

3番目の農用地域の見直しの取り組み状況ということで、今年度取り組まれているということで地域の実情を勘案しながら、地域の人たちの意見を聞きながら農用地の見直しを図るということをつらつら課長、町長のほうから答弁をいただいておりますが、現在の状況はどのようなになっているのか、地域の人たちの意見をどのような場で集約していくのか、そのことについて伺います。

○議長（中田隆幸君） 産業課長、後藤泰久君。

○産業課長（後藤泰久君） 今年度におきまして、町の農業振興地域整備計画を策定することで進めております。これはあくまでも町の農用地を守る計画ですので、地域の実情というのは農用地から農用地でなくする要件があれば、それは検討します。法の中で決められておりますので、農用地でなければできない理由があれば、変更の対象になりますが、あくまでも農用地を守るという観点の計画ですので、そちらで進めております。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） 確かに農用地の青地の指定というのは農業を集団で管理していく、守っていくということであると思いますが、地域の実情、まだ私たちの地区を見ても後継者がいなくて、そのまま荒れている、横のところでは農作業を一生懸命している。農業環境においても非常に悪いような状況であります。農地を守るということもありますが、やはり地区の実情をまず考えていただいて、維持していけない農地というのはたくさんあると思うんですよ。だからそういう場を地域においてしっかり設けていただきたいということですが、再度その辺を確認します。

○議長（中田隆幸君） 産業課長、後藤泰久君。

○産業課長（後藤泰久君） 今進めている計画ですが、昨年度基礎調査というものを行いました。地域の実情をつかんでいるところであります。過去の補助事業の導入状況とかの整備をしまして、一度農地を外してしまいますと、農業施策ももらえなくなると、仮に外部から農業をやりたいという人が来ても、農業に取り組めなくなってしまう、補助金をもらえなくなってしまうようなことになってしまいますので、慎重にそこら辺は進めさせていただきたいと思います。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） この質問については最後になります、今一度農用地から外してしまうと補助金がもらえなくなって、外部から入ってきた方で農業を続けたくてもできなくなる。それができないような状況というのは、現在あるわけですよ。補助金がもらえる、もらえない云々ではなくて、土地の生活環境、地域の生活環境を守っていくという面から、見直しを、そういう面からも見直しを図っていただきたいということです。

やはり、後継者はない、後継ぎはない、自分だけで終わってしまう、その農地、相続するにも相続なかなかできない。そういう状況が地域の中にいろいろたくさんあるというふうに思うんですよ。だからそういう面についてやはり配慮をしていただければということであります。

次に、エコパークのことについて質問をさせていただきます。

地域の活性化ということについてまず伺います。やはり、先ほど町長が言われたように光岳のアンゲンヌイはアクセス道路が整備されていない、なかなか厳しい状況で行けない。川根本町全域については移行地域であるというお話もございまして、拠点も山岳図書館、やまびこ、茶茗館を情報発信の基地として考えていらっしゃるということであります。これは一つ例として伺いたいと思いますが、大札山には奥大井県立自然公園があるわけです。登山道の整備、倒木の除去、そういうものについてはどのような形で現在取り組まれているのか、森林管理署との関係についても伺いたいと思います。

○議長（中田隆幸君） 商工観光課長、安竹賢治君。

○商工観光課長（安竹賢治君） ただいまの質問にお答えいたします。

毎年、川根本町森林レクリエーション推進協議会というのがございまして、メンバーは川根本町、静岡森林管理署、千頭山の会、観光協会、中部電力、井川線アプトセンター、寸又峡の旅館協同組合、これらのメンバーで協議会を組織しております。

ただいま議員の質問でございます登山道等の整備については、総会におきまして、静岡森林管理署、あるいは千頭山の会のほうから情報をいただきまして、協議会の事業の中で対応できるものは対応する。あるいは山の会のほうで自主的にやっていただくものはやっていただくということで、今年度もしそういうところがございますら、逐次やっていくということで皆さんと合意をしておりますので、そのような事業の中で対応していきたいと思っております。また、大きな登山道の整備等が必要な場合は、町のほうで事業で採択できるものについてはやっていかなければならないというふうに考えております。

以上です。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） 今、私が登山道の整備ということと、倒木があったような場合は、エコツアーの事業なんかやあって、何年かそのまま放置されていたということで、ガイドをやった方から聞いております。それをどこに言って、森林管理署、国有林でもあるし、民有林で

もありますので、その管理の責任者というんですか、私たちがエコツアーのガイドをやるときに、邪魔になった倒木をお客さんが通れる範囲で除去していいものかどうかということ、その辺について再度伺います。

○議長（中田隆幸君） 商工観光課長、安竹賢治君。

○商工観光課長（安竹賢治君） もしそのような状況がございましたら、エコツアーのほうで切っていただくような状況がありましたら、切っていただいて、お願いをしたいと思っておりますが、静岡管理署さんがもし行って大きな木を切るようでしたら、ひとつ情報を前もって欲しいというふうに言われていますので、すみませんが程度によりますけれども、大きな木を切る場合は一報をいただいて後ほど役場のほうに連絡をいただきまして、森林管理署と協議しながらやっていきたいというふうに思っています。軽微なものについては、うちのほうへ報告いただければこのようなことで活動を行ったということを報告いたしますので、御対応をいただければと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） その関連です。

やはり地域の振興というのは、訪れる方が川根本町に来てよかったという基盤の整備、環境の整備というのがあると思います。今言う、私が設問をさせていただきました登山道の整備、標識の設置、そういうものも含めて入ってくるというふうに考えます。これは具体的になります。大札山の山頂にあるベンチが非常に朽ち果てた状況に現在あります。26年にエコツアーのほうの名前で要望書を出させていただいたという経緯がありますが、その後動きがないということで、ガイドをやっている会員の方から私のほうに話が入ってきておりますが、どのような形で今後大札山の整備、標識も含めてでありますか、やろうとしているのか伺いたしたいと思います。

○議長（中田隆幸君） 商工観光課長、安竹賢治君。

○商工観光課長（安竹賢治君） 大札山の山頂につきましては、ちょっと今現状どのようになっているかというのを、大変不勉強で申し訳ございません。戻りましたら、現状、その要望書をちょっと見させていただきまして、町で対応できるところについては早急に対応したいと思います。静岡森林管理署との関係もございまして、すみませんが、今一度調査をさせていただきたいと思っておりますので、この場でやりますとか、やりませんかという答弁は差し控えさせていただきます。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） やはり、今課長が代わられたばかりで無理もないかと思いますが、やはりエコツアーで地域の振興を図るといったときは、という考え方でありまして、現場に行き実情を見て、どのようになっているか自分の目で見て確かめていただきたいというふうに思います。ぜひよろしく願いしたいと思います。これは以前も大札山の整備については、予算の中でやるということは何回かここで答弁していただいておりますので、早急に実施を

お願いしたいと考えます。

次に、エコパークの拠点整備ということで、3カ所挙がりました。今年度、井川地区においてはえほんの郷を情報発信基地として整備する、リニューアルするということで、人的な面も含めて整備をされているということですが、今後の拠点整備の計画、考え方について伺います。

○議長（中田隆幸君） 商工観光課長、安竹賢治君。

○商工観光課長（安竹賢治君） 冒頭、町長のほうから答弁がございましたとおり、寸又峡の南アルプス山岳図書館、そして資料館やまびこ、また茶茗館、この三つの施設を情報発信拠点施設と考えておりますが、今議員がおっしゃいました井川えほんの郷は、井川のそれぞれの地域の拠点ということで、えほんの郷をリニューアルしたということだと思います。町においては、ただいま言った三つの施設を当面情報発信拠点として今までの評価をもとに、新たにリニューアルをしていくとか、管理運営を変えるという方法ではなくて、現状の中でPR活動の拠点にしていきたいというふうに思っています。コアとなる施設については、いろんな考え方がございますが、それについては今のところこの施設というふうな考え方はちょっと私のほうでは申し上げられませんので、その辺で答弁とさせていただきます。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） 今、連携をしながら3施設を情報発信基地としてそれぞれの機能を担っていくという答弁でございますが、今年度整備されています光ファイバーの関係で、情報網というのはその3施設でしっかり連携が取れて、情報を共有できるのか、その辺について伺います。

○議長（中田隆幸君） 商工観光課長、安竹賢治君。

○商工観光課長（安竹賢治君） 今から、どのような連携をするかということは今年度の検討課題にさせていただきますして、当面はそこに山岳図書館のパンフレット等、あるいは「いかわね新聞」そういったもので対応していきたいというふうに思っています。

また、もちろんその管理運営をする職員の方にも南アルプスエコパークの意義とか見どころ、そのようなものをPRしていくということで、光ファイバー網を使って、こうするという考えは今のところ持っておりません。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） 今の点であります、利用検討委員会というのでこれからの利活用ということで検討されていますので、その中でこういうことも協議していただければ非常にありがたいのかなというふうに思います。

次に、人材育成という面で昨年3月、3回にわたってスキルアップとか、ガイドのスキルアップ等についての研修がございました。町内で7割の方が参加して町外から3割、おおむね15人ぐらいの方が3日間参加をされたわけですが、その中でやはり今でもガイドをやっている方の参加がほとんどなんですよ。新しい人たちではなくて、町外から来た人たちも、

町外の人たちのほうが川根本町のよさ、すばらしさ、自然の豊かさというのを自分たちが発信したいよということで参加されているんですよ。町外の人で若い人というのはほとんど皆無に近いわけです。だから人材育成というのは、今、今年は諸事情で中断というんですか、今年1年見合わせるということになっております緑のふるさと協力隊とか地域の支援隊、そういうものが国の制度であるわけですが、そういう人たちを入れて、地域の活性化を図っていく、地域振興につなげる、まさに必要なことだと思いますが、その辺の人材育成という面について町当局のお考えを伺います。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 一生懸命人材育成をやっているということは承知しておりますけれども、やはり地元の人が純粋に、地元のよさがわからないという認識の人が多いというふうに感じております。その中で、いろいろ国の起案等からも派遣等の手当てもしてございますので、何とかよそから来た人が全国に発信していただくということも必要ではないか、それが引いては地元の皆さんが地元を再認識して、いただけるという方向性になるというふうに考えておりますので、積極的に人材育成には取り組んでいきたいというふうに思っております。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） 外部からのそういう人材の導入というんですか、そういう人たちに来ていただいて、例えば林業なら林業に特化した支援をしていただく、農業なら農業に特化した支援をしていただく、福祉なら福祉に特化した支援をしていただく、そういう考えはないか伺います。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 先ほど農林業センターの話をしましたけれども、私はお茶を生産する方、その方の年間の稼働日数等々を考えますと、やはりお茶だけで対応できる方は非常に少数の皆さんだろうというふうに感じております。その中で、林業も木の駅事業等々も今検討している段階ですので、やはり複合的な生活ができるような形にしない限りは所得の確保というのは非常に難しいのではないかとということで、トーマスの効果もありますけれども、トーマスの効果等については、やはりすき間の産業的なものを開発できるのではないかとというようなことも考えておりますので、特産品効果等々にもっと活発に頑張ってもらえば、発展できるような要素もあるというふうに考えておりますので、やはり複合的な形で所得を得るということも当然ながら考えていく必要がある。

それには、持続的に単独でお茶のみで対応できるという方ももちろんいるわけですが、やはりそれ以外の方、先ほど放棄茶園の話が出ましたけれども、その皆さんはやはり所得に絡んでいるというように感じておりますので、複合的な生活をする。そのような指導も当然ながら私どももしていきたい。

それから、外部の皆さんがいろんな行事のところへ手伝いながら住んでみたいという方が

結構個人的にも聞いております。そのような窓口を当然ながら町が対応する必要があるという  
ことを常々申し上げておりますので、これから具体的にハローワーク等の絡みもあります  
けれども、対応していくことが必要ではないかというふうに考えております。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） 今、外部からの人材の導入、人を招くということで窓口で対応してい  
きたい、ハローワークとの連携も図っていききたいというお話がありました。やはり地域をつ  
くるのはよそ者であり、ばか者であり、若者であるということがよく言われます。その人た  
ちの感性というのは、非常に大切なものであるし、今まで8年間続けてきてくださっていま  
す。緑のふるさと協力隊の人たちの町に与えたインパクト、彼らの残した実績というのは大  
きなものがあるかと思えます。この辺についても来年度以降、前向きな検討をぜひお願いし  
たいと考えます。

それで、3番目のユネスコエコパークの管理計画、これについてはやはり静岡市ではつく  
ってありますので、私たちのところでもやはりその理念に沿った川根本町独自の管理計画と  
いうのが必要になってくるというふうに考えますが、その辺について行政の考え方を伺いま  
す。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 先ほど議員からも話がありましたけれども、コアの地域が大変入山が  
厳しいというような状況がございます。ですので、緩衝地域、移行地域等々で対応する必要  
があるというふうに考えております。いずれにしましても、コアの地域、いわゆる光岳周辺  
が行けないということになりますと、なかなか管理計画も難しいというようなこともござい  
ます。ですので、国有林を除いたところの計画は当然ながら町が対応していくということに  
なりますけれども、今後はやはり林野庁と協調し、または環境省と協調して、対応してい  
く以外はないのではないかとこのように考えております。今現在、残念ながら林野庁の関係で  
は、林道を改修するというような計画は持っていないというようなことを聞いておるもの  
ですから、やはりその辺もいろんな角度からお願いして、やはりまずはお立ち台まで、それか  
ら千頭えん堤を周遊できる、そのようなことを具体的に計画していきたいというように思っ  
ておりますけれども、それから先の40kmというのはなかなか難しいのではないかとこの感じ  
がいたしております。

それからもう一つ申し上げますと、やはり大井川が長野県、山梨県へ抜けていないとい  
うようなこともございます。そのような中で、いかに山梨県と絡んで対応するかということ、  
これは登山道になりますか、一般道になりますか、まだわかりませんが、そのような  
連携も当然ながら対応しながら、やはり山梨、長野に抜ける道路等の検討も当然ながらユネ  
スコエコパークの中で対応していく必要があるというふうに考えておりますし、それは具体  
的に進めようというように思っております。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） 私が今質問させていただいた管理計画というのは、ここに静岡市のものがあるわけですが、例えば施策体験、自然環境の保全とか、調査と教育、地域の持続的な発展、そういうものをやはり具体的な計画、総合計画なんかに含めて、つくっていく必要があるのではないかというふうに感じておりますが、その辺について今ふるさと創生の関係で総合会議を実施されておりますので、そのような中でも議論していく必要があるのではないかというふうに考えますが、いかがでしょうか。

○議長（中田隆幸君） 商工観光課長、安竹賢治君。

○商工観光課長（安竹賢治君） 静岡市が先行して管理計画を策定したというのは、先ほど冒頭町長が静岡市はリニアの関係で先行してやらざるを得なかったということで作成されていたわけですが、それ以外の3県10市町の考え方は、南アルプスを全体的な共通した認識の中で考えましょうということでございますので、各市町単独でばらばらにつくるという考え方ではなくて、一つの何ていうんですかね、静岡市版をたたき台にして、全体的な共通事項をつくった中で、それぞれ最後に各市町の考え方を入れていきたいと思いますという考え方でございます。

具体的には、今年度その管理計画の策定や新たな組織について検討を始めるという段階でございますので、じゃ、来年できるのかという話ではなくて、そのようなプロセスを経て、設計から策定するという段階でございますので、本町は遅いとか早いとかということではなく、そのような歩調を合わせているということで御理解をいただきたいと思っております。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） わかりました。ぜひ早急な整備、管理計画の作成をお願いしたいと思います。

リニア中央新幹線の工事についてということで、静岡市はやはりかなり危機感を持たれていて、独自に環境調査をやられていて、JRがないと言ったヤマトイワナとか、希少種の植物、動植物が発見されているという記事が静岡新聞に出たのは御存じのことと思います。

やはり、昨年現場を視察させていただいて、やはり実際の目で見て危険性を感じたというのは事実でありますし、東海フォレストの方でしたか、説明をされましたが、この1%ぐらいが土砂として畑第一、第二へ流れるだけだよというようなことを言われていましたが、あの溪流に巨大な壁が立ち、景観が南アルプスエコパークの理念にもかなわないようなものが立つという状況、それと1.5tの湧水が生じ、それを水路管で12km先の榎島まで持っていき、そしてそれを持っていくことによって直轄の沢が水枯れをする。そういう危険性も指摘されています。

私たちが対岸の火事ということではなくて、やはり何らかのアンテナを高くして、このリニアの工事については意見を言っていく、そういうことを聞く場を持つ必要があるのではないかというふうに考えますが、町の考え方を伺います。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 水の関係の減水の関係、それと私どもは落水の関係、これは非常に重要な位置づけになるというように思っております。その中で、長島関連の利水者の皆さん、これは下流の皆さんが非常に多いわけですが、その皆さんも大変危機感を持っているということも承知しております。そのような中で、やはり長島ダムを中心とした流域の皆さんが一体となって対応していくということで、会議も余り回数は多くありませんけれども、そのような協議をしているというのが現況でございます。

いずれにしても、大井川の水を一体となって使っている皆さんと共同歩調で対応していくということになるかというように思っております。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） 水のことについては、下流の方は非常に関心があるということですが、私たちは土石流の問題とか、さらに直接的な被害を受ける可能性があります。私たちは遠くで工事を、多分知らないうちに始まって、知らないうちに終わる、そんな感じで工事が進められると思いますが、やはりJR、工事主体の方にここに来ていただいて、やはり今後工事によって生ずる問題についてどのように対処するのか、やはり私は説明責任というのがあるのではないかというふうに考えますが、そのような形でJRの方、関係の会社の方たちに来ていただいて住民の方に説明をしていただく機会を設ける、考え方があるのか伺います。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） それは当り前のことで説明をしていただく機会を持たなきゃいけないというふうに思っております。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） ぜひそうしていただきたいと思います。

最後に、少し聞き忘れた点がございますので、これは二度の議会でも答弁されていますが、多分同じ答えが返ってくるかと思いますが、非常に私はこれが地域の農業の活性化につながるのではないかというふうに考えていますので、再度、最後にこの質問をさせていただきます。

権限移譲という問題です。農地法は農業を守るという目的で設置されておりますが、農地法が足かせになってなかなか土地が動かない、土地を買いたくても2反歩以上ないと農地を買えないという事情があります。

町長の答弁の中でもやはり非常に専門性が必要であるという観点から、小規模な自治体においては県の指導を仰ぎながら適正に法令の運用を行う事務を実施することが町民全体の利益につながるかと考えるということで、何度か答弁をされています。多分同じことが返ってくるのではないかというふうに思いますが、この中で専門的知識を持った人を育てる、外部からそういう人たちを要請する、県に来ていただいて指導をしていただく、そういう考えはないかまず伺います。

○議長（中田隆幸君） 産業課長、後藤泰久君。

○産業課長（後藤泰久君） 農地法の許可に関する権限が移譲されたとしても、判断の内容は変わりませんので、町に許可の移譲をされても内容に変わりはないものですから、今のままと変わりはないと思います。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） 私が言っているのは手続で、県へ行くのが町の農業委員会でやれば、それが1カ月で済みます。それが、県に出せば半年かかったりするわけですよ。だからそれを言っているわけです。だから、地方創生の流れの中で、政令市なんかの手を挙げているのは、そういう権限移譲、特に農地の問題、そういうものの権限を自分たちで国から独立してやりたいという考え方なわけです。だからふるさと創生の中では、そういう問題が入ってくるのではないかというふうに思いますけれども、全く変わらないというのは違う認識だというふうに思いますが、もう一度答弁をお願いします。

○議長（中田隆幸君） 産業課長、後藤泰久君。

○産業課長（後藤泰久君） 農地法の事務手続は約1カ月で許可はおきてきます。変わらないというのは、許可の基準はどこがやっても変わらないという意味で申しました。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） 組織の見直しを図ったり、県へ職員を派遣したりして農業委員会という組織を独立したようなものにするという、そのような考え方をお持ちになっているのか伺います。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 今の御質問ですが、今現在は考えておりません。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） 農業委員会の独立は考えていらっしゃらないということですが、職員を派遣して、職員の資質の向上を図る、県と連携しながらそういうことをやっていくという考えはないか伺います。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 大変多くの問題点があるものですから、やっぱり専門的な知識を得ることは必要ですが、今、具体的にそのようにやるという計画は持っていない。やはり勉強することは必要だというふうに考えております。

○議長（中田隆幸君） 5番、中澤莊也君。

○5番（中澤莊也君） やはり土地の流動化というのが地域活性化の鍵を握っているというふうに私は考えますので、今後組織の改革、人材の育成という面も含め、前向きな検討をしていただきたいというお願いをもって私の質問を終わらせていただきます。

○議長（中田隆幸君） これで中澤莊也君の一般質問を終わります。

ここで、11時まで休憩をしたいと思います。再開は11時からです。

休憩 午前10時43分

再開 午前11時00分

○議長（中田隆幸君） それでは、休憩前に引き続き会議を再開します。

1番、藺田靖邦君発言を許します。1番、藺田靖邦君。

○1番（藺田靖邦君） 1番、藺田です。

今回は主要産業茶の将来構想について、私なりの考え、提案型、質問と提案型がどこの境目かちょっと僕わからないんですが、私としては提案型ということで、質問をさせていただきます。

まずは、現在の状況から考えられる農業施策。二つ目が品評会の今後の展開です。

もう二つ目の質問は、きのうも皆さん井林代議士を囲む会に御出席された方はおられると思いますが、石破大臣の地方創生について熱く語っていただきました。そこで、大鐵のこととか、川根本町が今に消滅してしまう、そんな話もきのうしていただいて、なかなか勉強になる有意義な井林代議士を囲む会でした。

それでは、質問をさせていただきます。

主要産業茶の将来構想について。

昨年3月の定例会で基準がどこまでか定まっていはいないんですが、特農家の皆さんへの対応の質問を私はしました。今回の質問は、川根茶存続のための、先ほど申しましたが、質問・提案がその境目がわからないんですが、私としては提案型質問にしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

労働力が高齢化し、産業の将来が、川根茶の姿が見えてきていることは誰もが認めてきているところだと思います。今年のお茶の状況は気象障害、遅霜、ひょう被害もなく、量・質とも私自身はよかったです。先月5月の全員協議会での資料、JA川根営経の累計、数量124.7%、単価83.6%、量ある、質はよいがお金は出せない相場です。

また、今年度のJA経済連の情勢報告にもありましたが、私自身も今回感じたことなんですが、茶場さんの仕入れが昨年以上に選択買いが強まった感がしました。全国、県下と比べても茶園面積は数%の当地域が消えてたまるかという思いですが、私も町に戻されてというか、何とかいうわけですが、30年余り家業と会社、2本立てで勤めてきましたが、個人工場の限界、大型工場の再編等、問題は幾つもあるんですが、生涯現役の力のある方には体力、知力、続く限り茶業を突き詰めていただきたいと思います。

ただ、今なら間に合う将来構想、生産家の皆さん全体を考えるのではなく、川根本町ブランドの基準を設け生産していく方法を考えて、川根茶の維持、存続にかけてみる手だてが必要だと思っております。先人が培ってきた、残していかなくてはならないもの、ここが大事なんですが、奨励ではなく、基準値でつなげていく方策を考えてみたいと思います。

情報受け入れ、発信はICTでさらに進化させていき、町も少し落ちつきを取り戻しましたので、総合計画を作成していく中で、町長も時々話されるストーリー性を持った展開、産業栽培改革を実行に移すべく、取り組んでいただければと思います。

また、全国茶品評会への出品、挑戦し続けることは当町の宿命、続けてつなげてきてくれています。川根時間、茶園喫茶など、イベント情報の充実、また出品者、受賞者の皆さんにも協力をお願い、また支援するマーケティング戦略も次の質問の地方創生総合戦略の一つになるのではないかと思います。

二つ目の質問はその地方創生です。

日本の未来像にかかわる制度、システムの改革、3月定例会で私も人口減少の質問の関連で答えていただきましたが、国からの指針があったばかりということでそのときは1,000万ほどの補正予算がありました。準備を進めているという回答でした。地方総合戦略、予算計上ができる戦略のための手だてについて、今後の各課への指示、対応について伺います。

演壇からは以上です。

○議長（中田隆幸君） ただいまの藺田靖邦君の質問に対し、町長の答弁を求めます。町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） それでは藺田議員の質問にお答えをさせていただきます。

最初のお茶の将来構想についてお答えさせていただきます。

川根茶は、これまでは品質や知名度で消費地茶商や消費者から大きな期待と評価を受けて生産販売をしております。藺田議員が御心配されているように、ここ数年の気象の影響、そして今年度の荒茶価格と買い手気配の弱さにさらされ、先行きの不透明感が最高潮になってしまったという実感があります。

このような状況のもとで、一昨年度あたりから国や県においては、輸出による茶の販路拡大や需要開拓を目指す方向性が提示され、国内の茶業関係者が取り組みを強化していると聞いております。川根茶産地としては、産地としての生産量が少ないこと、日本人の繊細な嗜好に合った浅蒸し煎茶の産地であること、産地茶商の経営規模が小さいこと、海外においてはこれまで築き上げてきた伝統や知名度が効く購入動機が少ないことなどから、輸出を目指す国内生産茶の流通が海外に向いている今だからこそ、国内での再浸透を目指した展開を図ることがいいのではないかとこのように考えております。

現在においては、お茶単体での販売促進は難しいのではないかとこのように感じております。当町には、清流大井川、美しい茶園風景、温泉、SLに代表される大井川鐵道、そして井川線、新緑、紅葉、河岸段丘や山間に点在する集落の景観など豊富な地域資源がございます。川根全体の地域イメージを徹底的に売り込み、川根地域のファンを創造しながら、川根茶の販売拡大を図っていきたいというふうに考えております。あるいは、昨年度まで行ってきた茶の機能性実証研究成果についても、いよいよ成果が発表される段階に来ているというふうに伺っております。これも、販売のいいチャンスだというふうに考えております。

そして、情報基盤が整備され、情報送受信を双方向で高度に展開できるようになります。茶生産者やお茶屋さん、全ての茶業関係者がICT技術を使える基盤が整ったわけであり、つまり、都市部からの物理的距離を埋めるためのソリューションが実現できるようになったわけであり、町内の住民生活に密着した利活用のみならず、産業分野での活用は住民の所得向上に貢献できるインフラとなりますので、町や観光協会や商工会においてもこのICT環境を活用して様々な情報のやりとりをしていきますが、町民一人一人が、それぞれの思いや期待を込めた川根茶に関する情報のやりとりをしていってほしいと思う次第であります。

そういう現状を認識しながら、今年度から新しい総合計画の策定作業に入りますので、改めて町の方向性を模索し、茶業関係者が共通の認識を有して茶の生産流通販売に取り組むことを目指していきたいと思っております。

茶の生産におきましては、当町は鹿児島県や県内南部の地域に比べて、遅場所であり、単位面積当たりの収穫量や収穫時期において不利な状況が露見してきております。生産効率や生産コスト削減を目指していくことは農業経営においては、規模の大小にかかわらず取り組まなければならない必須課題ではありますが、これだけを目指す方向性ではなく、川根本町でしかできない「銘茶」の生産を維持または再生する方向性を加えていく考えを持っております。イメージとしては、生産においては、「きめ細かな管理と生産」と「茶園共同管理」の両方を産地の中で両立させる、製造荒茶に多様性のある茶産地を目指したいと考えているところであります。

また、販売においては、さすがは「川根茶」と言われるような荒茶、仕上げ茶の商品を再構築し、消費地茶商及び最終消費者が期待感を持って購入していただけるような川根茶産地を目指していきたいと思っております。つまり、これまでの取引先との連携をさらに強化していきつつも、新しい取引先の開拓を第一目標として取り組み、需要先が欲しがる販売を目指すようなイメージであります。

その中で、旨味は施肥技術によりましてどの産地でもつくり上げていくことができる部分ではありますが、香りについてはやはりこの川根茶産地の地理条件により、どこの産地もまねができない部分ではないかと思っております。これを端的にあらわしているのが、全国茶品評会での継続的な上位入賞ということでございまして、川根茶の形状、旨味、そして香りといったものが評価をされているわけであり、その基本的な技術とその伝承を、やはり全国茶品評会でも継続をし、流通茶においても主張していく産地を目指したい。つまり、全国茶品評会の栽培、製造技術を基軸に「川根茶のありよう」を考えていきたいというふうに思っているところであります。

このようなことを、平成29年度にスタートさせる、川根本町総合計画の策定作業において十分に議論を重ね、方向性を示していきたいというふうに考えております。

そうは言いましても、昨今の状況から将来に不安を抱いている茶農家の皆さんがおられる

と思いますから、過日JA大井川に対して営農部門の強化の申し入れをしてみました。現場のきめ細かな対応ができるスタッフ数の増強を求めたものであります。

いずれにしましても、農業者が、川根茶の生産を続けていくことが生計の最善の手段とするならば、また町内の茶商が川根茶を取り扱っていききたいとするならば、まず農業者あるいは茶商ご自身が、自らの状況を自ら分析し、どうしていくかを考えていただきたい、まさにそのような時期に来ているというふうに痛感をしているところであります。

次に二つ目の地方創生に対する各課の対応についてでございます。

今年度の状況と次年度に向けた計画についてお答えさせていただきます。

昨年度、総合戦略に盛り込むための施策を掘り起こすために、職員への制度説明と施策提案の募集を行ったところ、22の施策が提出されました。

現在では、課長級で組織するまち・ひと・しごと創生本部会議を開催し、今後の総合戦略策定に係る検討を実施しており、さらに職員によるプロジェクトチームを設置し、提案内容が具体的に実現可能かどうか、検討しているところであります。

安定した雇用を創出するほか、新しい人の流れをつくるために、様々な人々が交流することができる若者交流センター等の拠点施設を整備する提案や、Uターンを条件とした特別推薦枠による提携大学への奨学生入学制度創設、耕作放棄地の管理を有償で請け負い、新規雇用者を募って管理する母体を創出する等、様々な提案が提出されておりますが、施策として具体化するためには引き続きプロジェクトチーム等で十分に議論と検討が必要な状況となっております。

また、町内の住民代表等に加え産・学・官・金・労等で組織する総合計画策定委員会からも意見等を伺いながら総合戦略を策定していきたいというふうに考えております。

町の総合計画との関連、連携について説明させていただきますけれども、地方創生総合戦略は、町の人口減少に歯どめをかけるために、地方の特色を生かした戦略的な施策を講じるためのものでありまして、まちづくりの総合的かつ基本的な施策の方向性を定める総合計画の柱となるものであることと考えております。

また、人口推計や人口減少に関する施策の方向性等は関連したものでなくてはならないため、総合計画策定委員会という同じ組織において総合戦略及び総合計画をあわせて検討していくことをしております。

今後のスケジュールであります。国からは平成27年度中に総合戦略を策定することとされておりますが、平成27年10月末日までに策定する市町には、地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金の上乗せ交付が申請できる等の措置がありますので、極力早期に策定したいというふうに考えております。

また、次年度以降におきましても、総合戦略に盛り込まれた施策を実施しながら設定した重要業績評価指標の検証を行っていくこととなります。

以上でございます。

○議長（中田隆幸君） 再質問を許します。1番、藺田靖邦君。

○1番（藺田靖邦君） 今回、お茶の質問は4人ほど私と野口さん、坂本さん、実際お茶を経営しているんですが、しているがためになかなか難しい考え方というか、再質問も私も悩んだんですけれども、まず一つ目の再質問をさせていただきます。

茶農家の皆さんの全体の収入の底上げ、入り口と出口のことは私自身もわかっているんですが、生産家、JA、茶業者それぞれの努力の話になってきます。先人の方々が培ってきた産業をどう残す、そのための提案です。極論、私が言うことは格差がつく、そんな話になってくるんですが、川根本町基準をクリアした茶の販売、そうしたものの挑戦も必要になってくるのではないかと考えています。その格差と基準で付加価値がさらについてくると私自身は思っているのですが、町の考える付加価値について伺います。

○議長（中田隆幸君） 産業課長、後藤泰久君。

○産業課長（後藤泰久君） 現在の町内の茶農家は農業経営として川根茶を守っている農家と、茶園を引き継いで勤めながら維持程度の兼業農家と分かれるかと思えます。つまりは、品評会クラスの農家から、時間に制約されて思うようにできない兼業農家まで混在している状況だと思います。ピラミッド形式で言いますと、トップが少なく底辺の兼業農家が多いような状況ではないかと思えます。川根茶の中でも様々な品質のお茶が生産されておると思えます。この川根茶の品質を守るには、ある程度の区分というんですか、区分けをして製造する必要があるのではないかと考えています。高級茶、または健康茶等の付加価値をつけた商品によりまして、消費者、または茶商さんが求めるようなお茶をつくっていくのが重要かと思えます。

○議長（中田隆幸君） 1番、藺田靖邦君。

○1番（藺田靖邦君） 今、産業課長のお答えあったんですが、確かに私もちょっと厳しい言い方、行政、農政というのは全体を見渡さなきゃいけない、それはわかっているんですが、今の状況からはやはり残すことには基準、格差がないとやっていけない、高級茶志向という考えは正しいことではないかと私も思っております。

二つ目の質問に行きます。

昨年、議員研修で宮崎県の綾町にお邪魔しました。環境も当町と似ていて、平成24年にユネスコエコパークにも登録された町で、自然生態系農業、徹底した有機質栽培で条例も定めていました。私が考える続けられる生産性の三つの原則、収益・持続可能・技術開発を考えると、本当は農薬まで私は引っ張りたいたんですが、化学合成物質を排除した茶の生産の取り組みが川根茶プラスアルファに結びついていくのではないかと。ここが私の提案型、理想なんですが、綾町の場合は危機管理体制が重なって、産業の取り組みができた町なんだと思いますが、当町は危機的状況からではなく、間に合う状況の中で栽培計画を模索してみたらと思いますが、どうでしょう。

○議長（中田隆幸君） 産業課長、後藤泰久君。

○産業課長（後藤泰久君） 川根茶の生産につきまして、やはりいろいろな地区よっての考え方もあるかと思ひます。また、有機栽培、また無農薬のお茶の生産については、地域よってやはり町内には長野地区とか、松尾地区、尾呂久保地区、坂京接岨地区など、無農薬に対応できるよな地形の集落もあひます。それには、地域全体の合意を得て、茶工場の合意を得て取り組めば、その地区の特色のあるお茶をつくることのできるかと思ひます。そうすれば、飲むお茶ばかりではなく、食べるお茶とかというよな生産にもつながってけるかと思ひます。

いづれにしても、販売を見据えた上での地域全体での議論が必要であるかと思ひます。

○議長（中田隆幸君） 1番、菌田靖邦君。

○1番（菌田靖邦君） これから先考へることは、やはり川根茶は有名ですので、そのプラスアルファの方策と、あとは行政からはPRプラスアルファの方針、こんなこともまたJA、各種団体に働きかけてお願いをしていていただきたい、要望いたします。

次に、少し「おくひかり」のことですが、またあと質問される方もおられると思うんですが、先にちょっと言わせてもらひます。すみません。

演壇で奨励から基準値の質問を私したんですが、奨励品種のおくひかりのことです。私もJAの役員をやっているころ、黒ラベル、赤ラベルという商品で売り出したんですが、主流がどっちにしてもやぶきたが中心なもんですから、それを売れる力が整わないということは事実なこともあひまして、だからどうするかということは、町のやり方も変えていただきたいことがあるんですが、栽培方法の改善で町のストーリー展開、PR、物語が出てくると思ひますので、生産家の皆さん、JA、営農、農政、連携の中で、先ほど町長も言ひましたが、浅蒸しという言葉、ここは形状・もみ、主流産地は当町だけの強みになってきましたので、その辺も使って強い売りに出るといふ、そういう方策も必要、また先ほど町長申してくれましたが、29年度からの10カ年総合計画にのせていただけるといふことで、そういうこともまた頭に入れて進めていていただきたいなど、そんなことを思ひます。

また、この地域の考へ、形成要因は複数あひますが、川根茶はその最大要素だと私自身考へます。将来も変わらない、変わってほしくない、それが町民の皆さんの考へる思ひではないんでしょうか、と思ひます。

町の総合計画、実行計画に位置づけて町民の皆さんの思ひに答えていただきたいと思ひますがお願いいたします。

○議長（中田隆幸君） 産業課長、後藤泰久君。

○産業課長（後藤泰久君） おくひかりにつきましては、適採期の分散や工場の操業期間の延長の期待といふことで、過去、町、JAで戦略品種として奨励をしてきました。現状では、茶商の引き合いが弱い状態であると伺っております。また、ヒロオの生産者の皆さんでは、一番茶終了後販売方法等自分たちで行動を開始していると聞いております。行政の役割としてはやはりPRをしていくといふことで、ただ1,000パックを配るのではなく、飲んでいた

だいて、おくひかりのよさをわかっていただいて、販売につなげていくというような方針で進めていきたいと思えます。

○議長（中田隆幸君） 1番、藺田靖邦君。

○1番（藺田靖邦君） いずれにしる私もJA役員当時は買い取りからあつせんということで、なかなかつらい時期をずっと過ごしてきたんですが、町の奨励品種おくひかり、大事なことなんですが、どこが主流かというのは、やはりやぶきたが中心で、分散型でおくひかりを植えたわけですけれども、せっかく奨励しているものですから、きょうは基準ということで奨励から基準、基準値を変えるとはどういうことか。

おくひかりというのはやはり栽培を変えて、この栽培でやっているからこういうことだよ、川根本町のおくひかりは、そういったPR、またヒロオ農園さん、いろんなおくひかり植栽されている方はおるんですけれども、またその辺の共同体の皆さんとも話し合いをしながら、いろんな形であそこに植えてあるおくひかり、これから先の展開を私も期待しておりますので、よろしく願いいたします。

四つ目の最後の質問としますが、先ほどの理想の提案の中で、生産性の三つの原則、私言いました。収益・持続可能・技術開発を上げさせてもらいましたが、やはりそこには人材、当然必要なことです。そこでどこまでが若手というか、私もわからないんですが、40代以下の限られた人数の担い手、川根茶の今現在の担い手、そこにもかけてみたいという思いがあります。今なら、今のことを立ち上げていけば、先人が築いてきた川根茶を継承でき、さらに発展できると信じたいと願っています。現在の町の継承者に対しての考えを示していただきたいと思えます。

○議長（中田隆幸君） 産業課長、後藤泰久君。

○産業課長（後藤泰久君） 人材育成につきましては、後継者の育成ということで、川根本町には農林業センターがあります。ここを舞台として技術伝承の場をつくっていきたくて考えております。農林業センターに農業者が集っていただきまして、農業を学び、相談相手がいって、研究ができるという施設となれば技術の伝承や、また新しい取り組みができると思えます。3反歩以上の後継者は、産業課の調べですと、約500戸の農家のうち、2割程度が後継者がいるという推計しております。新規就農者も4名ほどおります。その方たちと先輩たちと出会いの場をつくって、技術の継承をしていただきたいと思っております。

また、かわねフォンが整備されますので、そのような技術講座の開催や各種実験の実施のお知らせなど、今後は発信をできると思えますので、有効に使っていきたくて思えます。

○議長（中田隆幸君） 1番、藺田靖邦君。

○1番（藺田靖邦君） 農林業センター、せっかくありますので、苗場だけではないです。品評会のもむところだけではないです。今の課長のお答え、研究開発、技術開発、これから2割程度おられる若い方たちがいるということですので、やはり自分自身も50を過ぎて、60ぐらいになるんですが、これから先その世代にかけていかないと石破大臣の話ではないで

すが、消滅、そういったことにならないように、まずその人たちをどう鍛えてというか、つなげていってもらえるか、そのことに皆さんは考えていただかないと川根本町が残らない。先ほど言ったこの主要産業はお茶ということですので、これをつなげて未来永劫までいかなきゃいけない。そんなことを私強く思っていますので、また皆さんの御努力もかりながら、私自身も茶業経営者として努めてまいりたいと思います。

一つ目の質問はこれで終わらせていただきますが、二つ目の質問、地方創生に入ってよろしいですか、議長。

○議長（中田隆幸君） はい。

○1番（藺田靖邦君） まず、地方創生、一つ目の質問ですが、時期尚早のところもある、10月末までに上乘せがあると町長が言ったものですから、急いでやっていただいたほうが補助金も多く出るということですので、いずれにしろこれからの作業予定、日程の中でも課のほうから全協等で説明があると思いますが、3点ほど伺います。

最初の町長の答弁で、たしか施策提案を募集し、22の施策が提出されたという説明がありました。人口減少対策としてどのような施策に重点を置いて進めていきたいとお考えですか。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 人口減少につきましては、特効薬がないということであらゆる手段を対応しなければいけないというふうに考えております。先ほども質問にお答えしましたけれども、やはり幼児からお年寄りまで、それぞれ全体を大切にしない限りは人口の増はないだろうというふうな思いがあります。

特に、今現在、先ほどはホテルの話で大変お年を召した方が先頭になって全国大会を開催していただいたということがあるものですから、お年寄りの経験、知恵等も含め、また若者の皆さんには子育ての世代の皆さんには、それに対応できるような対応をしていくことが必要だというふうに考えておまして、いろいろ皆さんから提案のあったことを一つ一つ組み入れながら、全体的な形をつくっているというのが現在ではないかというふうに思っております。これからもまだまだいろんな施策を打たないと、なかなか人口減少の歯どめはかからないだろうという思いがございますけれども、先ほども申し上げたとおり、ここに住んでいる皆さんがまずは自分自身の住んでいるところを誇りに思って生活できる、そのような環境づくりは行政として一番大事なことではないかというふうに思っておりますので、今まで以上に積極的に具体的な対応をすることが必要になってきたというふうに思っておりますので、それぞれ皆さんから提案をいただいたことを具体的に進めていく、早急にやるのが大切だというふうに感じております。

○議長（中田隆幸君） 1番、藺田靖邦君。

○1番（藺田靖邦君） 人口減少、なかなか年間150人も、私も3月定例会で少しその話もしたんですけれども、150人程度毎年毎年減少していくということですので、この地方創生を使っていろんな考えをまた努めてやっていただきたいなと思っております。

二つ目の質問です。

今、私ICT利活用委員会の委員でもあるんですが、次の委員会から各課への対応として、各課意見を聞いていきます。地方総合戦略の策定に当たっては、様々な分野における施策を検討していかなければならないと思いますので、各課横断的に協議しながら進めていかなければならないと思います。幅広い視野で提案を考え、実行に移していただきたいと思いますので、その辺の各課へのもう一度対応といったところをお話ししていただければと思います。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 今出てきた提案が22という説明をしましたがけれども、これに付随する形のものをもっともっとたくさん出ております。ある程度方向性を集約したのがそのぐらいということでございます。これも今の段階ではもっともっといろんな制度を絡めながら対応していけば、もっと効率的なものができるのではないかとこのように考えております。一つの事業で解決するという話ではなくて、網の目のように絡めてやる施策も出てくるということですから、当然ながら課長レベルではなくて、全職員、町民の皆さんにもそれぞれの立場から意見を発表してもらい、そのような対応をしない限りはなかなか前へ進んでいかないのではないかとこのように考えております。

○議長（中田隆幸君） 1番、藺田靖邦君。

○1番（藺田靖邦君） 今、町長、各課職員、それ以上のメンバーということを言われました。私は以前、子供会議の話をしたんですけれども、当然日本の未来像にかかわる制度、システムの改革ですので、これからの日本、地方の方向性、子供たちにとって大事な課題だと思います。教育の中で話をすることはあると思いますが、改めてお願いしたいんですが、児童生徒さんの軟らかい思考、将来展望を考える時間をつくってほしい。子供さんの意見を聞いて、それも集約して、いろんな意見があると思うんですけれども、その中には我々にはない頭の考え方があるものですから、それも地方創生の中からどこかに入るんじゃないか。そんな会議をぜひやってもらえたらと思っているんですが。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 今の質問と言いましょうか、提案は非常に大事なことだと思っております。やはり先ほどのお茶の販売の関係も具体的に申し上げませんでしたけれども、農家の皆さんが何人かそろって販売を考えようというときには、なかなか対応が考えられないという経緯もこれまでございました。その中に、異業種の方が何人か入ると展開が変わるということもあるものですから、今言われたように、子供から大人、お年寄りまで、一体となった対応をしていくことが本来の町の構想ではないかとこのように思っております。やはり全て専門家という方はおらなくて、自分の不得意な分野も聞き入れることができる、そのような組織にしない限りは前へ進まないだろう、やはりどこかへ行って、当然ながら壁にぶち当たってしまうというようなことがあると思いますので、やはり発想が柔軟ないろんな方の意見を聞きながら進めていくということは非常に重要な要素だということに考えております。

○議長（中田隆幸君） 教育長、大橋慶士君。

○教育長（大橋慶士君） 少しこれは私の守備範囲を超えますので、総合計画とそれから地方創生を超えるので、これはあくまでも私の考え方ということでお聞き願いたいと思います。

実は総合計画というのは、これは10年後とか5年後の町の未来を考えた上でつくる政策ですね。ですから、当然のことながら各課がそれぞれの施策というのを展開していくかと思えます。それに対して、地方創生戦略とうたっているんですね。戦略とうたうからには、ある突破口というのをつくらなくてはいけないということですね。ですから、ある基軸を持って、それでいわゆる人口減少という歯どめをかけるという、その突破口をどこにするかということになるかと思えます。

ですから、議員の方々、最初恐らく研修なさったと思いますけれども、国が示したもののというのは、各省庁が考える突破口は何かということで示されたと思います。それもいわゆる日本全国での先進事例をもとにしての突破口なんですね。だから、どれをとるかということになるかと思えます。そのどれをとるかということで、例えばこの町の強み、弱みというのをきちっと捉えた上で、その突破口をいかに基軸を設けてやるかということになるかと思えます。

ですから、子供創成会議、子供のいわゆる議会ですね、これは総合戦略に盛り込むことは私はいいと思いますけれども、地方創生については、これは突破口というのはこれはある程度トップダウンで決めなきゃいけないことではないかと私は思っております。

以上でございます。

○議長（中田隆幸君） 企画課長、山本銀男君。

○企画課長（山本銀男君） 子供議会というものを8月10日に実施するというので、企画課のほうで学校関係者、教育委員会等と調整をして進めております。これは小学校高学年、各小学校2名、中学生各2名ということで、合計12名の者を学校のほうを通しまして、質問等につきましても、各学校の先生と打ち合わせをした中でやっていきたいと思っております。

ただいま教育長のほうからありましたように、これは総合計画策定のための子供議会という形で実施をしたいと考えております。その中で若い世代の意見が出ることを町当局として答弁をして、そこで企画として計画の中に盛り込んでいける形を実施していきたいと思っております。

以上です。

○議長（中田隆幸君） 1番、藺田靖邦君。

○1番（藺田靖邦君） 実に、教育長の厳しい戦略の話をお聞きしたので、私も肝に銘じてまたやっていきたいと思っております。

今回二つの質問は、将来・未来につなげていく町の姿の質問でした。現状分析と、将来予想を踏まえた中長期を含めた数値目標の設定の上、従来の取り組みの沿線上にあるもの、またないものに次元の異なる大胆な施策をお願いして質問を終わります。

○議長（中田隆幸君） これで、1番、藺田靖邦君の一般質問を終わります。

坂本政司君、発言を許します。2番、坂本政司君。

○2番（坂本政司君） 2番、坂本でございます。

私も通告に従いまして、2点の質問事項について伺います。

まず、1番目の質問でありますけれども、豊かな自然環境を生かした地域振興についてということでございます。

我が町には南アルプスに連なる緑豊かな山々、間ノ岳を源とする大井川、そしてきれいな空気、それらを総合したすばらしい景観など、自慢できる自然がたくさんあります。

しかし、現在のところこれらを活用した取り組みはまだ不足していると感じております。いわば宝の持ち腐れと言ってもよいのではないのでしょうか。大変もったいないことであり、これから活用が期待をされるころだと思えます。身近にあるこれらの山や川、自然景観をもっと活用するために、3点ほど質問及び提案をしたいと思えます。

まず、1点目でございますが、豊かな流れの大井川を活用しアユで地域振興、まちおこしをされる考えはあるか伺います。

豊かに流れる大井川は、使用料はいりません。光熱費もかかりません。ほんの少しの投資をすることでこの地域に多くの経済効果が期待できるのではないのでしょうか。きれいなアユ、大きなアユが釣れるという評判が立つと、遠くからでも釣り人は訪れます。訪れた釣り人はこの地域へ車で来た人はガソリンも入れるでしょう。また食料品等購入も期待できます。そして、旅館、あるいは民宿などにも宿泊をされる方もいると思えます。皆さんアユ釣りをされない方がアユと聞きますと、趣味、あるいは道楽の類いぐらいにしか思われなないと思えますけれども、この鮎釣りにも必ず経済活動というものが付随しております。多くの釣り人が訪れてくれれば、少なからず地域経済に影響を及ぼすことも事実であると考えます。

以上のような理由によりまして、アユで地域振興をされる考えはあるか伺います。

それから、2点目でございますが、県道、国道沿いの絶景ポイントに駐車場つきミニ公園の設置をという提案でございます。

大井川の流れ、南アルプス前影の山々、大井川鐵道のS Lなど、四季折々に見せる絶景がこの地域にはたくさんあります。公園を整備することにより、観光客に絶景を存分に堪能してもらえる。また、休憩場所にも利用できるのではないのでしょうか。そういったおもてなしの意味も込めて、ぜひ設置をしていただきたいという提案でございます。

3点目ですが、大井川沿いの山を利用し、パラグライダーの離陸場所設置をという提案でございます。

昨今はレジャーの多様化によりまして、パラグライダーの愛好家も増加傾向にあると聞いております。既に御存じの方もおられると思えますけれども、久野脇、そして葛籠の間の木を切った伐採跡ですけれども、その山からこのごろ愛好家の方が試験フライトを行っているということです。ここは鶴山の七曲りが一望できる大変すばらしい場所でありまして。高低

差があります。そして気流も安定しているということでございまして、離陸場所としてうってつけの場所であるということでございます。ほんの少し整備をするだけで、利用でき、町内外から多くの人が訪れ、交流人口の増加にもつながり、将来的には地域活性化にも貢献できるのではないのでしょうか。ほかにも町内のそういう場所をぜひ調査をしていただき、可能であれば離陸場所の整備をし、町の活性化につなげるような方策をとっていただければありがたいと思います。

それから、2番目の質問事項ですが、今年度の先ほどから中澤議員、そして菌田議員の質問にもありましたが、お茶の関係でございませけれども、今年度の情勢を踏まえ、主要生産物である川根茶のこれからのあり方についてということで質問をさせていただきます。

今年が一番茶は気象にも恵まれ、昨年のような遅霜、ひょうの被害もなく、順調に生育しました。生産者は皆さん今年こそと思っておられたと思います。

しかし、実際にお茶が始まってみますと、最初こそそこそこの滑り出しだったような気がします。中盤以降大変厳しい茶価となり、販売に苦しむ茶工場等も出てきたようでございます。終盤になりますと、本当に近年にないような価格となり、対策に苦勞された工場が多数あったように伺います。特に、遅場所と言われる地域では大変厳しい一番茶となったようでございます。このような状況を踏まえ、町として将来に向けた対策、取り組み方を伺います。

以上の質問について答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（中田隆幸君） ただいまの坂本政司君の質問に対し、町長の答弁を求めます。町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） それでは、坂本議員の質問に対しましてお答えをさせていただきます。

まず初めに、豊かな自然環境を生かした地域振興から、大井川を活用し、鮎で地域振興をする考えはないかというような質問でございました。

坂本議員におかれましては、我が町の豊かな自然環境、つまり南アルプスユネスコエコパークのあり方として、これまで余り話題となっていなかった資源に着目をされたこと、また地域振興を図っていかうという御提案をいただきまして誠にありがとうございます。

我が町を流れる大井川は、溪谷があり、嵌入蛇行、河岸段丘など特徴的な地形を形成し、「水の郷百選」、「静岡県のみずべ100選」にも選定される河川環境、河川景観を有しております。企画課において、平成23年度まで環境モニタリングを調査し、建設課においては河川及び周辺整備を関係機関と調整しながら進めております。

また、産業課において、森林整備計画に基づき適正な森林管理を実施し、大井川に注ぐ溪流の環境を維持する森林管理に努めております。これは、町の総合計画における「水と森の番人が創る癒しの郷 川根本町」という町の取り組みに象徴されているように、大井川という町民の心のよりどころを守り、育ててきております。

さて、この大井川には天然アユが生息し、漁協による稚アユの放流等が従前から行われ、

島田から友釣り用の友アユ販売店が点在し、年によってばらつきがありますが、釣りの愛好者が訪れる内水面の漁場であります。以前にはアユの梁漁等々も行われたという経緯がございます。

内水面釣り客は、日帰り客もたくさんおりますが、その漁場景観や地域の特徴、そして地域の食材を楽しむ傾向があるというふうに考えております。私も実はアユ釣りをやりますけれども、その中で我が町の自然を楽しむ、エコパークそのものを幼いころから実感しているなということを改めて感じております。

我が町が南アルプスユネスコエコパークの中において、非常に魅力のある資源だというふうに考えております。トランジションゾーンの楽しみの一つとして大きな位置を占めるのではないかというふうに思っております。エコツーリズムネットワーク協議会事業として、友アユの販売にとどまらず、釣り客への多彩なサービス、友釣り教室なども企画できるであろうというふうに考えております。

さらに、大井川の活用としましては、平成15年度のNEW！！わかふじ国体、その後の大会の誘致、川根高校カヌー部の創設と、皆様御存じの活躍、そして現在のエコツーリズムネットワーク事業と、カヌーがもう一つの資源として大きな可能性を秘めております。

我々、水と森の番人としては、この豊かな大井川の恵みをここに居住する我々が楽しみ、多くのお客様に御提供できるような体制をつくっていくことが、これまでとは異なる視点で体験型観光客誘致となり、多くの方に自然の恵みを実感していただける地域をつくっていただけるのだというように考えております。

次に県道、国道沿いの絶景ポイントに駐車場付きのミニ公園整備をしたらどうかという提案でございます。

本町へのアクセス道路に沿って大井川の景観、茶園景観、全国的にも珍しいSLの走る風景が続きます。また、大井川支流に入りますと新緑・紅葉、直下に見えるダム風景・ダム湖面の風景があり、訪れた方々に感動を与えるものであり、自慢できる資源と確信を持っているところであります。

現在、大井川を上流に上ってきますと、公の駐車場あるいはミニ公園があるのは、塩郷駅下流の清流公園、塩郷駅前とダム上流の元松島キャンプ場売店駐車場でございます。公の施設では茶茗館・長島ダム周辺に駐車場がございます。それ以外にも個人の所有する駐車場などもあり、様々な場所で風景を楽しんでいただいております。

国道・県道沿いに遊休公有地が存在する場合は、景観整備の必要性や地域活性化が図られるという判断ができれば、将来の管理方法も含め、検討する必要性はあるものと考えております。

なお、この地域には個人の所有地でもすばらしい景観が望める場所が、かなりあるのではないかと考えております。所有者が場所を有効利用してお茶を飲ませて販売につなげ、お茶に限らず他の商品、野菜等も、御商売につながっていくのではないかと考えてお

ります。訪れた方々へのおもてなしとして、このような独自の取り組みを行う中で、町はある支援も含めて、どういう支援ができるかという検討をしていく必要があるというふうに考えております。

当面、現状、あるいは駐車場や公園から見える景観を保持するための景観整備に力を入れてまいりたいと考えております。

議員におかれましても、具体的にこの場所は絶景ポイントになり得るというところがございましたら、御提案をいただければありがたいというふうに考えております。

次に、大井川沿いの山を利用して、パラグライダーの離陸場所を設置という御質問がございました。

今年度に入りましてもパラグライダーが地名地区、久野脇地区の上空を飛行しているのを何回か見かけたことがございます。

私のように、パラグライダーというスカイスポーツ自体に知識が乏しい者は、このスポーツは富士山周辺の広大な草原で行うものであり、山間地域ではリスクが多く、場所としては適さないという認識でございましたけれども、愛好家にはこの大井川、特に鶴山の七曲がりから空から見る景色はすばらしいと感激をしているようなこともお聞きをしております。

今までにない御提案でございますので、このスポーツ自体をもう少し勉強していかなければ町で整備するとか、地域活性化になるとかの判断が今現在できないということで、大変申し訳ありませんけれども、これから愛好家の皆さんとともに、研究を重ねていきたいというふうに考えております。

続きまして、川根茶のこれからの茶業というお話でございましたけれども、先ほど来、お二人の議員の皆さんにも御質問にお答えをさせていただきました。

今年の春を思い返せば、ここ数年心配していた凍霜害や低温の影響がほとんどなく、多少の降雨や日照の不順があったけれども、一番茶が順調に生育をし、生産農家、そして町民誰もが久々の茶の好況に大いに期待を寄せていたところであったと改めて思い返しております。

ところが、一番茶の中盤から今言われたとおり、収穫は昨年比で増収となる予測が立てられる状況になってきて、一方で荒茶価格が極端に低調な結果となりました。終盤には、早場所での買いつけにより仕入れ手当てが完了してきているという消費地茶商の動向を受けて、産地問屋からの荷動きが一層鈍くなったという話を伺っております。遅場所が、茶の取引において不利になる様相が高まってきているということになっております。

この傾向は、今年のお茶の販売量がかなりの量をこなせて、今年の年末ぐらいの在庫数量がなかなか低い状況にならない限り、来年も引き続き、そして同様の傾向が当面の間続くというふうに予想しております。

このような中でも、比較的安定した農業経営をされている農家もおられることも事実でございます。それは、自販に取り組みされている農家、あるいはかなりよい品質の生葉収穫と出

荷を実現した農家であります。

そうは言いましても、全体として見れば、茶生産者のやる気をそぐような荒茶であることは申すまでもなく、生産者の努力だけではどうにもならない、期待感が持てない状況が続いているという認識をしたというのが今年の状況でありました。

川根茶の流通の拠点は、大井川農協営農経済センター及び産地の茶商であります。その流通業者も消費地の荷動きに苦慮している状況にあるわけでごさいます、生産、製造、流通、販売の各部門で苦勞されている様相でごさいます。

この状況を、茶を取り巻く社会経済の前提条件と考えるとすると、ここは我々産地自らが状況を打開し、切り開くしか道はないものと考えております。

川根茶の荒茶流通が産地問屋機能を持つ産地の茶業関係者をスタートとしているわけでごさいますので、茶消費地茶商との情報共有や連携提携体制を強化していただいて、生産者はJAを介しながらも産地問屋と極めて密接な情報共有と連携提携体制を構築し、選択買いに対応できるよう良質で、消費地茶商から指名で求められる茶の生産を行っていくことが重要だというふうに思っております。

同時に、我が町には全国茶品評会で常に上位をうかがう出品者、消費者から直接御指名をいただいている茶農家や茶商がおられます。そして自ら都市部に販売に出向いて自分のお茶と川根茶を広報宣伝しながら茶の販売を行っている茶農家や茶商の活動もごさいます。さらに、最近では川根茶をお茶の講座などで活用の問い合わせや報告が多くなってきております。

このような、内部、外部での消費地と非常に密接なかかわりを持つ活動を拡大して、川根茶に対する市場や消費地茶商、最終消費茶の期待感を高める策を講じてまいる所存であります。

今年度、日本で最も美しい村連合への加入を目指すなど、南アルプスエコパーク認定の当町の資源と温かな町民気質をしっかりと訴求して体制を整え、川根茶の販売につなげていきたいというふうに考えているところであります。

以上でごさいます。

○議長（中田隆幸君） これで暫時休憩をしたいと思います。

再開は午後1時より再開いたします。

休憩 午後 零時04分

再開 午後 零時59分

○議長（中田隆幸君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

再質問を許します。2番、坂本政司君。

○2番（坂本政司君） 先ほどの質問に対しまして、御答弁、前向きな答弁、また後向きな答弁もありましたが、ありがとうございました。

まず、第1ですけれども、アユでまちおこしをということから、お願いしたいと思います。私も含めてそうなんですけれども、少しでもアユが釣れるよということになりますと、本当に幾ら遠くても出かけていきたくなってしまうというのがアユ釣り師の心情だと思っております。この中にも私が存じ上げるだけで、私を含めて幾人かやられる方があるので、わかると思いますけれども、もし、アユでまちおこしをするということであれば、多分放流をするということになると思いますけれども、その時期ですとか場所、あとはどのぐらい放されるのかということをお聞きしたいと思っております。よろしくお祈りいたします。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 先ほど冒頭でも答弁の中でも申し上げましたけれども、実は私もアユ釣り大好きです。そのような中で、少しいろいろ考えてみななければいけないなというふうに思っているのが一つあります。と申しますのは、坂本議員も御存じのとおり、特に岐阜県が有名ですが、馬瀬、益田川、もちろん長良川も入りますけれども、その皆さんのところへ民宿が多いんですが、行ってびっくりするのは宿泊と次の日の弁当代、またおとり代と入漁料、それらを含めると、半年というよりは四月ぐらいだと思いますけれども、そのぐらいで年間の食べていけるぐらい収入があるという話をどちらへ行ってもお聞きをしております。特に近年で言いますと、一昨年、この大井川は私の知るところでは、大きな魚がたくさん釣れたというのがこれが全国一番でした。おとしです。それで大変多くの皆さんが川へ入って釣られたという中で、この大井川はそのような対応が非常にできていないということで、おとり屋の数も少ないということがございまして、集中したということもありましたけれども、大変多くの今のトーマスぐらいの車が来るぐらいの状況があったということも事実でございます。そのぐらい経済的な効果があるということも十分認識をしております。

その中で、今から25年ぐらい前になりましたら、長島ダムが建設中のころ、旧の本川根町で試験的に当時はそんな量的に多くなくて100kgかそのぐらいだったと思いますけれども、その魚を放流したということをしてしまえば、大変溪谷のところで深いところがあるというようなこと、それから石が大きいということ等々、条件が整ってまして、これまた大変大きな魚がたくさん釣れたということで、全域に広がるぐらい釣れたというのを経験しております。当時、長島の周辺の人、長島、梅地の人がアユという魚を知らなかったんです。と申しますのは、ヤマメとかイワナは知っているけれども、アユはダムの関係で上らないということでは知らなかった。しかし、おとり屋と民宿は大変な盛況であったということも当時のことを十分私自身は知っております。

そのような中で、今後この大井川、これは、川へ行って子供さんが魚を釣るということは環境教育にもなるという前提からいきますと、大きな資源であるというふうに思っております。

そのような中で、これは漁協が大井川には上流が管理が新大井川漁協、それから下流が大井川漁協と別れておりますけれども、川根本町は新の大井川の漁協の区域に入っているということがございます。これは町でやるにしても、当然ながら漁協の皆さんにお世話になって放流をするというようなことが基本的に決められておりますので、その辺も話し合いをしながら、今後どうしたらいいだろうということを具体的に進めていきたいと思っております。100%観光の資源になるということは、私自身も確信を持って言えるというふうに思っております。

その中でもう一つ、今長島ダムの湖面利用はやっておりますけれども、あそこへも新と旧の大井川の漁協がマス放流してあります。そのマスが今70cmぐらいになったということで、時々ルアー等で釣れるということで、大変大きな話題になっているということも承知しております。これも当然ながら漁協の皆さんにお世話になって対応するということになりましてけれども、やはり町でもそのような観光資源に対しましては、投資をすることも必要であろうというふうに思っておりますし、今それぞれの漁協が義務放流的にやっておりますけれども、義務放流以上の放流をすれば、確実に魚は釣れるということは十分わかっておるものですから。その辺の兼ね合いも含めながら当然ながら対応していく必要があるだろうと。ちなみに新の大井川漁協は2,500kgぐらい、それから旧の大井川漁協は2,000kgぐらいを毎年放流しておるということで、大変大きなお金をかけておりますけれども、今現在は漁業者の数が減ってしまったということもあるものですから、地元だけの組合員での対応は漁協の運営も非常に大変だということもあるものですから、そういう兼ね合いも含めると、やはり川の環境を守るためには、多くの人に川へ入っていただくということも必要ではないかというふうに思っております。当時カヌーがまだ地元で根づいたばかりのころ、やはり大井川から川のマナーを発信しようということも取り入れたことがあります。といいますのは、魚を釣っておりますと、カヌーが非常に邪魔なんですよね。それで、カヌーをやる人は釣りをやっている人が非常に邪魔なんです。そういうこともあるものですから、お互いに手を挙げて挨拶するというようなことで、それぞれが理解し合おう。それが大井川からの環境のマナーであるということも提案していけば、今ユネスコエコパークに登録された中では、それぞれの環境を守りながら対応しているということでPRにもなるのではないかとということで、今具体的に先ほど数字を言えという質問ありましたけれども、そのことにつきましては、やはり漁協との協議の中で対応することが必要というふうに思っております。大変ありがとうございます。

○議長（中田隆幸君） 2番、坂本政司君。

○2番（坂本政司君） 大変ありがたいお言葉が町長の口から出ましたけれども、絶対にやるということで理解をしてよろしいということでしょうか。お伺いいたします。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 個人的な判断からすると、やりたいなと思います。しかしながら、先ほどから申し上げているとおり、漁協というのがございまして、やはりその皆さんにも当然

ながら放流のとき等にもお世話になるし、またどういう魚を放流したらいいか。アユが一番だと思いますけれども、そのほか、ヤマメを入れるか、ウナギを入れるか、普通のこの辺で言う雑魚というウグイを入れるか。その辺については調整しなければならないということもありますし、最初から友釣りを皆さんやってくださいと言っても、なかなか大変なものですから。まず最初には、初心者向けには普通の毛針でやったり餌をつけてやったりという魚を魚種にするのか。その辺はやっぱり漁協と慎重に協議しないとちょっと町だけの判断ではできないというふうに思っております。

つけ加えて申し上げますと、あさって県のアユ友釣り大会の県会の大会が河津川でございます。この河津川でやるわけですが、そこの河津川でも漁協に対しまして、大会をやるための運営費、経費を町として観光振興のためだということで補助をしているということも承知しておりますので、やはりそういう形で漁協と一緒に観光振興を実施するという町村もあるものですから、その辺のことも含めながら検討する課題であるというふうに思っておりますし、前向きに考えていきたいというふうに思っています。

○議長（中田隆幸君） 2番、坂本政司君。

○2番（坂本政司君） ありがとうございます。本当にこれはアユ釣り師だけの問題ではございませんで、先ほども出ましたけれども、川を守るという観点、そしてエコツーあるいはカヌーとの兼ね合いということもあって、調整が必要かと思っておりますので、ぜひよりよい方向でもっていけるように漁協の皆さんとも協議をしながら進めていただければありがたいなと思っております。

それで、私があえてアユでということで質問をしたわけですが、アユ釣りとしなかった理由について、もう一つ質問という形でさせていただきたいと思っておりますけれども、このアユというのは大変価値のある魚であると思っております。釣り人が釣って、はいそれで終わりですよという魚ではない。料理屋に持っていけばかなりの金額で買い取っていただけるというような価値のある魚です。実際に長良川ですと、そういう流通の制度というんですか、それが構築されておりまして、一般の釣り人が釣った魚をたくさん釣れたからどうしよう。うちへ持って帰ってもこれは食べ切れないなというような魚を買い取りしていると。これは漁協なんですけれども、町でやっているわけではないわけですが、そういう入り口だけではなくて、お茶ではないですが、出口のほうも、もしちゃんとしたルートというんですかね、それこそ町でやるのは難しいことだと思いますので、種まきというんですか、きっかけづくりをできれば町のほうで発起人になって立ち上げていただいて、地元の旅館でありますとか、民宿そして飲食店を営んでいる方に情報を発信していただいて、地産地消ではないんですけれども、地元でとれた天然アユですよということで、ぜひ売り込んでいくような方策も考えていただきたいと思いますけれども、その点はいかがでしょう。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 釣りの人口が多いというところは、一応産業という形で捉えている市

町が多くあるのも承知しております。特に九州の球磨川等においては、大変有名でございますし、あそこの場合はダムが今度は撤去されるというようなことで、今工事をやっておりますけれども、そういう地域もあるというようなこと、承知しております。それから今の話の中で料理屋等に卸したらどうだと。これは歴史のある長良川ではもう大分前からそのような形ができ上がっております、例えば宿泊料はその釣った魚でお金にかえていただけるということも承知しておりますし、また、おとり鮎の売り値も当然ながら養殖の500円と天然の1,000円という形で具体的に出ているところもありますけれども、そのぐらい価値が違うということも承知しております。ですので、今現在は商売になるほどのことになるかどうか。おとり屋さん、鑑札売の方は多分なるとは思いますけれども、そのほかではなかなか構築するには難しいのかなというふうに考えておりますけれども、まずは釣った魚をおとりとして卸すことは多分100%できるというふうに感じておりますので、その辺のできることから対応すれば、展開が開けていくではないかというように思っております。いろいろアユ釣りやられる皆さんからも、全国の情報等も聞きながら対応することが将来的には必要になるなというふうに思っておりますので、また具体的に教えていただければ、対応を早くしていければいいなというふうに私個人的にはそう思っております。

○議長（中田隆幸君） 2番、坂本政司君。

○2番（坂本政司君） よろしくお願ひしたいと思ひます。

それで、今も町長、ちょこつと言われたと思うんですけども、アユ釣り、特に大井川は天候に左右されまして、1発大きい台風が来ますと一月ぐらいアユ釣りどころではないというような状況になってしまうわけですけども、幸いにして我が町には長島ダム、洪水調整機能つきのダムがありますので、そちらのほうとも連携をして大雨の影響が最小限でおさめられるようなそんなような対策もぜひ国交省のほうへ申し入れをしていただきたいと思いますと思ひますけれども、そういうことというのは可能なのでしょうか。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 国体のときのカヌーのときも水量の調整はしていただいて、これ中部電力と長島両方だったんですが、調整して協力してもらって大会をやったという経緯があります。それからこのダムがある川は、大きな雨があるときには濁りが引かないということがあつたから。長期に濁り水が出てなかなか釣りにならないということがあつたから。ですので、ダムがある川は渇水のときのほうが状況がいいということで、普通の川と逆なんです。そういうこともあるから、やはりこれは当然ながら長島ダム、それから中部電力等とも相談しながら河川の管理はしていく必要があるというふうに思っておりますし、その中には当然ながら漁業組合も入つておるから、協議をしているということは現状やつているということで、これからお願いに行かなければ何もやつてもらえないじゃなくて、今現在も国交省並びに中部電力とは漁協としては対応をしているという現実があつたから。ですので、協力体制は今現在でも整つていると。よっぽどのがない限り、対応して

いただけるということも承知しておりますので、やはり地域とともに歩む皆さんと一緒に  
なって河川の環境をよくしていくということは、共通の目的だというふうに思っております。

○議長（中田隆幸君） 2番、坂本政司君。

○2番（坂本政司君） ありがとうございます。ぜひ今までもやっておられるということ  
ですので、今後も継続して連携、協力をお願いしたいと思います。

それともう一つ、今中部電力の件が出ましたけれども、塩郷堰堤の魚道の遡上の状況なん  
ですけれども、私、うちが近くなもんですから、たまに行って見ているんですけれども、稚  
アユは一生懸命上ろうとして魚道の口へはねるわけですが、どうも魚道の構造がうまくない  
のかどうかすると入る魚もあるんですけれども、ほとんどの魚が上れなくていつまでもびよ  
んぴよんはねて、それを繰り返しているというような状況が見受けられるものですから。こ  
の中部電力さんにもぜひお願いをして、この魚道の改修、魚が上れる魚道にぜひしていただ  
きたいと思いますけれども、そういう対応というのは、これも漁協との絡みもあると思いま  
すけれども、漁協と協力しながら進めていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 実はその件につきましては、新の大井川漁協が対応しているとい  
うことをお聞きしております。これは今現在、魚道を1分間に何匹の魚が上るかというような調  
査もしておるようですし、あそこの改修については、新の大井川漁協が今現在対応している  
ということをお聞きしております。当然ながら、新の漁協の管理区域ですので、その皆さんが英  
知を絞って魚が上るような方向の魚道の対策をするということまでは聞いておりますけれど  
も、それ以上のことは私のほうからはできる立場ではないということだけのご理解いただき  
たい。しかしながら、そのようなことで皆さんの大井川であるもんですから、やはり上流に  
も下流へ天然遡上の魚が自然に上れるような魚道をつくってもらふ要望は当然しなければい  
けないというふうに思っております。これが将来に必ずつながるといふような感じもいたし  
ますので、やはり今大事な時期だなというふうに思っております。今具体的に調整で言えば、  
話し合いをしているのは、新の大井川の漁協でございます。1番議員の答弁でございます。

以上です。

○議長（中田隆幸君） 2番、坂本政司君。

○2番（坂本政司君） ありがとうございます。とにかくアユでこの町が幾らかでも経済的  
に豊かになり、活気が戻ることを切に願ひまして、このアユでまちおこしをという質問は終  
わらせていただきます。

次に移らせていただきますが、絶景ポイントに公園設置をという質問でございますけれど  
も、前向きな答弁がいただけたのかなと先ほどの答弁を伺っていたわけですが、ある  
方からお聞きしたんですが、以前、絶景ポイントの調査を役場のほうでされたことがあると  
いふようなことでございますけれども、そういったデータというのは、今どこで保管されて  
いるのかいないのか。その点をちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（中田隆幸君） 商工観光課長、安竹賢治君。

○商工観光課長（安竹賢治君） ただいまのご質問にお答えします。

以前に川根本町景観現況調査というのをやっておりますが、これは絶景ポイントを調査したのではなくて、平成21年度現在において、例えば景観の悪い場所とか、ごみが散乱しているとか、建物として老朽化している、公共施設も含めてそういったものを調査したものでありまして、絶景ポイントをとというものではございません。調査の結果は、企画課の環境室のほうで写真としてスクラップしてあって、関係課のほうに合議をしていて承知をされていると思います。

以上です。

○議長（中田隆幸君） 2番、坂本政司君。

○2番（坂本政司君） はい、わかりました。私ちょっと勘違いをしておりました。てっきり絶景ポイントを調べたのかなという思いでおりましたけれども、そうではなかったようでございますので、失礼いたしました。

とにかく、先ほども町長の答弁の中でお茶のサービス等もできたらいいなというような駐車場が整備されればというようなお話もありましたけれども、ぜひ今産業課の関係で茶縁喫茶というようなことをやっておられる方もいらっしゃいますので、こういう場所が1カ所でも増えれば、あちらこちらでそれこそうちの角まで来ていただかなくても、観光客の方に呈茶のサービスができる。そんなことができるのではないかなと今感じている次第です。ですので、ぜひ無理なものは無理かと思えますけれども、整備をしていただきたいということです。

それで、先ほどから公共の場所ならというようなお言葉がありましたけれども、もし民有地で場所を提供してもいいよ。格安で賃貸するよというような場所があれば、対応は可能なのでしょうか。

○議長（中田隆幸君） 商工観光課長、安竹賢治君。

○商工観光課長（安竹賢治君） 具体的にどういう場所かというのをいただいて、当然議員さんがおっしゃいましたとおり、提供の方法とか、あるいは間伐できるとか、そういった周囲の森林の状況も踏まえまして、状況に応じてということでは今申し上げられませんが、その状態によっては、また協議をさせていただきたいというふうにお答えさせていただきます。

○議長（中田隆幸君） 2番、坂本政司君。

○2番（坂本政司君） ありがとうございます。前向きな答弁ということで私は理解をいたしましたけれども、実はここに写真があるんですが、これ笹間渡のほうから走ってきまして、地名の峠を越えると、それこそ塩郷ダム下流になるんですけれども、こんなすばらしい景色が見えるポイントがあるんです。笹間渡の温泉までは川沿いに来て開けた場所を走ってくるわけなんですけれども、笹間渡の峠を越えて地名の集落に入りますと、お墓等がありまして、若

干ちよつと落ち込むような気分になるかと思うんですけれども、そうした景観が終わって、こんなすばらしい景観があるんだよということを、それこそ観光客の皆さんに知っていただきたい。もったいないではないんですが、ちよつと手を加えるだけで、こんな絶景が望める場所があるということをお知らせしたいと思います。また情報等も入ったら、逐次お知らせしますので、ぜひ検討をいただきますようお願いをいたしまして、この問題は質問を終了させていただきます。

3番目ですが、パラグライダーの離陸場所の問題に移らせていただきます。

それこそ先ほどから離陸場所整備ということで申し上げておりますけれども、ちよつと残念ながらこの場所が川根本町地内ではないということで、現在あるところは島田市に所在しております。ですので、行政区を越えて勝手にやるというわけにはいかないと思いますが、島田市と何とか協議を立ち上げていただきたいなと思います。聞いたところによりますと、島田市長がパラグライダーに私も乗ってみたいと言ったということで伺っておりますので、可能性は全然ゼロではないと思います。ぜひ前向きに検討していただきたいと思いますが、そういうことは可能なかどうか。ちよつとお伺いいたします。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 実は私も乗ってみたいという気持ちは当然ながらあります。やはりどういふものかというのを実際今現在知らないということがあって、遠くから見てみると気持ちよさそうだなという感じしか持っておりません。そのような中で、島田市がどのような判断をしているか承知しておりませんが、少し内容についても協議しながら対応ができるものは当然していく。不具合のことがあれば、それらも少し調べてみないとわからないものですから、今ここで即答できないこと申しわけないんですが、協議をしてどこかで許可を出すのか出さないのかということも、ちよつとわからないものですから、その辺も含めて少し調べさせてください。それから対応を考えていきたいというふうに思っております。

○議長（中田隆幸君） 2番、坂本政司君。

○2番（坂本政司君） ありがとうございます。この私の質問、離陸場所を設置をということで申し上げたんですけれども、一遍飛び立ちますと最後はどこかへ降りなければならないということで、着陸地点も必要になってくるわけですけれども、これも現在は葛籠のグラウンドに降りているということで、島田で始まり島田で終着ということになっているわけですけれども、これぜひ大井川をまたいでいただいて、西地名の田んぼがあるほう、あそこもすばらしくいいところだよというお話でございますので、もし島田市さんとうまい話ができれば、西地名の河川敷の辺の整備も木を切って芝生を植えるぐらいでいいと思いますので、それも含めて検討をいただきたいと思っております。

それで、先ほど町長、自分も乗ってみたいということだったんですが、ここの場所がどれだけすばらしいかということは今からちよつとの間、述べさせていただきたいと思いますが、フランスのシャモニーとかアヌシーという場所があるんだそうですけれども、イン

ターネットでちょっと見たんですけれども、アヌシーというところは、それこそ山に囲まれていて、下が湖になっています。本当に写真でしか見ないんですけれども、雰囲気は鶴山の七曲にそっくりだというような印象を私も持ちました。それで、何人かパラグライダーの愛好家の方が見えて、来た人全員がそう言うっていうわけですね。こんなすばらしい場所が国内にあるのは知らなかったといったような話をしているということでございます。

それとここがすばらしいというのは、高低差が700mくらいあるそうなんです。飛び立つところから着陸地点まで、その高低差700mを車で20分、たったの20分で上がれるそうなんです。実際に私も走って見たんですが、抜里から20分でした。それでこんなところはほかにはないよということで、400m程度の高低差なら朝霧に行けばあるんですけれども、時間とこの高低差のことを考えると、ここは本当にすばらしいところだと言っておられました。本当にここが整備されれば、日本有数のフライト地点になる可能性はあります。そうしますと、こういう趣味の世界ですので、日本全国あるいは外国から飛びに来る方もいるのかもしれない。そうなりますと、地域の経済にも何らかの影響があるのではないかと。また交流人口が増えれば、外からお金が町内に落ちる可能性もございますので、ぜひすぐではなくていいですけれども、長い目で見れば大変すばらしい環境がもう整っているわけですね。ただで手に入るわけでございますので、ぜひ検討をしていただきたい。ちょっと無理だよという話ではなくて、やってみるかというような感じで進めていただければありがたいと思うんですが、町長、いかがですか。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 先ほどから申し上げているとおり、自分自身がよくわかっていない。また職員も正直まだ具体的に詳しいことがわかっていない状況での判断は難しいと思います。また、ちょっとわからないのは、許可制なのか、もう少し言いますと、送電線の関係、それから大井川の増水したときにどういう形でできるのか。その辺の危険性もはらんでいるなどという感じが実は私個人的には素人から見てそういう感じがするものですから。その辺のことをクリアできれば当然ながら対応するといいたまいますか、研究して前へ進めるということが必要だと思いますけれども、今素人ではその辺のことちょっと不安材料があるような感じ若干しているものですから。明確な答弁できませんけれども、少し勉強させていただいて、また教えていただきながら、対応することが必要ではないかというふうに思っております。

先ほど来、おっしゃっております、いわゆる鶴山の七曲、大変すばらしいということは私自身も承知しておりますし、また右岸側へ行きますと、当然ながら何カ所かに公園、また環境整備してあるところもあるということも承知しておりますので、やはりそういうのも使いながら対応していくことが大井川の両岸ともよくなるのではないかなという感じがいたしております。そのようにちょっと素人でわからない点がたくさんあるものですから、もう少し検討させていただいてから、判断をしていきたいというふうに思っております。

○議長（中田隆幸君） 2番、坂本政司君。

○2番（坂本政司君） とにかくよろしくお願いをしたいと思います。

ただいまの町長のお話の中で、どのような許可制なのかどうかというような話があったわけですが、これ飛ぶためには当然免許が必要だということです。何回か講習を受けて試験もあると思うんですけれども、それに合格しないと飛んではいけないということであると思います。それと、飛ぶのは自由なんだそうです。自己責任で飛べる場所があればどこから飛んでもいいよというそういう規制はないそうなんです。それで、送電線の関係なんかもそうなんですけれども、飛ぶ人が一番わかまえているし、自分の命も大事なものですから、送電線があれば当然そういうところは避けて飛行するということになると思います。

とにかく新しいスポーツなものですから、皆さん、なじみがないのは当然で、これからの検討課題ということでしていただければありがたいなと思います。

パラグライダーの質問に関しましては、以上で終了させていただき、次の第2番目の質問事項ですけれども、川根茶のあり方についての再質問をさせていただきます。

それこそ5月の全協のときに生産量とか、あと売上金額、菌田議員のときの発言にもありましたけれども、量的には増産だったけれども、金額はちょっとそれに付随していないよといったようなことだったと思います。これは生産量から見ますと、前年対比で言えば非常に伸びているような感じはするわけですが、平年と比べてみれば平年並みかなと感じております。また金額に対しましては、平年並みまで行っていないところが多いのではないかなというように気がしておりますけれども、どうしてこうなったとかというような低迷の要因というのは何だったのか。もしよければ産業課長、教えていただいて、ちょっと聞かせていただきたいんですが、いかがでしょうか。

○議長（中田隆幸君） 産業課長、後藤泰久君。

○産業課長（後藤泰久君） やはり国内の消費者の生活の様式の変化ということで、お茶を飲まなくなった方が増えているということで、消費量の減少が一つの要因かなと思われま

○議長（中田隆幸君） 2番、坂本政司君。

○2番（坂本政司君） そうですね。私もそのような感じを持っておりますけれども、本当の理由はわからないということが事実じゃないかなと思います。

それで、これから川根茶を少しでも売っていくためには、どうすればいいかというPR活動の点で質問をいたしますけれども、昨年的一般質問のときに私が一煎茶パックを名刺がわりにつくって配ったらどうですかというようなことを申し上げたと思いますけれども、早速今年度実施していただきましてありがとうございます。

それともう一つ、品評会というのもこのPR活動の一環であるというように感じておりますけれども、今までは手摘みのお茶が主で機械摘みの部には出品したことは一度ぐらいあったんでしょうか。それをお伺いしたいですけれども。

○議長（中田隆幸君） 産業課長、後藤泰久君。

○産業課長（後藤泰久君） 申しわけありませんが、昔のことを私は存じませんので。

○議長（中田隆幸君） 2番、坂本政司君。

○2番（坂本政司君） また調べて教えていただきたいと思いますが、私が言いたいのは、手摘みばかりではなくて機械摘みで挑戦したいという人ができたら手を挙げてくれる人がいたら、全力でまた産業課のほうもバックアップしていただけるかどうか。それを1点お聞きしたいと思います。

○議長（中田隆幸君） 産業課長、後藤泰久君。

○産業課長（後藤泰久君） 全国の品評会の出品につきましては、ことし4kgの部で7品、来年もこの人たちは多分出していただけると。そして本格的な意向調査は9月に行うんですが、内々ですが、出してみたいなというような声を今年プラス二、三件聞いております。まだ確認をしたわけではないんですが、その中でも機械を出したいなというようなことを聞いております。

応援については、もちろん農協と茶振協を中心にサポートということで、今年同様にやっていきたいと思います。

○議長（中田隆幸君） 2番、坂本政司君。

○2番（坂本政司君） ありがとうございます。時間がないものですから、これで終わらせていただきますけれども、とにかく川根茶が少しでも上向くような方策をできる限り、限られた予算の中だと思いますが、お願いをするということを申し上げまして、私の質問を終了いたします。

○議長（中田隆幸君） これで坂本政司君の一般質問を終わります。

次に、3番、野口直次君、発言を許します。3番、野口直次君。

○3番（野口直次君） 3番、野口直次です。それこそ4番札になっちゃったものでなかなか通告したネタと内容がちょっと変わってきました、答弁していただくほうも、また野口流で迷惑かけますが、よろしく願いいたします。

今回ここに立たせていただくのは、皆様のおかげで感謝しております。

川根路にトーマスが帰ってきました。前回の全協で商工観光課の今年にかけるトーマスの計画説明には安心し、成功を確信いたしました。去る日曜日に徳山駅の国道でトラックからトーマスに手を振りました。お客様はどのように映ったのかなと女房と2人でトラックの中から大笑いをいたしました。パラグライダーみたいな話ならみんなも興味を持つんですが、ちょっとくどくなりますが、またいつものように暗いお茶の話をいたしますので、よろしく願いいたします。

ことしの一茶は、県下初め、当町でも天候に恵まれ何年ぶりにゴールデンウィークにおかげで二人用の摘採、または乗用ができましたが、何分に漏れず、ミル芽摘みの割に暴落し、近年では最悪の単価でございました。私ごとですが、林道土砂災害により32aほどの面積に一茶、二茶とも収穫ができませんでした。現在伸ばしっぱなしの茶葉を整枝をどこに挟めばいいかということをJA指導員に相談中、今年度を象徴するようなお話を聞き、二茶が一茶

の暴落を受けて一茶で二茶の価格帯ができてしまい、共同工場はJ Aより一茶の割り当てと  
いうことを初めて設定され、前年の出荷量の多いところ、約50%の調整をされましたが、ミ  
ル芽摘みが徹底していたのか設定価格よりも割り当て数量が集まらなく、なおかつ荒茶の単  
価がキロ当たり700円から1,000円、二、三日前からは平均600円台と聞かされました。

町内のある工場はまだ借金が終わらない。700円台では組合員と相談したが、検討の結果、  
採算割れで断念した辛さ、その工場のお茶を待っていてくれた茶商がいるのに、J Aの職員  
はこの相場の動向を非常に残念がっていました。このごろ農家の挨拶では毎年のぼやきは同  
じですが、さらに厳しく来年はお茶をやれる、売れるかなという本当に深刻な話が日常茶飯  
事でございます。また、お父さん、肥料、農薬、車検に重油代、税金など立て続けに支払う  
ことを叫ぶ、吠えるお母さん、女房ですね。こんなに一生懸命お茶をやっているのに、やれ  
ないならやめたほうがよいじゃないか。じゃ、あしたはどうして食べるんだと朝の話を、そ  
う言いながら2人とも茶畑に茶ならしに行く。2時間後には休憩のときには世間話し、涼し  
くなるころには腰が痛いというのでやめたと言って途中下車、女房は家に帰る。さらに付録  
がついております。私には今からやるのがいっぱいある、10年来の殺し文句で何を隠そう  
この会話は私たちきのうの夫婦の会話です。

前座が長くなりましたが、本題に入らせていただきます。

通告のとおりです。三つをやらせていただきます。

1としましては、茶業の低迷における今後の対策と町の経済に与える影響、皆さんそこに  
4つ書いてあると思いますので、またその辺をお答えを願いたいと思います。

続きまして、若者が山村に移住・定住するために必要な取り組みについて。

3番目に、働き盛りの大黒柱が突然倒れた場合のサポートについて。

以上、大きく3点の質問をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

○議長（中田隆幸君） ただいまの野口直次君の質問に対し、町長の答弁を求めます。町長、  
鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） それでは、野口議員の質問に対しましてお答えをさせていただきます。

お茶に関係することは、これまで3人の皆さんに答弁を申し上げました。ほとんどがダブ  
ると思いますけれども、いつものことでございますけれども、ダブっても申しわけないん  
ですが、答弁としてお答えをさせていただきます。

行政から見たJ A、茶商、農家を含め長短期的な新たな販売戦略はあるのかというご質問  
がございました。

坂本議員にも答弁で申し上げましたけれども、一つには、自販への取り組み、もう一つに  
は生産農家とJ A、そして産地茶商との密接な情報交換、情報共有により消費地から求めら  
れる茶の生産をしていくこと、この両面が販売の戦略ということになるかと思っております。  
求められるお茶というのは、他の茶の産地では決してまねのできないお茶、そういったレベ  
ルのお茶を生産して流通させていく取り組みも必要になってきております。言葉で申し上げ

るのは簡単なことですが、実際に携わっておられる皆さんには、これまでの手法を変えていくということになるわけですので、御苦勞もあろうかと思っております。

行政といたしましては、茶振協などの事業において、実際に携わる皆さんが行動していきやすいように情報収集や情報共有を進め、川根茶の広報宣伝に努めてまいりますので、これまで以上に日本茶における川根茶の居どころが上がる取り組みを茶業関係者各自においても実行していただくことを期待しているところであります。

次に、生葉販売農家の収益に関するご質問がございました。

何軒かの生葉販売農家に現況確認をしておりますが、収量及び収入が昨年度比で増加したという話を伺うことができしております。これらの農家の状況は、やはり剪枝や整枝及び適期防除管理を小まめに行い、摘採においても状況を判断しながら収穫作業をしたということでありました。大枠で考えれば、荒茶の平均価格が下がっておりますので、その分を収穫量で補うことができるかといえ、そうはならないわけですが、一方で生葉価格を維持できた農家も実在するわけですのでございます。

そうはいつても、遅場所ほど、消費地茶商の仕入れ気配が弱くなり、それに伴い産地茶商の仕入れ気配が左右されることから、荒茶販売が厳しくなっているというのが今年度の特徴でして、町全体として見た終盤の荒茶価格はこれまでにない価格となってしまいました。ですので、遅場所ほど影響を受けたと分析をしております。単位当たりの収入につきましては、細かな数字がまだ分析をされていないというような状況でございます。

農家を継続させる施策への転換ということでございますけれども、川根本町においては、昭和60年代から複合作物の導入に取り組んでまいりました。特に、柚子につきましては、野口議員を初め、県内一の栽培面積を誇り、昨年度は「しずおか食セレクション」に認定されるなど、それぞれの生産農家の御努力が実を結んできているという例でございます。

これまでの経過を振り返りますと、農家はお茶のうち生葉販売だけで生計を立てているわけではないわけであり、荒茶製造においては賃もみによる収入、共同製茶工場の労務、農家によっては量の多少はありますが、自販で収入を得ている農家もあるわけでございます。そして、かつては川根茶を収入の基軸としながらも、ワサビやしいたけ、タケノコ、アマゴ、山菜類などを販売したり、林業労務や木材販売も行っていました。そうして、より安定的な兼業農家へシフトし、第2種兼業農家が増加していった経緯がございます。

近年、兼業という形態で取り組みやすい業種に限られてきており、兼業での高収入を確保することが難しくなってきました。ここにおいて、農業を基軸として生計を維持していくには、やはり複合経営または林業との兼業経営、あるいは法人農業経営での雇用型農業がその道ではないかというふうに考えているところであります。それに向けた取り組みを進めてまいりたいというふうに思っております。

町の戦略品種「おくひかり」は、昭和62年に品種登録され、川根本町における栽培面積は約19ha、島田市、川根まで含めれば20ha余りで栽培されている晩成品種であります。昭和62

年の品種登録から定植が進み、平成6年には大井川農協の再製工場の一元集荷を、そして平成9年には製茶後に貯蔵をしてから出荷する「後熟おくひかり」、平成19年から標高が高い生産場所の生産者、県、経済連、J A、町が連携して取り組む「天空の茶産地川根奥光」の展開を行ってきております。

県内でおくひかりを戦略品種としている市町は、当町を初め、静岡市、島田市、森町、浜松市の3市2町でございます。この中で、当町の天空の茶産地を代表する戦略的取り組みは注目をされており、様々な場所で「品種茶川根おくひかり」、「天空の茶産地川根奥光」が前面に出る機会がございます。これは昭和62年の品種登録以来、町内の生産者を初め、主たる取り扱い業者でありますJ A、そして県などが30年近く努力を継続しているからでございます。

そうは言いましても、20haの茶園で生産される荒茶数量は、その年の生育状況にもよりますが、1番茶で9,000kgから12,000kgではないかと推計をしております。この需給バランスが問題であるわけで、現在のところ、需要不足が課題でございます。当品種を大きな面積で栽培している農業者組織では、引き合いの弱さに対応するための行動を開始しておりまして、被覆栽培や碾茶用生葉栽培、荒茶販売先との綿密な収穫打ち合わせなどの具体的な取り組みが始まっております。

おくひかりについては、長い間県及び町で奨励、戦略品種として扱ってきたこと、永年性作物という茶の特性から、これからも町行政と農協が連携して推進していくことには変わりはありません。産地茶商に対しましても、重ねておくひかりの取り扱いを進めてまいります。取り組みを始めてからの30年の月日とその成否を求められると、もろ手を挙げて喜べる状況には到底ありませんが、近年のお茶の多様性が求められている傾向を踏まえ、加えてお茶講座などでの静岡茶の中での特異性が取り上げられているわけでございます。

お茶は根がつけば、刈り取られても、霜に当たっても必ず芽を出します。苦境を乗り越えられる作物であります。そして、おくひかりがおくひかりの品種であるように、時間はかかっておりますが、成果を出していただけるのではないかと信じております。

ここで改めて申し上げたいのは、この状況はおくひかりだけの問題ではないということです。今年度の茶況を見れば、お茶全体の課題であるということでございます。町は生産者や販売者が行動しやすいような普及啓発を頑張っていく、担当にもそのように申しつけております。茶生産農家の皆さん、共同製茶工場、茶商の皆さん、そして農協、全ての茶業関係者それぞれが自分ができることを自らやっただく。とにかく考えて、考えて行動していただくことをお願いして、答弁にかえさせていただきます。

次に、空き家対策を含め、若者の移住・定住に対する受け入れの現状は十分できているのかという質問に対しまして、お答えをさせていただきます。

町では、平成17年度から平成20年度にかけて地名地区に若者定住促進住宅を整備し、若者の定住を推進するとともに、徳山地区及び地名地区の町営住宅を更新し、住環境の整備を促

進してまいりました。

移住相談に対しましては、企画課を窓口として空き家バンクに登録された物件の紹介や地域情報の提供等の対応を行っております。相談者につきましては、対象を若者に限定したのではなく、年齢を問わず空き家バンクに登録された物件に対する問い合わせに対応するほか、首都圏で行われております移住相談会等においても移住に関する相談に対応をしております。これまで受けた移住に関する相談における若者層の内訳は、平成25年度の問い合わせ件数24件のうち、30代が6件、40代が1件、平成26年度問い合わせ件数8件のうち、20代が1件、30代が2件、40代が1件となっております。

その他、田舎暮らしを体験していただく事業を実施し、当町を知っていただく機会の提供等も計画をしております。

昨年、町内にある空き家の実態調査を実施しており、調査の対象となった340件のうち、空き家の可能性が顕著であるものが240件、空き家の特定ができないものが9件、空き家ではないものが91件という結果を得ております。今後、その調査結果をもとにデータベース化を行うとともに、建物所有者に対して物件の詳細状況や今後の利用状況等に関する調査を進めていくことによって、利活用可能な空き家物件の把握に努めてまいりたいというふうに考えております。空き家バンク登録物件は、売買物件が多数を占めていることもあり、物件所有者に対して賃貸借契約の可能性も検討していただくよう取り組んでいきたいというふうに思っております。

当町の知名度は静岡県の中でも高いとは言えず、首都圏で行われる移住相談会では、当町を移住の候補地として来場する方は、大変少ない状況になっております。そのようなことから、今後も静岡県等が主催する移住相談会への参加や東京交通会館内に設置をされております静岡県移住相談センターを活用した取り組みを継続して進めていきたいというふうに考えております。

緑のふるさと協力隊の今後について、お答えをさせていただきますけれども、地域の活力となることを期待して、平成18年度から緑のふるさと協力隊受入事業を実施してまいりました。受け入れから10年という節目を迎えるに当たり、事業の目的や財源などを見直し、さらなる効果を生み出せるよう事業を発展させる時期とも判断をしております。

今後は、総務省が所管する「地域おこし協力隊制度」も含めて、移住・定住施策の企画実施や農林業の活性化事業など、より具体的な施策の担い手として活躍してもらおう事業となるよう検討を進めながら、継続して町外から新しいアイデアや考え方を持つ若者たちの受け入れを実施していきたいというふうに考えております。これまで同様、地域に密着した活動を進めることができるよう、変わらぬ御支援・御協力をお願いしたいというふうに思います。

それから、働き盛りの大黒柱が倒れた場合のサポートについてお答えをさせていただきます。

児童・生徒が保護者等の経済的な理由により、就学困難と認められる場合には、学校教育

法第19条の規定に基づき、必要な援助を実施する制度がございます。この制度は「川根本町要保護及び準要保護児童生徒認定要綱」に基づいた基準により認定された児童・生徒に対し、必要となる学用品費、通学費、学校給食費、医療費などが支給をされます。

議員が心配されておられるケースのように、一時的に経済的に困難になった場合においては、基準を満たせば認定をされますが、この基準につきましては様々なものがあり、税法上の減免のある世帯であることのほか、特別の事情により著しく生活が困窮していると認められる世帯の方などが対象となります。

この制度につきましては、学校や民生委員、児童委員の方々など、周囲の方々の見守りなども必要となります。

また、町では、常勤ではありませんが、元教員であります教育相談員を1名配置しており、町内の小・中学校を訪問しながら子供たちの健全育成に関する相談業務を行っております。

このほか、静岡県からの派遣により、同じく元教員のスクールカウンセラーが原則として月1回程度、町内の小・中学校6校を訪問しており、子供たちの心の問題等についても、専門的な知識を持って、様々な相談に応じていただいているところであります。

ケアを含めた援助または助成があるのか。サポートできる方向を検討してはという質問がありました。

まず、できるだけ病に倒れないよう元気でいただくための町の施策として、疾病の早期発見等のための特定健康診査や後期高齢者健康診査、各種がん検診、健康相談事業をはじめ、疾病予防のためのインフルエンザや高齢者肺炎球菌ワクチンなどの予防接種費用助成を実施しております。はからずも病に倒れてしまった場合には、医療機関での支払い額が一定額を超えた場合に、その超えた金額を支給する高額療養費制度、また療養中の生活支援として、本年4月に施行されました生活困窮者自立支援法により社会福祉協議会に設置された生活支援相談センターによる相談や各種貸付制度などの支援、資産や能力など全てを活用しても、なお生活に困窮する方に対し必要な保護を行い、自立を助長する生活保護制度などの支援制度があります。生活困窮に陥る方、また、そのおそれのある方は、複合的な課題を抱える方も多く、まずは相談機関である社会福祉協議会や、地域の民生、児童委員に相談をしていただくことがサポートへの第一歩であると考えております。

しかし、自分の健康、また家族の生活を考えるのは、一家の長である大黒柱が一番に考えるべきことであり、積極的な健康診断等の受診により体調管理に気を配ることはもちろん、民間には多くの融資制度や貸付制度、各種保険制度などが用意をされております。万が一に備えて各種制度の利用を検討していただくことも大切なことであるというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中田隆幸君） 再質問を許します。3番、野口直次君。

○3番（野口直次君） すみません、先ほど質問の内容を明記せずに今町長にやっていただき

まして、ありがとうございました。それこそ質問事項の順番から質問させていただきますので、よろしくお願いいたします。

1の茶業の低迷における今後の中の(1)です。この行政から見たJA、茶商、農家を含め長短期的な新たな販売戦略はあるかという、それで非常にこの販売というのは当然生産、流通、小売、消費者までというお茶の場合は、同じ作物の中でも大変複雑なルートがあるわけです。それでその私が一番心配したのは、先ほどの坂本議員のときにも答弁があったんですが、ただお茶の消費がなかった。ペットボトルが増えたもんでと言うんですけども、私は一番この危機を感じているのは、非常にその、東電が原発の補償で在庫を一掃したというのはつい2年ぐらい前だと思うんですが、ここ2年ばかりでこんなに在庫が増えたという、あのときの補償で売ったものはお茶には色がついていませんで、どこかへ隠したっけかなと思うぐらい疑いたく、大手では補償が約60億という話も聞いております。その中で、じゃ、来年ですね、今この売れ行きからいくと、さらに皆さんも心配していただいているんですが、在庫がさらに過多になるといってどこに一番しわ寄せが来るかというのは、当然生産者に来るわけです。じゃ、これが毎年毎年続くとか、そういうことは別にして、じゃあ今度は私たちが、自分たちで何を考えるかということから、やはり皆さんの答弁もそうでしたし、質問も昨年とは随分皆さんの考え方も変わってきておりますので、私も毎回一般質問していただく中で、最初のころは町長の大井川、川根を含めた中のお茶の消費を考えるべきだということと言われまして、そのときは非常にわからなかったんですが、今回になりまして本当にその川根というか、この大井川の自然の中からお茶を売ることが一つの長いトンネルの中のヒントになるではないかということに改めて思いました。

それで、私たちがマーケティングなどという高尚なことは非常にあれなんですけど、一番私たちは消費者が何を求めているかということも当然必要ですけども、このロットの少ない流通を含む川根茶をどういうふうに売っていったらいいかということ考えたときに、行政はどういうことができるかということから、皆さんもそうですが、茶商さんもそうですが、みんなお互いにそれぞればらばらだけれども、行政は今大変な時期ですけども、これから5年、6年どういような展望を持っていて、それが言葉は大変私勉強足りんですが、当たるか当たらんかわかりませんが、ある程度行政がこういうような川根のお茶は持つていくだということも、さらに深く考えていただくということをお願いしたいということは長いお話が町長、どのように考えるか。ちょっとお願いいたします。

○議長(中田隆幸君) 町長、鈴木敏夫君。

○町長(鈴木敏夫君) 今言われた質問というのは、非常に難しい課題だと思っております。先ほど来、申し上げているように、これをやれば全てが解決するということがございません。行政ができることは何かということを考えなければいけないわけですが、やはりそれよりも専門的な知識を持った皆さんの考え方が必要なんですけど、先ほど野口議員がおっしゃったとおり、川根町特有の特徴のあるお茶をつくらない限りだめだろうというふうに考えている

のは、きょうの質問をされた皆さんもそう思っているという感じがいたしております。

それからもう一つ大事だなと思っておりますのは、もしペットボトルのお茶が発売されなかったらどうなっていたらというのを私は考えてみたことがあります。そうしましたら、多分お茶という存在はなくなっていたんじゃないかというぐらいのことがあったらというふうに考えております。当時はお茶のペットボトルは敵みみたいな形で利用者から見ればそういう感じでおったわけですが、あれがなかったら、ほとんどが紅茶かウーロン茶になってしまって、緑茶というのが一般的に若い人には特に忘れられるというような状況になったのではないかとというぐらいの感じで見えております。

そのような中で、やはりこの川根茶というのは大変長い歴史も伝統もございます。大変ブランド的にも高い位置にあるものですから、やはりこのブランドを守る面も一つは必要であると。しかしながら、小規模の生産者が多い中では、当然ながら販売網も確立していくことも必要であるというふうに思っております。ですので、やはり皆さんに好んで飲んでいただける。これが本当のお茶だという形で推進していく以外ないではないかとというふうに思っております。これだけの小さな面積の産地では、当然一生懸命頑張れば可能になるだろうという思いも持っております。これは行政だけでなく、やはりそれぞれ関係する皆さんと一体となつての取り組みが必要ということで、そのような方向性を見出す機関を対応していきたいというふうに思っております。

先ほど、ペットボトルの話もしましたが、これにつきましても、当然ながらお茶というのは、こういうものだという宣伝、PRもしていく必要があるというふうに思っております。

○議長（中田隆幸君） 3番、野口直次君。

○3番（野口直次君） 今町長がおっしゃったように、本当に見方によってそういう私は全く気がつかないけれども、逆にペットボトルがあったからお茶があって、緑茶というそういう本当に前ばかり見ているとよくわからなくなるわけです。それで、この時期というのは本当に皆さん、いろいろなさっきも町長にはほかの議員の方に答弁していただいたんですが、やはり冷静になって今みんなでいろいろな意見を出し合いながら、焦らずにこれからの目標を持っていけというように私はとりましたが、実は私もそのようなことを感じておまして、本当にこういう苦い経験がこれがスタートかあれかわかりませんが、今後これをたてにやっぱりステップアップしていかないといけないと思います。

その中で、今の続きですが、行政をお願いの中に例えばパンフレット一つつくっていただいても、お茶屋さんがあるよ、ここにあるよと地図に明記するだけではなくて、これは茶商さんも含めて、その1商店がこんな特徴があるよというようなところまで踏み込んだパンフレットの作成、あるいは問い合わせに対して内外から来た場合ですね、そこまでのやはり進んだ作成あるいは茶農家がこれだけあるよ。先ほど言ったように、この地区にはこんな若いリーダーがいるよ、それでその若い人たちはこういうこともやっていますと。もし

役場とか茶商組合に問い合わせがあったら、そういう資料を今まで以上に基本的な資料ばかりじゃなくて、ちょっと工夫したお茶の消費者がもうちょっと川根地域にのめり込んでいただくような、その中には先ほど言ったように、自然を売りつつやっていただきたいと思いますですが、いかがでしょうか。

○議長（中田隆幸君） 産業課長、後藤泰久君。

○産業課長（後藤泰久君） お茶屋のパンフレットの提案をいただきました。茶振協事業の中のPR事業の中で組み入れていけるかどうか、今後担当と詰めていきたいと思います。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 先ほど一般質問でお答えしましたが、その中でシャッターポイント等の整備をしろというような質問がありました。私、今のお茶の関係で言いますと、今大変沿道に荒廃茶園が増えてきたという中で、今転換をしようという方がおります。私はそういう方の土地を使って、駐車場並びに茶縁喫茶的なものも今現在トーマスが運行している中で、やはりモデルとしてやることも必要ではないかなというふうに考えておりますし、そこでいろんな触れ合いの場をつくっていただいて、お茶の歴史、伝統みたいなものをそこでPRしてもらおうというようなこともできることではないかなというふうに考えております。やはり地元に住んでいる皆さんがお茶というのはこういう飲み方をします。そうするとおいしいお茶が飲めますということも、今言われたパンフレットだけでなく、やはりそこに住んでいる町民が自ら宣伝をしていただくというようなことも必要になってくるなというふうに思っております。

ですので、あれもこれもいろんなことをやって、お茶の消費拡大につなげていくということが必要ではないかというふうに思っていますし、先ほどのシャッターポイント等につきましても、当然ながらその場所にはテーブルがあればそこにお茶を出すと。そこでお金はどういう形で取るかは別として、トイレの関係等もございますけれども、やはりそういう整備もしていく必要があるのかなというふうに、お茶に特化した話じゃなくて全体的な底上げには、そういうPRの必要があるというふうに考えております。

○議長（中田隆幸君） 3番、野口直次君。

○3番（野口直次君） 今トーマス絡みのお話をさせていただきましたけれども、今そういうトーマスがあれば、例えば東京からやはり来ていただくチャンスは相当多いと思いますので、先ほど言ったように、川根全体の中から東京に川根を売りながらお茶を売るという中で、私たちが東京に行ってPRすれば大変なお金がかかりますが、ついでに来ていただければお金もかかりませんので、来てもらって、この地域を見てさわって食べてもらって、とにかくこの地域をお茶の前に売るということをやっていただければ大変いいと思います。

それと、先ほどもちょっと言って、また町長にもほかの議員さんの答弁にもありましたが、やっぱり第三者とか異業者というのをいつも心配していただいています。本当にその人たちの声、この間、私はおじさんですが、30代の若い女の人たちの、ちょっとたまたまグルー

プの話聞いていたら、非常にぼんぼん頭の回転というか、思いつきのアイデアの速さに大変驚きましたので、また今も町長も張り切っておりますが、これからも本当に総合的な中のお茶だというぐらいからお願いできればと思います。

それで、私が提案というのは大変できるんですが、ちょっと考えてきたのを文章では短かったです、ちょっとまたくどくなりますが、川根本町のツアーとか、お茶会ツアー、お茶摘み、そば、ブルーベリー、こういうまた旅行社に提案をして実行していただく。それには観光協会とかいろいろな商工観光とかあるんですが、そのときに、必ず来ていただいた方には川根本町の特製のスプーンを、今までより一回り大きい、小さじよりやや大きいのを地元 material を使ってスプーンをお土産にあげていただいて、また、川根本町より全国の茶産地自治体に特大の、やっぱりプラスチックというわけにはいかない、木のスプーンを差し上げて、どの産地でも全国鹿児島から埼玉狭山までオリジナルなスプーンをつくってもらって、そのお金は農家、茶商、JA、また町民とかのポケットマネーでいいと思いますので、もしそのスプーンが今まで5gだったら、6gになって、単純に5から6になりますと、全国でリーフ茶が20%消費が増加するというロマンを持って。これは私ではなくて、元藤川の品評会出品者のアイデアをパクりました。

実はこの中にせつかく寄附していただいたもので、スプーンの中に川根本町の町民の名前を入れたりして、とにかくみんなのほかの茶産地よりも私たちのこの川根本町はこういう苦しいときに非常に格闘しながらアイデアを出しているよという、これはほんの一例でパクリと言いましたが、パクリの中にも大変よかったものですから、今の一般質問の中に入れてさせていただきました。こういうような予想外のアイデアを持っている人、そんなもの1g増えてなんて思っても、先ほどのペットボトルのお茶がなければ水に変わった、あるいはコーヒーに変わったと同じように、ありますので、もう福岡とかどこにも川根はこうやっているというようなことをまた発信をしていただくということも必要だと思いますので、ぜひ御検討をお願いしたいと思います。

○議長（中田隆幸君） 要望ですか。質問事項は。

○3番（野口直次君） そのスプーンをつくってください。お願いいたします。それにかわるものでも結構です。すみません、議長。茶さじです。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 参考意見として対応する、いわゆるスプーンが一番いいかは別として、何かやはりそういう対応をする必要があるのかなという感じはしております。提案ということで、お聞きをしたいと思いますけれども、そのほかにもやり方とすればいろいろあると思います。やはり何かやらなければ、事を動かさなければ絶対に前に進まないというような状況に来ておるものですから。皆さんのとんでもない発想であるというようなことも、やっぱりあってもそれをやっていくということが必要かなというような時代に来たものですから、参考にさせていただいて検討させていただきたいと思います。

○議長（中田隆幸君） 3番、野口直次君。

○3番（野口直次君） 続きまして、2番のここの生葉売りの農家の手取りはって、これを書いたのは、私は実は説明不足もあったかもしれないですが、数字が欲しかったんです。じゃ、実際10a当たり正直生葉売りという言葉ですが、これは共同とか、とにかく手取りの話で手取りというと本当の所得になりますが、ここの場合、数字からいけばほとんど残らない遅所の地域、よく取っても30万あったかないか。平均では10万か15万というので、その数字を出していただくことによって、本当に農家は厳しいんだ。また農家自身も自分たちで考えない、あるいは商工関係なんかの人たちも、ああ、こんなに厳しいならほかの作物とか、あるいはもうちょっとうちでもお茶を飲んでいただくかなと、そういうようなことのヒントの意味で出したんですが、ちょっと説明不足ですが、もしここで大体のそういう手取りというのがわかれば教えてください。

○議長（中田隆幸君） 産業課長、後藤泰久君。

○産業課長（後藤泰久君） それこそ茶農家それぞれ一概に言えない数字だと思います。言ってみれば、ここのJAの平均単価が中川根支店、本川根支店で2,738円でしたということ、それで仮定します。2,700円で売れたとし、もみ賃が1,200円ですと。そして歩どまりが4.3でした。ということで生葉が約350円ぐらいになるんじゃないかなと。単純な計算です。これは余り数字的に、それこそそれで反歩当たり400kgとれば350円に400を掛ければ14万ぐらいかなと。350kgなら12万ちょっとかなということで、すごく荒っぽいんですが、本当にこれは個々に違うと思いますので、そういう数字でございますということで御了解ください。

○議長（中田隆幸君） 3番、野口直次君。

○3番（野口直次君） 課長に無理を言って数字を出させて申しわけございません。これが実際、これは経費はこの中に含まれていませんので、課長が当然わかっておりますが、それが実態に近いということをややはり皆さんも私も含めて再度自覚をして、これからの茶業の施策というか自分自身の経営にやっていきたいと思っております。

続きまして、3番のこの新規事業ということでお話ししたのは、やはり二極化して本当に兼業農家あるいは専業、ところが行政としてもそうですが、やはり皆さん支え合って、ある程度いろいろな事業をアドバイスのこういう事業もあると、本当にたくさんのメニューがあって、逆に産業課とかほかの人たちから言えば、こんなに条件のよい、いい話があって、例えばほかの業種に比べて本当に恵まれているということで、極端に言いますと、育成期間中でも今では国・県がお茶なんかの場合は育成費用の補填もしていただいています。ところが、私が言いたいのは体力が大変なくなってきた、先ほどの2番のときに言った税金も払えんよというような人たちが、本当に冒頭でも言ったんですが、先のことが考えられなくて、あしたを、きょうを食べていくということで、本当にそういう人たちもいます。ですけれども、将来専業で食べていく人たちがいろいろな補助は先ほど言ったようにあるんですが、こ

れから生活に対して何かこれを町長とか皆さんにすぐやれということではないんですが、もしこういうことが続けば、将来的に水田のような何かしら補填ということも考えていただきたいと思いますが、これは検討というか、あれで。ただいつも言うていただくように、そこまでやってその農林業をやるべきかということもやはり問われると思いますが、本当に専門の定義さえこのごろわからなくなったのが茶農家としては思っております。ですので、これはいいです。検討ということでお願いしたいと思っております。やはり結論は私とそんなに町長変わらんとしますので。じゃ、これは飛ばします。

次に、2番目の、議長すみません、2番目に行きますので、いつもすみませんです。

○議長（中田隆幸君） 質問内容を精査してお願いします。

○3番（野口直次君） すみません、今後気をつけます。

現在、空き家バンクの問い合わせがあれば、職員が物件を案内する程度、その後は所有者と移住者が双方で話し合いをしているというのが現実で、また、今回はたくさんの具体的な数字をいただいて本当に26年度の調査からさらに27年度に引き続きいろいろなことをやられるということを知りまして、大変うれしく思っております。ただ、若者移住者が田舎暮らしをしたくても、また本町に定住したいけれども、知人、紹介者もない。何もわからず物件を不動産屋さんから購入するということはちゅうちょすると思っておりますので、ずっと定住する不安、また、なれない田舎生活を試してみたい、様子を見たい、短期的に滞在したいという場合は当町には現在受け入れのこれからは考えていただけるかもしれない、現在ないと思われまので、提案でございます。町から何軒かの空き家を所有者から買い上げ、希望者に短期的に使用してもらったり、借家にしていただき、この町で住めそうなら住んでいただく方向にアドバイスをしながら、また落ちついたら物件紹介、あっせんする。6月の補正で若者交流センターも話題になっておりますが、一時利用可能かどうか、とりあえず滞在から定住という空き家対策を含め、私は考えておりますが、町長どうお考えでしょうか。

○議長（中田隆幸君） 企画課長、山本銀男君。

○企画課長（山本銀男君） 御提案ありがとうございます。ただ、町のほうで今つかんでいる空き家等につきましては、すぐに貸すような状態のものがあるとは思っておりません。家財道具、家具等が中に入っております。そのような状態がありますので、現在空き家バンクに登録されているものでも、ちょっとそこは所有者との話し合いも必要になるかと思っております。

また、最初の町長からの説明の中にもありましたように、直接空き家バンクに登録されているお宅ではなくて、農家民宿等でまず町に来ていただくということで、町の川根本町を知っていただいて、その中の空き家バンクを案内していきたいという取り組みを今年する予定でございます。

将来的には、データベースをつくった後で、役場内でも検討を重ねてその中で取り組めれば考えていきたいと、そういうふうに思っております。

○議長（中田隆幸君） 3番、野口直次君。

○3番（野口直次君） 次に移ります。

（2）の緑のふるさと協力隊のことです。

過去8名の協力隊員が残した功績は言葉では言いあらわせない、地域に若者とかよそ者が入ることで地域に新しい風を吹き込み、住民に刺激を与えてくれたのは間違いないと思います。ここで生まれ育った住民にはわかりにくい地域の魅力を発掘・発信してくれるのが協力隊でありました。しがらみもなく町内のあっちこっちに動き回っていただいて、たくさんの人の出会いを本町に愛着を持って活動をしてくれました。8年間通して地域住民にも協力隊を受け入れる体制が徐々に整っていました。住民たちもことしはどんな女の子が来るかな、毎年楽しみにしてくださっています。高齢化・少子化の本町において、彼女たちの存在はとても貴重でありがたかったように思われます。地域を元気にするために必要な人です。人は宝です。毎年1名ですけれども、8人の人たちがここに来ていただきまして、そこには一人一人の人生があって、川根本町と地球センターのあっせんで入っていただきました。新しいものを受け入れられない地域には発展はありません。本当に広報を見るといつも裏側に協力隊の顔がありました。ことしはないんですが、小学校の子供たちの元気な絵はありますが、私は協力隊がこれからも必要と思っております。

そこで3点お聞きさせていただきます。

どうして今年は派遣されなかったのか。今後、外からの人材を受け入れる計画はあるのか。人材育成について町としてどう考えていただいているか。再度お聞きしたいと思います。よろしく願いいたします。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） これまでに8人の方にこちらへ来ていただいて4人の方がこちらに残って対応していただいているという経緯がございます。今年も正直言いまして、来年も当然ながら毎年受け入れるというようなことは表明しております。ですので、こちらに合った方ですと来ていただけるというような環境は整っていると思います。今年の場合は少しこちらと合わなかったということがあったものですから、このような結果になりましたけれども、今後とも今までどおりの大変な効果も出たものですから、それらについて対応していくということに今までどおり変わりはありません。

それと、地域おこし協力隊という制度もございますので、それらも含めてやはり対応していくことが必要。今野口議員が言われたように、外部の皆さんにいろんな御意見、やはりなかなか地元では気がつかない点を気がついただけるということがあるものですから、そのような形で対応は今までどおりやっていくということに変わりはありません。

○議長（中田隆幸君） 3番、野口直次君。

○3番（野口直次君） 大変ありがたい答弁をいただきまして、簡単に言うとうれしいです。

と言いますのは、この間、ホタルサミットがあったんですが、あそこで横笛を吹いていたのは6代目の吉田さんだそうです。本当に徳山でして鹿ン舞の、火のあれですかね、そうやっ

て来て、また田野口では、町長も御存じのように、今結婚して子育てに奮闘している人もあります。いろんなあれはあると思いますが、そうやって前向きによそから全国にもこの地方創生と同じようにやはり人づくりということはあると思いますので、ぜひまた続けていただくという返答をいただきましてよろしくお願ひいたします。

○議長（中田隆幸君） 質問事項は。

○3番（野口直次君） 続きまして、この緑のふるさと協力隊というのを、インターネットの動画で川根茶のはっぴを着た女の人がPRをしておったのですが、本当にいろいろな町長が言うように田舎へ来ていただくという組織は相当あると思いますので、ただ、やはり受け入れ先の問題もあると思うんですが、大体来ていただく人たちはこれからも受け入れるという中で、男性の人たちの受け入れというのは考えておられるでしょうか。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 男性だからだめ、女性でなければいけないという話にはならないと思います。やはりこちらで一生懸命対応していただける。また理解をしていただける方は男性でも女性でも当然お迎えするという姿勢が必要だというふうに思います。

○議長（中田隆幸君） 3番、野口直次君。

○3番（野口直次君） 最後の質問になりますけれども、質問というかあれですけれども、3番目の働き盛りの大黒柱ということで非常に唐突な質問を出しまして、各係、あるいは町長はじめ本当に御迷惑をかけたと思います。でもこの現実にも今も仕事を途中で切り上げて病院に向かってきょうはお父さんのぐあいはというように、車を走らせている方もおられます。また、日々、介護、健康福祉のために努力している職員の皆様、本当にありがたいと思いますし、いろいろなこの私の3の中でこれだけの資料を答えを出していただいたのは大変ありがたく思っております。

最後に、町長に大変怒られるし、また副町長にも怒られるかもしれないですが、町長、皆さん、トップの方が町のサンタのような気持ちでまた今後とも温かく福祉、介護等をやっていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

以上で終わります。

○議長（中田隆幸君） これで野口直次君の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩をしたいと思います。50分まで休憩をいたします。

休憩 午後 2時41分

再開 午後 2時51分

○議長（中田隆幸君） それでは、休憩前に引き続き会議を再開します。

10番、鈴木多津枝君、発言を許します。10番、鈴木多津枝君。

○10番（鈴木多津枝君） 10番、鈴木多津枝です。6番目として、ただいまより一般質問を行います。

子供も若者も町の宝です。子供や若者を守るためには平和が一番大事なことは誰もが認めることと思います。しかし、今開かれている国会で審議中の平和安全保障関連法案は、衆議院憲法審査会で参考人の憲法学者3氏全員がそろって法案を憲法違反と指摘して以来、憲法の番人と言われる元法制局長官のお二人までも違憲との判断を示すなど、今、全国に「憲法違反の戦争法案」との批判が高まり、広がっています。

20日、21日で実施された共同通信社の世論調査でも、安全保障関連法案が憲法違反していると思うが56.7%で、思わないは29.2%しかなく、同じく時事通信社の世論調査でも、安保法案の今国会での成立に反対は8割を超えました。

選挙権が18歳からに広げられ、高校生にも政治判断を求めるようになった今、若者を再び戦場へ送らない政治をどう守るのかという大人の責任が大きく問われています。二度と再び政府の行為により殺し合い、殺し殺され、憎しみや恨みを拡大する戦争の道へ進むのではなく、粘り強い話し合いと助け合いで友好関係を築き、真に平和を守る政治こそ子供や若者に手渡さなければなりません。

行政や議会が果たすべき責任の重さを、まずは指摘をしまして、通告しました一般質問に入ります。

1、子育て支援の拡充・強化をとして、①乳幼児を抱えるお宅へ育児支援者を派遣するシステムの構築を。30歳以下の役場職員の方や民生児童委員の方、NPO、ボランティアの方々など希望者を募って乳幼児の育児体験、講習会などを設け、お母さん方などの要望に応える体制づくりを求めます。

②保育料の第2子半額、第3子無料の対象となる子供の人数に小・中、高生も含めて軽減の拡大を図るとともに、学校給食費にも同様の軽減創設を求めます。

2点目です。障害者に生きがいのある場所づくりをとして、授産所、みどりの丘、みどりの丘枝松の利用者や父母を中心に、高齢者やNPOの支援なども得て、パンや花の苗づくり・販売などの取り組みを求めます。

3点目です。大鐵運賃を町営バス料金同様とする運賃補助の創設で、町民の足として利用しやすいようにし、運行本数を増やすよう強く要請を求めるとお伺いします。

4点目です。かわねフォン利用の町民無料は永久かという、最近町民の方々の不安が広がっています。これに答えていただきたいことと、IRU契約にかわねフォンの維持管理を含めることや、国へ維持管理費への補助を求めて町の財政負担の軽減を図り、町民に安心、信頼される取り組みを求めるものです。

以上4点です。前向きな御答弁を期待いたします。

○議長（中田隆幸君） ただいまの鈴木多津枝君の質問に対し町長の答弁を求めます。町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） それでは、鈴木議員にお答えをさせていただきます。

冒頭で平和の話がございました。実は、70周年、70年を迎えるということで今いろんな形で、あちこちテレビ等の報道等でもやっていることを承知しております。私どうして今この問題にお答えしたいかと申しますと、実は、昭和20年5月20日、B29に体当たりした飛行機の事故がありました。そのときに、川根本町で1軒だけ丸焼けになりました。そのほか、機体等はばらばらになりましたけれども、焼夷弾がまともに落ちたということで、その1軒が私のうちであったということだけを申し上げますと、やはり平和というのが大切だなということに改めて感じなきやいけない、そのような年であるというふうに感じたから冒頭で申し上げさせていただきます。

まず1点目でございます。

子育て支援の拡充・強化についての中で、育児支援者を派遣するシステムの構築をとという質問でございますけれども、現在、社会福祉協議会が作成した第2次川根本町地域福祉計画活動計画の中でも、地域福祉を支える担い手をつくることが目標として掲げられ、様々なボランティア育成の講座が開催をされております。

その一つに、託児ボランティア養成講座があり、平成25年度に10名の修了者、平成26年度に10名の方が修了をいたしました。今年度、川根本町社会福祉協議会と4,049万7,000円で締結した地域福祉推進業務委託でボランティア活動育成業務を委託されており、今年度も引き続き講座を開催し、託児ボランティアの確保に取り組む予定となっております。現在は講演会やイベント等の会場での託児を活動の場としておりますが、今後は、住民ニーズの調査をし、どのような活動ができるか検討をしていくというふうに伺っております。

町は、現在、子育て中の若い親世代の支援を目的に、子育て支援施設を藤川地区に開設し、子育てに係る様々な悩みなどの相談事業のほか、生活健康課との合同による遊びの教室なども開催し若い子育て世代の方々の支援を行っており、その活動の中で出された意見などをもとに、どのような子育て支援ができるかを検討してまいりたいというふうに思っております。

保育料の軽減についてでございますけれども、現在、国の制度にのっとり小学校就学前の範囲内に子供が2人以上いる場合、最年長の子供を第1子、その下の子供を第2子とカウントし、第2子を半額、第3子以降を無料としております。今年4月現在、第2子で半額の子供が30人、第3子で無料の子供が2人となっております。保育料の決定につきましては、毎年、保育所運営委員会で諮っていただき決定をしておりますが、現在の当町の保育料額は、国で定めた保育料上限額の約6割程度であり、適当なものであるというふうに考えております。

今後におきましても、国の制度の範囲内で保育所運営委員会の意見を聞いた後に保育料を決定していく所存であります。

また、2人目、3人目の学校給食費の軽減についてであります。学校給食費の軽減につきましては、さきの3月議会におきましても同様の御質問をいただいておりますが、今回の

お答えもほぼ同様になりますことを御了承いただきたいというふうに思います。

学校給食費に係る経費については、学校給食法第11条により負担者が定められており、施設設備費、人件費は設置者である市町村が、そのほかの経費としての食材費は保護者の負担とされております。保護者からの給食費は、栄養価や質に配慮しつつ食材費として充て、学校給食業務に努めております。平成27年度の給食費は、小学校児童が月額4,250円、中学生生徒が月額5,060円をいただいているところであります。

議員からの質問の2人目、3人目の学校給食費の軽減については、今後必要性が想定される食材価格の変動や、平成29年4月からの消費税率のアップに伴う学校給食の見直しの中で、議員が言われる子育てしやすいまちづくりという政策的な観点を含めた包括的議論につきまして、学校給食共同調理場運営委員会や教育委員会、さらに、今年から設置をされております総合教育会議の場で深めていきたいというふうに考えております。

続きまして、2点目の障害者に生きがいのある場所づくりについてをお答えさせていただきます。

みどりの丘、みどりの丘枝松は社会福祉法人、川根本町社会福祉協議会が運営する就労継続支援B型事業所です。現在、みどりの丘に11名、みどりの丘枝松に11名、計22名の通所者がいます。この事業所は、通常の事業所に雇用されることが困難である者に対して就労の機会の提供及び生活、生産活動の機会の提供、その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練や、その他必要な支援を行っており、障害者総合支援法に基づく訓練等給付費により運営をされております。

近隣の市町にも同様の事業所があり、パンやケーキ、クッキー、ぬいぐるみなどの自主製品の製作と販売、下請作業としての農作業や清掃作業、喫茶など飲食系を行っている事業所もあります。

障害のある方は障害の程度も様々あり、様々な就労機会や生産活動の機会を提供することにより一般就労に向けた取り組みができるものと考えます。議員ご指摘のように、パンや花の苗づくり、販売等は通所者に対する様々な機会を提供し、生きがいのあるまちづくりにつながると考えられ、事業者である社会福祉協議会とともに連携をとり合っていきたいというふうに考えております。

町としても、平成25年4月に施行された障害者優先調達推進法により、障害福祉サービス事業所等から優先的に物品、サービスを購入する努力義務が課せられており、法律の趣旨にのっとり発注拡大に努めていきたいというふうに考えております。そのことが、ひいては障害者に生きがいのある場所づくりにつながるものと思っております。

続いて、3点目、大鐵運賃補助についての御提案についてお答えをさせていただきます。

現在の公共交通運賃助成事業実施要綱では、大井川鐵道が運行する地区の町民が負担する運賃と町営バス運賃との格差の軽減のため、大井川鐵道が運行する鐵道及び路線バスを利用した町民に対し、年齢等に応じた運賃の一部の助成を行っております。大井川鐵道運賃補助

によって鐵道利用が大きく増えるかどうかは未確定でありますけれども、現時点では町内全域を対象とする制度変更は、今のところ考えておりません。

現在、公共交通施策として町で実施をしております町営バス、デマンドタクシーの路線の大きな課題は、南北を結ぶバス路線及びデマンドでの運行となっていない点が上げられます。この課題の解消にはもう少し時間をいただき、検討をしていきたいというふうに考えております。

一方、平成26年3月からの1日14本から、現在1日8本に減少したダイヤ改正の影響は、町民の通勤、通学はもとより、昼の時間帯に上りで3時間15分、下りで4時間7分の運転間隔の時間が発生し、日中の利便性も大変低下をしております。このことに関しましては、大井川鐵道の再建計画の進展とともに、必要に応じて行政として支援できる施策を関係各位と協議をしていく中で、沿線住民の利便性の向上を大井川鐵道に求めていく必要性を強く感じているところであります。一生懸命頑張りたいと思います。

最後に、4点目の質問でございます。

I R U契約における賃貸借料と相殺となる維持管理に要する負担として、センター設備で運用するサーバー類の管理、各世帯までの回線の状況管理、光ファイバー網や無線システムの障害時対応、センター内の通信機器保守になります。

御質問の中で、かわねフォンの維持管理費と言われている費用については、川根本町情報通信基盤施設条例第9条に規定する利用料であり、住民基本台帳に登録されている町民の方など、一定の条件に当てはまる利用者に限り町が1台分の利用料金を負担するものであります。この負担金につきましては、条例を改正しない限り継続するものであり、条例改正には議員の皆さんの承認が当然必要になります。

社会情勢の急激な変化など、今の時点では想像できない事態にならない限り、この利用料を町が負担する考えは変わらないものであり、利用される町民の皆様から利用料金はいただかない方針です。国に対する維持管理費の補助の要望については、現在のところ公設民営の事業に対しまして補助金の制度はありません。今後の運用状況を見ながら、維持管理に対する支援措置を新設する要望を、続けて働きかけていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（中田隆幸君） 再質問を許します。10番、鈴木多津枝君。

○10番（鈴木多津枝君） 再質問を順次行っていきます。

まず、1点目ですけれども、育児支援者の派遣の件ですけれども、今のところ社協でやっているのは、町長も言われたように、イベントなどのときにそこで預かるということで、家庭まで派遣をするということはやっていないんですね。都市部などでは民間の事業者のベビーシッターという制度があります。そして、それに1時間1,000円とか、自治体によってはその派遣料を補助している自治体もあります、東京北区などなんですけれども。そういうことで、ニーズがあればということなんですけれども、私は、今回これニーズを認めたので質問を

させていただきました。

具体的に言うと、それこそ個人情報になってしまうと思ひまして、ここでそういうことを言えないんですけども、本当に若いお母さんが小さい子供さんを抱えて子育てをしている。おじいちゃん、おばあちゃんがいらっしゃるんですけども、おじいちゃん、おばあちゃんだつてぐあいが悪いときがある。そのときに2人、3人の子供を抱えて1人で本当に大変な目に遭っているのを見て、去年の暮から言われたんですけども、「町にはそういうときにちょっとお願いすれば来てくれるような派遣制度はありませんか」と言われて、私は託児制度を勘違いして、あるかもしれないから聞いてみてくださいと言ったんです。だから、もしかしたらその方聞かれたかもしれないんですけども、多分ないということで、がっかりしていました。そして最近、そういう大変な状況にばったり出くわしたものですから、これは、それこそニーズは少ないかもしれませんが、そういう方はね。だけど、ここに書いたように、民間のそういうベビーシッター派遣の事業者があらわれるかどうかともわかりませんし、そういうニーズが1人でも2人でもあるなら、行政が対応してあげるようにできないかということを一先懸命考えました。

そういうことで、例えば若い役場の職員の皆さん、子育ての体験ができる、そういうことにもなるかもしれません。また、民生児童委員の皆さんは子育てのベテランの方々が36人ですか、38人ですかいらっしゃいます、その中の人たちにこういうことをやりたいんだよ、どうだろうという問いかけをしていただければ、じゃあというふうなことで何か一步が、じゃあ講習会やってみようとか、保育園に出かけて行って体験やってみようとか、そういうことが起きて、その第一歩が開けるんじゃないかなと思ひまして、ニーズがあればじゃなくて、少ないですけどもニーズがあるということをお伝えしたくて今回質問させていただきました。

そういう少ないニーズだから応えないと言われるのか、子供が宝だと言っているこの町で、本当にぎりぎりまで頑張っている、ただ時間が過ぎてくれるのを祈るように願っている、そういうお母さんたちを、ちょっとした行政の第一歩で守ってあげることができる、助けてあげることができる、そういうことを考えていただけないか、希望を持たせてもらえないか、そのことについてお尋ねいたします。

○議長（中田隆幸君） 福祉課長、鳥本宗幸君。

○福祉課長（鳥本宗幸君） それでは、鈴木議員のご質問にお答えをいたします。

鈴木議員のこの質問の要旨、ボランティア等を募って託児サービスをとということでございます。

私としては、ボランティアは、町長の答弁の中でも述べさせていただきましたけれども、社会福祉協議会で行っております託児ボランティアが現在のところ講演会、イベント等の会場での託児を行っております。その中で、社協の担当職員との話の中で、これからのニーズとしてあるようなら、またその活動の場として考えていくということも伺っております。

それともう一点、また別の観点からといいますか、議員も御存じのとおり、本年4月から子ども・子育て支援新制度が施行されております。これについてはいろいろな小回りのきく子育て支援ができるということで御承知だと思います。そのような中で、子育て支援員という制度が設けられております。これについては、地方公共団体、県等でございますけれども、全国的に展開されることになると思いますけれども、今まで子育ての経験者であるお母様方であるとか、そういう方に講習を受けていただいて、いろいろな子育て支援の資格を取る制度が本年の4月から始まっております。

その制度はまだ始まったばかりで、講習会等の詳細な内容については、まだ県等からお知らせが来てございませんけれども、当然そういう方は子育ての経験のある方でございますので、30代以下の若い役場の職員よりも子育てについては熟知をしておられますし、講習の内容の中でも指導を受けられるということです。その支援員の制度をとると、将来的にもっと、希望があれば保育士の資格を取るときの基礎の点数になるとか、そういうような制度もありますので、そういう制度を町民の方々に広く周知をして、とにかく託児、子供を預かるというのは人材がなければ、建物をつくっても始まらないわけですので、そういうところについてこれから力を入れていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（中田隆幸君） 10番、鈴木多津枝君。

○10番（鈴木多津枝君） なかなかちょっと知らなかったことも教えていただいて、ありがたいなと思いました。ぜひ、昨年8月に公布された、課長が言われるような子ども・子育て新制度で、うちの町は待機児童という問題はないわけですがけれども、やっぱり地域の小規模な少人数の子供を預かる地域型保育事業への財政支援を行うということを示されております。そして、この地域型保育事業の中に居宅訪問型保育、いわゆるベビーシッターというふうにきちんと明記されているんですね。だから、そういう制度をつくっていただきたい。

役場の職員の方々、若い人ではというふうな課長さんの説明がありましたけれども、やっぱり私は、子育ての体験をするというのも一つの大きな、このまちづくりの中に有効なことかなと思ひまして提案をさせていただきましたけれども、特にそこはこだわりません。組織ができてからというのではなくて、本当に早急に、1人でも2人でも希望者を募って講習会を開いて、資格を取らなければやれないということでしたら、そういうふうなことを大急ぎでやっていただきたいなど。

現に、3歳未満児の半分ぐらいは保育園に行っていないんじゃないかと思うんですよ。そういう子供たちを家庭で育てているところにちょっとした支援があれば、昔はお隣のおばちゃんが見てくれたとか、そういう支援があったんですけれども、国も厚生省も、地域の子育て支援力が落ちているということをはっきりうたっていますし、そういう中で、川根本町、子供が宝だと。その宝を育ててくれているお母さんたちが困っているときに支援できなくて、何で宝と言えるんだと、私は本当にそういう思いで質問させていただきました。ぜひ早急に

取り組んでいただきたいと思います。

2点目ですけれども、保育料のことですけれども、法律の中でというお答えで、またちょっと積極的に見えないんですね、子供が宝だと言っているのに。しかも、先ほど藺田議員の質問にも、人口減少には特効薬はないと町長は何回も何回も繰り返して言われているわけですよ。そして、あらゆる施策を展開したい、早急にやるのが大切だと思っている。先ほど言われたばかりです。私はいいお答えを聞いたと思ってメモをしました。

保育料、今年決まったから、もう来年だよということかもしれませんが、もう多くの自治体が保育料の軽減を実施しています。だけど私は、軽減というよりも、2人目半額、3人目無料になっているのを、その人数に小学生とか中学生の子供、3人の子供のうち学校に上がるともう2人目とかいう対象にカウントされなくなってしまうんですよ。だから、それをカウントを入れている自治体もあります、もう既に。高校生まで入れて3人と数えるよとか、3人目からは無料にするよとか、そういうカウントの仕方をきちっと実態に合わせて、本当に子育て支援になるようなカウントの仕方をしていただきたいということなんですけれども、町長、どうなのでしょう。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 子供を育てることについては非常に難しい判断が必要というふうに考えております。と申しますのは、本来は、果たして保育所で親子として離れて施設で教育するのが本当の子供のためになるのか、または、家庭で大変だけれども育てることがいいのかという判断は、それぞれ人によって違うと思います。それを私は、一律的に、こういう方法でこうしなければいけないという判断をするということはなかなか難しいと。それぞれ子育ての仕方はいろんな方法があるということ認識しなきゃいけないというふうに思っています。それが財政的に苦しいからどうだ、豊かだからこうという話じゃなくて、やはり選択肢をもって対応する必要があるのかなという感じがいたしております。

それから、子育ての関係で、この川根本町は、私は子育てがよそより大変おくられているという状況にはないと思っています。どちらかといいますと積極的に対応しているほうだというふうに考えております。

しかしながら、全てを無料化すれば全てが対応できるという判断は、今ところしていないということだけで、方向性については何ら変わりはありません。

○議長（中田隆幸君） 10番、鈴木多津枝君。

○10番（鈴木多津枝君） だんだん答弁がおかしくなっているんじゃないですか。

私は子育ての仕方云々を聞いてはいません。保育園に預けているお母さんたちの保育料をカウントするときに、子供さんが例えば3人いらっしゃる、その子供さんを、我が町は本当に2人目は半額、3人目は無料ですよと、とつてもすばらしい制度をとっているわけですよ。だけど、それがなかなか評価されないのは、先ほども最初に答弁がありましたけれども、第2子は30人、それから第3子の無料になっている人は2人しかいない。それは、もしかした

ら3人子供さんはいるんだけど、もう上の子が小学校に上がっているから2子とか3子とかに数えられないよと、カウントされないから半額にならない、無料にならないという状態が起きているんじゃないかと。だから、それを解消するために子供の数、第2子、第3子を上限を設けなくて、子供の数で、人数で適用していただきたいということをお願いしたんですけども、どうでしょうか。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 答弁がおかしくなってるんじゃないかと、そういうふうな見方をされる場合があるということをお願いしたのであると。

それから、保育所の関係、これは明確に教育運営委員会が設置されているという中で、当然そのような方向で議論していただいて、方向性が定まれば当然、私はその方向性を大事にしながら対応するというところだけには間違いありません。私はこれまでも委員会を軽視したことはありませんし、十分大事な議論をしていただいているということで、重要な位置づけにしているということだけは、これまでと変わっておりませんので、確認をさせていただきたいと思います。

○議長（中田隆幸君） 10番、鈴木多津枝君。

○10番（鈴木多津枝君） 議員として提案権があるということで提案をさせていただきました。運営委員会の答申と申しますか、まだ諮問もされていないことですが、ぜひ諮問していただきたいと思います。

次は給食費の件ですけれども、給食費、これまでも何回もお願いをしました。学校給食法第11条に規定されている食材費だけだと、父母に負担していただいているのは。そういうことが答えられて、今回も、それでも町長は、少し前向きに今度学校給食運営委員会ですか、そういうところで町の政策として検討していきたいというふうな感じのお答えをされたわけですけれども、やっぱり今、子供の貧困というのが本当に広がっているんですよ。つい最近の報道でも、18歳未満の子供の6人に1人が貧困状態。

貧困というのはどういうのかというと、平均的な所得の半分以下の世帯ということなんです。そして、もしシングルマザーの御家庭では、2人に1人の子供が貧困世帯に値するというふうなことも静岡新聞だったと思いますが、載っていました。

そういう状態で、昨年1月に子供の貧困対策推進法が施行されて、8月に策定された大綱でも、子供の貧困の実態は見えにくく、捉えづらいと書かれています。そして、実態を踏まえた施策の推進を表明する中で、食については学校給食の充実や低所得世帯への給食費補助、食育推進で栄養状態の確保に努めるとしてあります。とっても大事なことです。

また、子供の貧困が広がる中で、子供が生まれ育った環境に左右されずに心身の健やかな成長を社会全体で協力していく必要があるとして学校給食費の無料化に踏み切り、町の少子化対策、移住・定住政策の一環として無料化補助を実施している自治体も少なくありません。この近隣市町では余り聞いていないんですけども、それだけに、若い人たちへ高校卒業ま

での医療費をゼロにした町、この町は本当にそういうすばらしいことをやっている。放課後児童クラブも6年生まで拡充しました。静岡あたりの若い娘たちもいますけれども、お母さんたちに言うとうらやましくてたまらないと言います。そういうすばらしいことを手がけながら、西米良村とか、それからつい最近も、島根県の邑南町、テレビでやっていましたね。子育て支援が手厚いから若い人たちが移住をしている、どんどん。25世帯移住した中の5世帯が子供連れだったと。この町の子育て支援がいいから、子供を育てやすいからといって移住してくれたというふうなことをテレビで言っています

だけど、うちの町はこれだけ頑張っても何かアピールが足りないんですかね、子育て日本一の町だよって胸を張って言えますか、町長。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 日本一になったとは思っておりません。だんだん日本一に近づいていくのかなというふうに感じております。

その中で、今言われた軽減の関係、これで私が具体的に知っているのは、やはり東京都の小笠原村です。あそこはとんでもないほどの母子家庭を大事にしているということの中で、やはり若い所得の少ない方でも対応できるということで、大変な大きな子供の数が増えてきたということも聞いております。

そのように、大変苦勞されている方を応援するのは行政としては当たり前ですが、やはりどの程度を応援するかということが非常に大事で、その目配りが大変重要ではないかというふうに思っています。

私どもは、今言われたように、よそに負けないほどの子育て支援を対応していきたいという思いは変わっておりません。ですので、1番になるのはいつかわかりませんが、そのようなつもりで対応することは必要というふうに思っております。しかし、全てがそのような形で進んでいくということには、なかなかならないのが現況であるということだけは御理解いただきたいし、そのような中で、先ほど来お茶の関係でも出ておりますけれども、やはり全て行政が対応できるという状況ではありません。ですので、行政のできる範囲で対応するというのが一番大切ですし、当然ながら行政としては積極的にそれを進めるという姿勢も必要というふうに考えております。

今の意見につきましては、当然それぞれの委員会等でも早急に方向性を定めていただく、それに沿って私どもも進めていくということだけは間違いない方向性でございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（中田隆幸君） 10番、鈴木多津枝君。

○10番（鈴木多津枝君） それぞれの委員会でも早急に報告をして検討されるという答弁で、少し力をいただきました。

13日に首都圏に移住者を呼び込めということで、山梨・静岡合同の移住相談会を横浜市内で開いたという記事が新聞に載りましたね。知らなかったんですけども、当町も相談を受

けるブースをその場所に出して、田舎暮らしのよさや暮らしやすさをPRしたというふうに書かれてあったと思うんですけども、反応はどうだったのでしょうか。

○議長（中田隆幸君） 企画課長、山本銀男君。

○企画課長（山本銀男君） 7月に1人の方が空き家のほうを実際に見たいということで、そういう要望が来ております。

○議長（中田隆幸君） 10番、鈴木多津枝君。

○10番（鈴木多津枝君） 徳山にも昨年、6人家族の方が1世帯移住して来られました。ヤマタさんが御紹介をして連れてきてくれたんだよということで、小っちゃい子供さん2人連れていきます。おじいちゃん、おばちゃんもいて、若い御夫婦です。そういう方たちが、つい近所の方が、「もう本当に子供の声が聞こえるというのがこんなに元気をもらうことだとは思わなかった」と。長年おばあさん1人で暮らして空家になっていた、そこに入って来てくれたんだよ。改造もそんなに大規模な改造をしなくて、今喜んで住んでいるよということで、時々、道でも出会います。2人の子供さん遊ばしている。

やはりそういうふうに、町がもっとももっと、この町が子育てしやすい町、日本一という評価は誰もできないと思うんですよ、なかなか。だけど、日本一にするんだよ、うちの町は日本一だよって言える誇りを持つということが大事なんじゃないですかね。そこに向かって行っていれば、決して今日本一でないかもしれないけれども、日本一になるように頑張っているよって胸を張って言う、町長が発信してくださることが、やっぱり川根本町ってすごいんだなって皆さんに印象づけていくことになりますよ。だから、ぜひもっともっと、委員会で大急ぎでということですので、そこに一生懸命大きな期待を寄せていますけれども、ぜひ進めてください。待ったなしです、本当に待ったなしです。私は何回も質問しています、子育て支援を。だから、待ったなしのことをやっていただきたいということです。

次に、2点目の障害者の生きがいの場づくりについてですけども、障害者の能力を生かした生きがいが持てる、働く場をつくれなにかということは、いつも私の胸から離れません。障害と言っても一人一人できることが様々で、対応も大変でしょうが、通告した後ネットで調べているうちに、島田市、これ本当に近くにあったんですね、平成25年12月に市役所の1階に「にじいろ広場」をオープンしています。そして、毎週水曜日の午前10時から午後1時まで、各授産所から手づくり製品を持ち寄って販売しているということを知りました。御存じでしょうか。

○議長（中田隆幸君） 福祉課長、鳥本宗幸君。

○福祉課長（鳥本宗幸君） 残念ながら、その広場については存じ上げておりません。

○議長（中田隆幸君） 10番、鈴木多津枝君。

○10番（鈴木多津枝君） 私も知らなかったので責めることはできませんけれども、本当にすごいことがやられている。私もそういうところがあるといいなとずっと思っていました。高郷の学校給食センターを青部に統合するとき、本川根町と一緒に、そのときあそこが広場

になって、今も広場になっていて、うちが1軒だか2軒新しく奥のほうに建っているんですけども、大半は広場になったままになっています。あそこに枝松作業所をつくってほしいと何回も言ったんですけども、それはかないませんでした。それはなぜかという、通りにそういう施設をつくって地域の人たちと交流をして、自分たちがつくったものを自分たちで売って、地域の人たちと楽しい会話ができる、お互いに励まされると思うんですね。私たちも励まされるし、障害者の人たちも誇りを持てる、自信も持てる。そういう施設をつくるべきだと思っていたもんですから、非常に残念だな、やれるのに一歩が出ないなとずっと思っていました。

そうしたら、島田の市役所の中でこういうことがもう平成25年12月ですから2年近くやられているということで、市役所の職員の皆さん、あるいは来られた住民の皆さんが買って、2時間、3時間ぐらいのオープンだそうなんですけれども、自分たちがつくった野菜とか、先ほど町長が最初に言われたように、手づくりのお菓子とかお人形とか、マスコットとかいろんなものを持ってきて、長机を2個ぐらい置いて販売をしていらっしゃるそうです。私、ぜひ、議会が終わったら、今度、来週にでも見せていただきに行きたいなど。水曜日だそうです。ぜひ皆さんも見ていただいて、こういうものを川根本町でも取り組めないかなということぜひ研究していただきたいんですけれども、どうでしょうか。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） よくイベント等で陶芸とか手づくりのものを売っていることは承知しておりますし、よく大きな声で「町長」と呼ばれては、買っていけということを言われますけれども、ああいう場所を提供しろという話ですよ。皆さんも、大変そのときにはいい顔をしています。やはり楽しく自分のつくったものを売ろうという意識があるもんですから、私も意外と義理で買うほうが好きなもんですから、義理で買いますけれども、やはりそういうような顔を見ると応援したいと思うという中で、どちらかイベント等も含めて、そういう場所を提供するのは当然一番いい方法ではないかということは、私自身も承知しております。

しかしながら、島田市で今そのようなことをやっているということは承知しておりません。その中で、県庁の中でもやはり、あその2階の喫茶等は明光会の皆さんがやっているということも承知しておるもんですから、そういう場所の提供は行政が積極的に対応する必要があるというふうに思っています。

○議長（中田隆幸君） 10番、鈴木多津枝君。

○10番（鈴木多津枝君） その障害者の生きがいと所得を得る方法として、もう一点提案をしたいんですけども、当町でも、地名の生しいたけの工場とか、例えば農林業センターなどで、もしかして障害者によっては雇用が可能性があるのではないかと。行政でも前に、徳山でも第一小学校で、パソコンをできるようになったら短い時間だけでもお仕事が、整理などが頼めるよということで、澤村教育長さんでしたっけ、そのときにずっと1カ月ほど習い

に通った人もおられます。

そういうことで、つくったものを優先的に行政が買わなければいけないということもありますけれども、ぜひ、障害を持っている人たちの障害の程度に合わせて、公共事業でも、施設の中でも雇用ができるような、長い時間は無理かもしれません。その人に合った時間、やれることを見つけて、明らかに私たちから見れば、車椅子の人がいらっしゃる、よく頑張っているなど、そういう場をつくっていただければ、町民の人たちも自分も元気をもらえる、励ましになるし、障害年金だけで生活している障害者の方々にとっても少し喜び、誇りに、生きがいになるんじゃないかと思えますけれども、どうでしょうか。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 私も何回か、年度始めか年度終わりに施設を回っております。その中で、一般の業者の皆さんが包装とか袋詰めみたいのをやっていたらということも確認してまいりました。そのように、一般の企業の皆さんも何とかあそこで仕事をしていただくと、それぞれの施設で。そういうことも具体的にやっているようでしたので、こういうのを広めたほうがいいなという話はしてきましたけれども、そのような形で、一般の皆さんにも、行政のことはもちろんですが、関連するものについては当たり前ですが、そういうことも少し広げていく必要があるのかなということ、挨拶に行ったときに感じましたので、その辺の方向性で進めていくことが必要というふうに考えております。

○議長（中田隆幸君） 福祉課長、鳥本宗幸君。

○福祉課長（鳥本宗幸君） 1点、その点について補足をさせていただきます。

鈴木議員、授産所とおっしゃいましたけれども、平成25年4月1日、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律が施行されて、先ほど町長の答弁の中でもございましたけれども、就労継続支援B型事業所ということで社会福祉協議が運営をしております。

町長の答弁の中でもありましたように、一般就労等への移行に向けた支援、その能力を生かすための支援をその事業所で行ってございます。その答弁の中でもございましたけれども、国からの運営費で運営してございます。なおかつ、作業をして工賃をいただいて、それが通所者への工賃として支払われるということになっています。

当然、障害者優先調達推進法ということで、そういう障害支援サービス事業所からの物品だけでなく、いろいろな、先ほど町長の答弁にもございましたけど、いろいろな作業、清掃作業であるとか、パソコンの入力であるとか、そういうことについても、できたらそういうところから優先的に調達しなさいという法律でございますので、町長の答弁にもございましたけども、本当に障害の程度がいろいろあって、それを施設としていろいろ指導していくのは大変なことだと思いますけれども、そこで一般就労へ向けた訓練が終わったならば、そこからまた一般就労に向けて一般の企業であるとか行政のほうで雇用というのにつながっていくと思いますので、そういう点については、また社会福祉協議会と連携をとり合いながら進

めていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（中田隆幸君） 10番、鈴木多津枝君。

○10番（鈴木多津枝君） 次に、大鐵の運賃補助についてお聞きいたします。

何か私も緊張していて、よく答弁をきちんと聞けなかったんですけども、余り考えていらっしやらないみたいな答弁でしたでしょうか。

私が提案しましたのは、大鐵の経営者が今度かわるという報道があったんですけども、その新しい経営者が、町長が言われたように、今までの経営者は減便をしたり、本数をなくしたり、駅にとまらないところをたくさんつくっちゃったりとかいうことで、もう地域の足というふうに見ていないんじゃないかというふうな状況が生まれてしまいました。でも、そうじゃなくて、やっぱり地域の足なんだと、大鐵なくなったら、本当に定期的に足を確保するというのがなかなか難しくなるということで、私は、住民の人たちが、高いんですよ大鐵の料金というのはね。だから不便だという点もありますけれども、高いという点もあって、なかなか乗れないんですよ。でも、以前ワンデーフリー切符というのを発行したときには、大鐵に働いている方が、すごい、いつもの何倍、その当時3倍か4倍ぐらい乗ったんだよというふうに言われましたけれども、全然町が、自治体が補助していないので、大鐵が全部それを安くした分を見なきゃいけない。もう少し自治体も力をかしてくれればいいのになというふうな話を聞いた覚えもあります。

そういう意味で、今回、大鐵の運賃補助というのは、支援というのはずって言うんですけども、住民の足として、住民になくってはならない足だよということを示すためにも、町民の人たちが乗りやすくしていく。私は、バス料金と同じぐらいにというふうに提案しました。ぜひそういう意味で、大鐵の運賃補助を行って、これは1円も無駄にならないと思うんですよ、使えば、使った方に補助をしていく、安くするための出費、町が出していくということですから、使いもしないものにお金を出すというのは全く違うわけですよ。だから、この地域にとって大鐵は大事だという御認識があったら、ぜひ、私の提案どおりの200円というふうになれば皆さんも喜ぶでしょうけれども、地名から金谷まで片道1,050円です、正規に乗ると。本当に高い料金を安く、半額とかにして、そういう大鐵が本当に住民の足になるように、新しい経営者にも意識してもらおうという、そういう経営の支援も行うことになるということで取り組んでいただけないかという提案なんですけれども、どうでしょうか。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 実は、夕べの石破大臣の話も、そのようなことを具体的に説明して一席ぶっていたというのが昨晚です。

確かに今言われたとおり、地域の住民の足であるということに変わりはないわけですが、ただ、以前より変わって、本当の住民の足かといいますと、なかなか95%が観光となるなら

ば、5%は果たして住民の足と言えるかどうか。やはり比較しますと観光鉄道であるということの収入源には変わりはないと。

しかしながら、住民が通勤、通学で通っている、皆さんも当然いらっしゃるという中では、行政は行政のできる範囲で対応することは当然必要というふうに考えておりますし、これまでも側面からいろんな形でバイパスの運行等につきましても町が相当の出費をして対応してきたという経緯もございます。

今度29日に大井川鐵道の株主総会がありますけれども、その後、正式には9月1日から経営者がかわるであろうというふうに言われております。その中で、実はまだ正式に新しい経営者と、どういう方針で、どういう運営の仕方をするんだという具体的なことは、島田市も川根本町もまだやっておりません。これから当然ながら経営が、株主総会が終わればある程度具体的になってきた中では、当然、私どものほうからも、向こうからも言ってこられると思う。会議は持ちながら、今言ったことを対応していくことが必要であるし、今言われたとおり、やはりこれがあるのがいいのか、ないのがいいのかといえば、ほとんどの方があったほうがいいに決まっているということになります。

私は、もう一つ大事なことは、この大井川鐵道を昭和4年だったでしょうか、そのときに開設したときの気持ちを沿線の住民がどこまで持てるかということも一つの指標になるのではないかなというふうに感じております。やはりなくなったときの不便さというのはもっとひどくて、やはり今あるものをなるべくなくさないように、行政のできる範囲で対応していくことは必要ですし、当然ながら、町民の皆さんにもいろんな形で御負担をいただくかもしれませんが、それは存続をするためには必要だということになるろうかと思えます。

それで、運転はといいますと、当然あるものを使っていただく。それにはどうしたらいいだろうということで、私もワンデーフリー切符は十分承知しております。そのような仕組みもやった経験があるものですから、どういう方法がいいかは別として、今後検討課題であるということで対応していきたいと思えますし、早急に対応しないと、来年度からまた間に合わなくなるということもあるものですから、9月の以前にそのような具体的な話はしていく必要があるというふうに考えています。

○議長（中田隆幸君） 10番、鈴木多津枝君。

○10番（鈴木多津枝君） 4番目のかわねフォンの利用料金、無料だということで、条例を変えない限りは無料だよと、天変地異でも起きない限り。皆さんにお伝えしていきたいと思えます。

それで、通信機器が業者とのIRU契約で、通信機器は相殺の項目に入っているんですけども、かわねフォン通信機器ではないということで、毎年3,000万円近い保守管理費を払うということになってはいますけれども、余りに業者の言いなりの金額を受けているのではないかと私は思います。1台800円というのはどのように計算したのか、それを下げる交渉というのは行ったのか、お聞きします。

- 議長（中田隆幸君） 企画課長、山本銀男君。
- 企画課長（山本銀男君） 下げる交渉というよりも、利用料として幾らなら適正かというこ  
とで運営事業者との話し合いは行いました。
- 議長（中田隆幸君） 10番、鈴木多津枝君。
- 10番（鈴木多津枝君） 適正という、その理由を教えてください。
- 議長（中田隆幸君） 企画課長、山本銀男君。
- 企画課長（山本銀男君） もっと人口の多い大きな市町、そこと小さな人口を持つ町、やは  
りそこには運営していく上での運営費等、またサービス提供に、人口に比例はするわけでは  
ございませんけれども、最低限必要な人員の確保等についての新しい会社を町に起こす中  
での話し合いがあった、その中でのサービス料金としての提示でございます。
- 議長（中田隆幸君） 10番、鈴木多津枝君。
- 10番（鈴木多津枝君） 私たち議会には、運営費がどれぐらいかかるか、何にどれくらい  
かかるかという概要は一切説明を受けていませんね。議会が終わったら、ぜひ出していただ  
きたいと思うんですけども、どうでしょうか。
- 議長（中田隆幸君） 企画課長、山本銀男君。
- 企画課長（山本銀男君） 会社の運営費ということでございます。それは、私のほうからは  
直接出せるとは言えません。会社のほうの経営の内容については直接答えはできません。
- 議長（中田隆幸君） 10番、鈴木多津枝君。
- 10番（鈴木多津枝君） じゃ、800円というそれが適正というのはどこで判断されたんで  
すか。
- 議長（中田隆幸君） 企画課長、山本銀男君。
- 企画課長（山本銀男君） 議会のほうには紙ではお分けはしてございませんけれども、今回  
のこの事業を始めるに当たりまして、スライド等でお示しをしたことは私の記憶にはござい  
ますので、その中でも示したことはございます。また、光ファイバー等を使ってインターネ  
ットをどのくらいの想定をしているのかといったときに、900件ですか、そのような資料を  
出していますし、昨年3月のときにも、議会のほうには資料としては何らかの資料は出して  
あると記憶していますけれども。
- 議長（中田隆幸君） 10番、鈴木多津枝君。
- 10番（鈴木多津枝君） ぜひ見て、もし出していない資料でしたら再度出していただきた  
いと思いますけれども、いいですか。
- 議長（中田隆幸君） 企画課長、山本銀男君。
- 企画課長（山本銀男君） 出せる資料でしたらお出しをいたします。
- 議長（中田隆幸君） 10番、鈴木多津枝君。
- 10番（鈴木多津枝君） 本当にそういうところが何だか雲に隠れていて中身がよく見えな  
いということで、住民の人たちが、まだ何か隠していることがあるんじゃないかというふう

なことも私は何回か言われています。そこでは、この800円の町の負担についても、私も突然だったので、本当に何が隠してあるかということでは私にはわかりませんとしか答えようがありません。あるかもしれないし、ないかもしれないしという思いが半信半疑です。

そういう中で、今、業者と話し合いをしたというんですけれども、幾らが適正化という。その協議はいつごろ、誰とどこで行ったんですか。

○議長（中田隆幸君） 企画課長、山本銀男君。

○企画課長（山本銀男君） それは当然、今回の事業が始まるに当たって、昨年工事が施工する前から継続して、今回契約を行う前までの間継続して行っております。何月何日と言われますと、そこまでの私の記憶は現在ございません。

（「誰と」の声あり）

○議長（中田隆幸君） 企画課長、山本銀男君。

○企画課長（山本銀男君） それは、当然予算執行を伴うものですので、執行部と話をしております。

○議長（中田隆幸君） 10番、鈴木多津枝君。

○10番（鈴木多津枝君） それを入札の後の契約を済ますまで議会に報告しなかった、議会に相談もしなかったというのはなぜですか。

○議長（中田隆幸君） 企画課長、山本銀男君。

○企画課長（山本銀男君） 一つ誤解のないようお願いしたいんですけれども、利用料金としてのお金は、当初の説明から、利用する方、町民の方から、かわねフォンを使えば利用料金いただきますよということはお伝えをしてございます。その料金を町が持ちますよと言ったのが昨年の9月のことございまして、料金がかかりますよということは当然発信をしておりましたので、そこは町が持つのか、住民が持つのかということで御理解をいただきたいと思えます。最初から料金が何もかからないというような説明は行っておりません。

○議長（中田隆幸君） 10番、鈴木多津枝君。

○10番（鈴木多津枝君） 先ほど町長は、国の制度は運営費には、公設民営の場合はないというふうに答えられましたね。国に相談をしたんでしょうか。

○議長（中田隆幸君） 企画課長、山本銀男君。

○企画課長（山本銀男君） 当然、制度的なものにどういうものがあるかということは相談をしております。

○議長（中田隆幸君） 10番、鈴木多津枝君。

○10番（鈴木多津枝君） 最近ではいつですか。

○議長（中田隆幸君） 企画課長、山本銀男君。

○企画課長（山本銀男君） 運営費の相談ということでございましょうか。

（「補助」の声あり）

○企画課長（山本銀男君） 補助自体は、現時点では、運営自体の補助はございません。それ

は、相談以前に、そういう法律が既にあるので。ただ、いろいろな過疎地域活性化協議会等の要望事項として、全国の団体とあわせて要望を上げ続けているというのが現状でございます。

○議長（中田隆幸君） 10番、鈴木多津枝君。

○10番（鈴木多津枝君） 総務省の総合通信基盤局電気通信事業部高度通信網振興課というところがありまして、そこに聞いてもらったんですけども、2013年、平成25年度から民間に設備を貸し出してサービスを提供する場合は補助制度はないけれども、自治体が自らサービスを提供する場合は、赤字の2分の1を特別交付税で措置する制度が2013年度からできましたという説明がありました。御存じでしたか。

○議長（中田隆幸君） 企画課長、山本銀男君。

○企画課長（山本銀男君） 自ら運営するということにはあるというのは承知をしております。

○議長（中田隆幸君） 許された質問時間30分が過ぎましたので、ここまでにいたしたいと思えます。

これで、10番、鈴木多津枝君の一般質問を終わります。

6番、芹澤廣行君、発言を許します。6番、芹澤廣行君。

○6番（芹澤廣行君） 6番、芹澤廣行です。最後になりましたが、事前通告に従いまして下記の質問を行いたいと思えますので、よろしく願いいたします。

議会だより速報版68号におきましては、町民の皆様に対して一般質問の内容、私の場合は、1、川根本町の観光振興、道路の諸問題について、2、資料館やまびこの活用についてのこの2項目でありましたけれども、今回、内容的には少し踏み込んだ形で行政側に質問させていただきます。

先ほど来、同僚議員より本町の産業である茶生産業のテーマについて、どのような打開策があるか、おのおの議員、様々な切り口で質問がございました。また一方では、お茶の産業と同様、川根本町のもう一方の主たる産業であります観光事業においても、長期間にわたって当町への宿泊観光客あるいは日帰りの入り込み客の減少は、数字が物語るとおり長い間右肩下がりの現状であります。私は、観光客の入り込み数の減少の最大の要因の一つとして、当川根本町の道路事情の悪さといえますか、劣悪というまではいきませんけれども、それが最大の要因と考えております。

以下、川根本町を中心とした道路事情の現況と今後の展望について質問を行っていきます。

まず第1に、昨秋、藤沢橋の開通式を行った会場で島田土木事務所長が明言された内容の確認になると思えますが、所長の挨拶の中で青部バイパストンネル工事の詳細設計は平成26年度に完了し、平成27年度より着工すると明言されておりました。全てのトンネル工事完了の時期について、既に町長は情報を把握されていると思えます。また、けさ渡されました土木事務所の7月9日の我々に対する説明会があれば、このような質問はなかったと思うので

すけれども、一般質問の提出が6月12日だったものですから、この件について、その時期についていつになるか、町長に明確な日時をお答え願いたいと思います。

第2に、長島ダム建設に伴って整備された川根本町の一番奥の新設接岨大橋までは本当に立派な道路が完成し、地元住民は大いに利便性を得ることができておりますのが現実です。しかし、その奥の閑蔵線の整備はいかがか。毎年1億円の予算という中で、長島建設が漸次、予算の範囲の中でかなり高度な規格の道をつくっております。それは、私も6月8日に現地を視察しまして確認してきたところであります。

しかし、その以南の閑蔵から整備された道までの大井川右岸の大部分は、皆さんもほとんど知っておられると思うんですけれども、非常に狭隘な道であり、カーブも多く、落石も多く、本当に危険な場所であり、私は落石に当たったことはございませんが、ただ川根本町にいらしたお客様に、井川もあるよ、畑薙もあるよ、静岡までも行けるよというふうな案内は恐ろしくてとてもできるものではありません。本当にいつ事故があってもおかしくないような道であるということは、町長はじめ皆さん、この場にいる方はほとんどの方が認識されているということでございます。

これは、とにかく接岨の大橋を渡った瞬間に、道路がここで終わってしまうのかというふうな感じはいつも私は持っております。それが本当に、接岨大橋を渡りまして大井川の右岸をぐねぐねと井川まで向かっている間の道というものは非常に劣悪でありまして、危険であり、また拡幅というふうなことを考えても、非常に大井川の上流、中流域くらいになるんですけれども、狭隘な部分でありまして、山を削るのも不可能であり、張り出しを出すのも不可能なような道が約6キロと少し続いております。

しかし、その道の中で、長島建設が整備されている井川からの道が毎年、毎年出てきますので、将来的には、その危険な川沿いの道を回避して、井川閑蔵線をトンネル化するというふうな夢のような話も、これは近い将来必ずや必要になってくるという意味で続けての質問をさせていただきます。

その大井川右岸の狭隘な危険な道を一部トンネル化するというふうなことは、町民の皆さんは、おのずと井川の皆さんも含めて望むところではありますが、町長の、現在のあの道を見て、通った上での所感を伺いたいと思います。

また、当日、井川の住民の多くの方にお話をする機会がありましたものですから、どのような形であの道を考えるかというふうに聞きますと、私どもの川根本町の旧本川根の役場、総合支所から井川の静岡市の支庁まで、井川閑蔵線を通っていても25.9kmしかないわけです。非常に遠いような地区に映りますけれども、距離的には26km弱というふうな非常に近いところであるけれども、感覚的に道があって遠いというふうな、そんな感じがしております。

それから、井川住民の皆さんと話す中で、昭和36年8,000人とも9,000人とも言われた人口が、きょう現在、わずかに500余名というふうな極端な減少をしている中で皆さん生活をしているわけですね。中学生が1年生から3年生までで3人、小学生が1年から6年までで10

人、これでも立派に学校を運営し、静鉄のジャストラインはもうあそこに行っていないですから、市営のバスで最南東の中学校から田代のほうまで市営バスを動かしているというふうな現状であると。その中で多くの皆さんが、本当に歴史的にも川根地区の皆さんとは長いおつき合いがあるし、今後も何とでもつき合いを深めていきたいと。その一つの難点になっているのが井川閑蔵線であるもので、これをトンネル化するという点については、川根本町の町長をリーダーとして手を挙げてくれれば全面的に協力するしという意見が自治会連合会の会長の森竹さん、それから観光協会の会長、それから森林組合の会長、皆さんと面談しても、やはりそれはもういい話だと、ぜひ早急に動いてくれというふうなことのお話も承ってまいりました。

それと、この質問をするときに、前段の事前通告では、井川閑蔵線の現状と早期の整備について川根本町としてどのように考えているかということと、井川、雨畑林道の現状と復旧開発の見込みについて、これは議会運営委員会で本当に真剣に議論させてもらいまして、地番が違うところの道路の問題については、芹澤、いかがなものかということで、きょう配られた資料の中には雨畑線、閑蔵線という具体的な名前は載っておりません。しかし、私が、本当にこの町が衰退の一途をたどる中、きのうの井林代議士を囲む会でも、石破大臣は何遍か「消滅」というふうな恐ろしい言葉を発したわけですね。それから統計的にも、実際40年にはあの町は4,000人になるだろうというふうなことも新聞紙上で書かれております。

しかし、我々は、この町で生まれ、この町で育って、絶対にこの町を存続するんだと、滅亡させてはいけないという意味に立って、現在、観光道路としている接岨峡温泉でとまっている道路を何とかこじあけて、静岡まで、あるいは夢のような話ですけれども甲州、信州への道の周遊道路として何とかならないかという観点で、3日ほど取材に行っていました。

雨畑線につきましては、山伏以降は23年の大雨で完全に崩落して通行不可能であります。あくる日、6月9日に早川町に飛び入りで入って、町長に会わせてくれと言ったら、残念ながら町長は出張中だということで、担当の方が、日軽金が自分でつくって使用している雨畑ダムの上流7kmぐらいいまで案内してくれたわけですけれども、やはりそこから先もだめだということで、恐らくこれは県が主体となり、静岡も応援する事業の中で、川根本町から井川を抜けて甲州、信州への周遊街道というものは当面の間無理だろうというふうな感じは、私いたしました。

その帰りに、その前の日ですか、井川に行きまして、23年に崩れたいわゆる県道南アルプス公園線を井川ダムの法面を通りながら、富士見峠を通りながら牛島におりてきました中で、もう完璧に補修されております。大きな崩れが3カ所あったわけですが、その間、井川の住民は口坂本経由で通っていたわけですけれども、驚くほど立派な道に改修されております。これはリニア新幹線の資材を輸送するという意味において、国交省が中心となり、あるいはJRの希望もあつてつくった道だと思います。たまたまきょう発行された「いかわね新聞」にも、ここに7月18日から8月31日まで畑薙のほうまでバスが通るよというふうな

ことも、きょう見たわけですがけれども、恐らくあの道はもう完璧に修復されております。ということは、我々が願わくば馬路橋がてこぼっている、あるいは海老塚から久能までをおりる落差が600mに対しての山麓路の設計書もない中で、どうして周遊道路を我々が求めるかという観点に立てば、南アルプス公園線を利用しながら、我々としては何としても行政を中心に、あるいは近隣の市町と協力しながら井川閑蔵線のトンネル化というふうなことをこれから求めていかなければならないと思ひまして、数々の困難がありますけれども、その都度、町長の御意見を承りながら質問を続行させていただきたいと思ひます。

これは、最後になりますけれども、我々議員が昨年6月にリニア新幹線の斜杭を前提に見に行ったわけですがけれども、あの大井川の最上流域の崩れ方というものは本当にもう惨たんたるものがあります。これほど山が崩れるのかというふうなことで、これは大倉財閥が明治に購入した2万4,000町歩を無計画に切り倒してしまつて、その結果、山体崩落みたいな形で土砂が大井川の上流域に流れ込んでいるわけですね。その山体の砂防の役目をしているのが畑薙第一ダムなんです。これは中電の皆さんも認識しておりますし、我々も、あの畑薙第一ダムがなければ、あの膨大な土砂が下流域を襲ってくるということは目に見えております。畑薙第一がだめになれば畑薙第二がつぶれる。第二がつぶれば井川がつぶれる。井川がつぶれば奥大井がつぶれ、最終的には長島ダム、この堆砂までも将来予測されます。こうなりますと、一自治体あるいは一電力事業者、中部電力だけの仕事ではないと。これは国策的に大井川を守っていくというふうな意味において、恐らく国交省の中でも、この畑薙第一ダム、第二ダムのしゅんせつというものは、試しにも平成10年には畑薙第一ダムのしゅんせつを始めております。

こういう意味においても、その上流域で堆砂した堆砂物を下流に運ぶと、これは静岡でもいいし、早川という意見もあつたんですけれども、雨畑林道がだめであり、我々はこの井川閑蔵線を整備して、そのしゅんせつ物を搬入してこの大井川流域を守るということも、我々の町長を中心とした我々の町民あるいは議員の責任だと考えております。

それから、最後になりますけれども、2番目の資料館やまびこの活用について。

これは、昨年の12月の議会で一般質問でさせていただきまして、町長も教育長も前向きに無料化という方向で考えておりますということをおっしゃっていただいたわけですがけれども、きょう現在、料金の改定はなされていないと。これをぜひ無料化、あるいはもっと安くするとか、いろんな方法はあると思うんですけれども、とにかく町の宝であります資料館やまびこに多くの観光客を呼び込んで、この川根本町の宣伝をする。

先ほどいろんな議員から南アルプスエコパークの事業の進展についての拠点づくりとかというふうな議論の中で、やはり資料館やまびこに多くの観光客の皆さんを誘致しながら、そこでこの町とエコパークの宣伝をしていくという意味で、ぜひとも入館料の改定ということをお願いしたいという意味で質問をさせていただきます。

よろしくお願ひいたします。

○議長（中田隆幸君） ただいまの芹澤廣行君の質問に対し町長の答弁を求めます。町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） それでは、芹澤議員の質問に対しましてお答えをさせていただきます。

まず初めに、国道362号青部バイパストンネル工事の完成の明確な期日についてという質問でございます。

この工事は総延長1,194km、青部バイパス2工区は、昨年度、藤沢橋が供用開始をされ、多くの方に利用をいただいております。そしていよいよ本年度から延長324mのトンネル本体工事に着手をいたします。現在の計画では、平成29年度までの3年債務による工事発注となり、12月県議会で工事請負契約の締結についての議案が上程をされるということになっております。

現在のところ、トンネル本体工事の完成期日は平成29年5月ごろと予定をされております。

今申し上げました工事は、トンネル本体の掘削及び躯体の工事であり、トンネル本体工事完成後、トンネル内の照明、防災設備や前後の取り合い道路の工事が必要となります。島田土木事務所川根支所では、平成25年度末の青部バイパス全線供用開始を目指し、トンネル本体以外の工事も順次発注する予定であると聞いております。工期につきましては、トンネル掘削中の地質の変化、湧水などにより工法等が変更になる可能性があり、これに伴い工期の延伸が必要になる場合がございます。そのため、現時点で明確な完成期日をお示しすることはできませんが、平成29年5月はあくまでトンネル本体工事の現在の完成予定期日であります。このバイパスの全線供用開始により、大型車両同士のすれ違い困難による渋滞の解消や、現道における雨量交通規制に影響されない通行が確保されることで、安心・安全な道路利用が可能となり、本町にとって様々な分野で大きな影響を与えてくれると思います。

そのため、一日も早い全線供用開始のため、県・国への要望活動を今まで以上に行ってまいりたいというふうに思っております。ぜひ町議会からも後押しをお願いしたいというふうに思っております。

なお、既に通知を差し上げておりますが、7月9日に島田土木事務所職員により静岡県の道づくりや町内で予定されております土木事業の説明会をしていただくことになっております。説明会には議員の皆様をはじめ、区長の皆様、観光産業の各団体の皆様、教育関係の皆様にご参加をお願いしております。ぜひ御参加いただき、静岡県の道づくりについての説明を聞いていただきますようお願いを申し上げたいというふうに思います。

次に、南アルプス公園線と連携した奥大井の観光事業振興についてという質問でございます。

議員が言われる静岡県県道60号南アルプス公園線は、御承知のとおり静岡市内の国道362号の清沢地区に近い八幡から大川地区、諸小沢、大間を抜け、静岡市街地からの県道189号との合流地点を通過し、井川ダム井川本村、畑薙第一ダムの先静岡市東俣林道に接続するための間約74.3kmの主要地方道でございます。

議員が御提案の南アルプス公園線と連携した奥大井の観光振興には、川根本町と静岡市井川を完全2車線で結び、県道189号を經由し、川根本町、井川、静岡市街地の周遊路線を確立することが必要であることの提案だと思っております。

本町は、旧本川根町のときに奥大井地域振興協議会を立ち上げ静岡市井川地区との連携を持ち、両地域の観光振興を図ってきた経緯もあり、両地区の観光業界、大井川鐵道、中部電力、当時の県行政センターなどで組織をしておりました。今なお井川の方々と親交を温める町民も多くございます。

そのような中、地方道閑蔵線の接岨地区から閑蔵地区までを交流ふれあいトンネル橋梁事業が平成11年に完成し、2車線道路、トンネル、橋梁が開通し、より井川地区が身近になりました。しかしながら、井川への道路はまだまだ狭隘部分が残し、交流のネックとなっていることは間違いございません。

また、昨年9月に発生をいたしました井川線の尾盛駅と閑蔵駅間の崩土により、現在、南アルプスあぶとラインも千頭と接岨峡温泉駅の運行であります。やっと治山工事に手が入り、線路のつけかえ工事を経て開通は来年の春先ごろでないかということです。このことも含め、本町から井川方面への観光客の流れはほとんどないというのが現状であります。

静岡市閑蔵から静岡市井川までの市道閑蔵線の今後につきましては、静岡市において平成22年度ころから整備を実施しております。しかし、地形が急峻であることから全面的な拡幅改良が困難であり、局部的な整備となっております。静岡市からは、当道路について引き続き整備を実施していくと伺っておりますが、静岡市との交流は本町と静岡市を結ぶ国道362号バイパスをまず優先して、本町への交流者を島田市側からと静岡市側からの2本を確固たるものにすることが必要かつ現実的ではないかというふうに考えております。

将来的には、時間も費用もかかると思いますが、閑蔵線の拡幅、もっと先には井川、雨畑林道、早川から山梨県へというルートも構想としてはあるわけですが、当面、川根本町までのルートと町内の国道、県道の整備に全力を挙げて国・県に要望していきたいというふうに考えております。

次に、南アルプスエコパーク登録後の地域振興策でございますが、先ほど中澤議員の質問でもお答えをしておりますけれども、3県10市町で構成をされております協議会では、南アルプス世界遺産登録活動を前面に活動からエコパーク推進と地域活性化につなげる方策の検討をするという方向性が構成市町村の大方の考え方と述べました。

自然に恵まれたこの地域の資源を磨き上げるという意味では、奥寸又の観光資源に磨きをかけるためのコース開発を含め、資源調査・周遊コース調査が必要ではないかと考えております。芹澤議員12月の一般質問でお答えしたように、光岳や本州唯一の原生自然環境保全地域へは、現在アクセスが途絶えていることは誠に残念であります。エコパーク理念「自然と人間の共生」をテーマに、今ある町内の資源と静岡市井川地域との連携により振興を図ってまいりたいと思っております。そのためには、議員が言われます国道、県道の整備や新たなアク

セス道路構想も必要なことも十分承知しておりますので、地元選出の先生方にも現況をお話しさせていただき、少しでも実現できるよう要望をしていきたいというふうに思っております。

資料館やまびこ活用等についての質問でございます。

さきの26年4月議会定例会におきまして議員から一般質問いただきました。資料館やまびこにつきましては、議員御承知のとおり、平成元年の長島ダム水源地域振興整備計画により建設が計画、議論され、平成4年に教育・学術・文化及び地域の振興に寄与することを目的に建設をされ、現在に至っております。

平成26年6月には川根本町全域が南アルプスユネスコエコパークの登録を受け、関係者の努力により拠点施設の一つとして展示物等の整備がされてきており、地域の歴史や文化のほか、環境学習及び南アルプスの自然環境の学術的拠点施設となりつつあります。平成26年度の入館者は2,187人、前年対比106%、入館料は37万1,040円、前年対比113.2%となっており、平成4年度から平成26年度までの累計入館者数は14万3,619人、平成20年度以降は年平均ほぼ2,000人で推移をしております。

現在の入館料につきましては、川根本町資料館条例により、高校生以上が200円、小中学生は100円、20人以上の団体割引につきましては、高校生以上が160円、小中学生は80円となっており、町内の小学校児童及び中学校生徒等が教育課程に基づく教育活動として入館するとき、また町または教育委員会が主催する教育、学術または文化に係る研修として入館するときには、川根本町資料館条例施行規則第5条により入館料の減免を受けることができます。

南アルプスユネスコエコパークにおける町内の拠点施設の一つとしてだけでなく、同じく県内の南アルプスユネスコエコパークである静岡市井川地区との連携における拠点施設として、次世代を担う子供たちや多くの方々の環境学習にさらに役立っていくため、近隣施設との連携を図るとともに、情報発信を行いながら多くの皆さんに立ち寄っていただける施設にしていきたいと考えております。

また、本町社会教育ビジョンにおきましても、地域の歴史や文化のほか、環境学習及び南アルプスの自然環境の学術的拠点整備としての整備充実を図り、南アルプスの総合的学習の場を確立していくことにしております。

入館料につきましては、社会教育施設の適正かつ円滑な運営を図るため、川根本町教育委員会の諮問等に応じ審議をしていただく川根本町社会教育施設運営委員会や教育委員会の御意見、また地元の皆さんと密接に関係している施設でもございますので、接岨地区の皆さんの御意見を伺いながら、無料化に向けて検討していきたいという考えを持っております。

以上でございます。

○議長（中田隆幸君） 建設課長、大村浩美君。

○建設課長（大村浩美君） 訂正をお願いします。申し訳ありません。

青部バイパス2期工区の総延長です。先ほど1,194kmと申し上げましたが、1,194mです。

訂正させていただきます。

○議長（中田隆幸君） 再質問を許します。6番、芹澤廣行君。

○6番（芹澤廣行君） 町長の答弁、誠に前向きであると思っております。とにかく今まで我々が観光に行って、その場所からまた戻って同じ道に戻ってくるというふうな観光の組み立てというのは、どこのエージェントもやらないんですね。ここを見て、次を見て、最終的には一周回るような形で起点に戻ってくるというふうなものが観光の主たる基本だと思うんです。それがあつ瞬間、ここからもう通れないよということで我々も苦しんでおりますが、町長の答弁のように前向きに進めていただきたいと思います。

それがためには、町長、やはり川根本町が中心となつて静岡市井川地区、島田地区、それからほかにもあるんです。これは、今年の3月におやめになつた島田の自民党の女性の県会議員が、これはすごく政治的な発言だつたと思つておられるんですけども、リニアが通ることは確実だと。濁水のおそれも、流入量も減るといふことも、つくる側は万全の体制をつくるというふうなことを言っているだけなんですけれども、やってみてからでなければ結果はわからないと。その代償としてトンネルの1本ぐらい掘つてもどうだといふふうな乱暴な政治的な発言も公式の場でされてたといふ記憶があります。これは、やっぱり大井川水系全体を、将来あと50年、100年にわたつて守つていくといふふうな意味において、しゅんせつも兼ねたいわゆる榎島から二軒小屋、それから島田に至るまでの2車線道路といふふうなことを、ぜひとも根気よく、川根本町が主体となつて近隣の町を巻き込み、あるいは長島ダムの水を利用している市町にも呼びかけながら連合艦隊をつくる、その司令長官が川根本町の町長と。恐らくこの事業を完成すれば歴史に残る町長だといふふうには私は考えております。ぜひとも早急はこの協議会、名前は何でも結構です、井川閑蔵をトンネル化すると、その設立のための準備会なり、意見交換会といふことを早急に町長、各市町に呼びかけていただきたいと思います。どうですか、やる気があるか、もう明確にきょうは発言していただきたいと思います。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） これはおのおので別に対応しておりますけれども、長島ダムの水を利用している下流の市町に対しましては、当然ながら上流の水源地を守つている川根本町のために支援をお願いしたいといふことで、これはダム建設当時から対応していただいている。

しかしながら、今現在、若干金額が減つております。その関係についても、各首長には、そのようなことでは困るから、何とか以前のように、もとに戻してもらいたい、それはリニアに関係する大きな節目であるから、そういう対応をしてほしいといふことは申し上げております。

それからもう一つ、道路の関係、これにつきましてはユネスコエコパークの登録を受けたということもございまして、天竜川、藤川並みに、やはり両岸に本来は大井川の山梨へ抜けるまで、長野に抜けるまでは当然ながら管理を国がするよふつもりでやってほしいといふことも含めまして、今現在、早川と静岡市、それから川根本町がエコパークの絡みの中で協

議会をつくって道路整備をしていこうというようなことの発足をするような予定になっております。これは具体的に、間もなく第1回目の会合をやりませけれども、そういう方向性もあるということで、これは当然ながら山梨県も静岡県も、県知事も入った中での対応になるだろうというふうに思っておりますので、大井川から行きどまりではなくなるというような構想を打っていきたいということで、今鋭意努力し、それが具体的になってくるであろうというふうな予想をしているところであります。これにつきましては、当然ながら、また決まりましたら皆さんにもお知らせをさせていただきたいというふうに思っております。

ですので、主導権をどこで持つかというのは非常に大事なところがありまして、今現在、ユネスコエコパークの関係は静岡市が全体の3県10市町の会長をやっているものですから、やはり静岡市が中心となって、リニアの関係もございまして対応していただくといいことが一番賢明ではないかというふうに思っております。

○議長（中田隆幸君） 芹澤廣行君。

○6番（芹澤廣行君） わかりやすい説明をありがとうございます。

話が前後して、私もちょっと恐縮しておるんですけども、各隣接市町あるいは下流域の市町を巻き込んだ協議会というふうな前に、来年の4月から静岡を核とした広域消防事業が始まるわけですね。そうなった場合、総合支所から井川の支所まで25.9kmと非常に短い距離、我々に対して応援要請は当然来ると思うんですよ。それが大型の、現在持っている消防自動車がなかなか危険を伴うと。消防の担当に一部聞きましたら、少し幅員の狭まったものも購入する予定であるというふうなことも聞いておりますが、この井川閑蔵線のトンネル化という意味は、私が先ほど述べた以上に消防の広域化というふうな意味で、一番近い応援部隊を抱えている川根本町、それと静岡と結びつけるということで、ぜひ静岡市長を動かしていただき、川根本町の安全を守る、あるいは井川の安全をお互い守るというふうな意味でぜひ進めていただきたい。むしろこっちのほうが話は早く進むというふうな感じもいたしますので、ぜひ頑張ってくださいと。これについても決意表明をお願いします。

○議長（中田隆幸君） 町長、鈴木敏夫君。

○町長（鈴木敏夫君） 決意表明というよりは、やはりそのような方向でやるべき時期に来ているということは痛切に感じております。特に広域消防の件がありましたけれども、やはり今現在も井川から川根本町へ来て、それから362の静岡バイパスへ行ったほうが早いというようなこともございますし、また、千頭周辺では、井川の皆さんが買い物、床屋等にはいらっしやるということもお聞きしております。やはり今現在は川根本町のほうへおりて来たほうが速い、道路もいいというような状況があるものですから、やはりその辺も含めて、今後は静岡市に頑張ってくださいと閑蔵線の整備をやっていただくと。これも静岡市のほうでは総合計画の中にも入っているようでございますので、大変計画的に進んでいくではないかということがございます。しかしながら、計画的ではいつになるかわからんということなものですから、その辺を、防災を含めた中で、もっと早い対応をしていただくように私のほうか

らも要請をしていく必要があるというふうに思っております。これは広域の消防が来年度からになりますけれども、その中でも必要だなというふうに十分承知しております。

○議長（中田隆幸君） 6番、芹澤廣行君。

○6番（芹澤廣行君） 町長と全く同じ思いであって、うれしく思います。ぜひとも進めていただきたい。

その道路が近いうちに開通すると思うんですね。その暁について、これは事前説明というよりも、お答えは要りません。私の意見として、本当にこの観光事業を伸ばすという意味で、今年の4月に観光業界、商工会、もちろん役場も含めて会議を起こしたわけですね。その中で何がナンバーワンかと、オンリーワンというのは川根本町のどこにあるかという議論がいろいろ出まして、7班か8班に分かれて最後の結論を出したわけです。その中の大多数、ほとんどがオンリーワンはアプトだけだと。いい温泉も、いい景色も、いい滝も、いい海も、うまいものもあると。しかし、日本で一つしかないものは、もう何が何でもアプト式電車、これはもう全面的に押し出して観光客の呼び込みを図っていこうというのが最終結論だったわけですね。

今なぜ、じゃあ井川線の宣伝がされていなかったかと、余りされていないかと。これは皆さん御存じのように、井川線の収支決算上のある電力会社の補助金絡みの話で、こういう場所でそれを軽々に話すことはできませんけれども、そういう経過があって、必死こいてアプト電車を宣伝した経過はありません。これは、全国1億2,700万の皆さんが、スイスと同じようなアプトが静岡県の大井川の中流域にあるんだと、一遍見に行こうということでいらっしゃる。何だ、こんなもんだったのかと思われても結構だけれども、とにかく来ることが大事なんです。一遍来て、国民の10%、20%が一生に一度だけ来てくれれば、恐らくそういう意味での宣伝にはなると思うんですね。別にこの答えは要りません。

そういう中で、アプトの区間を新しい日高エクリプスですか、この運行がどういう形で井川線を利用するかというのはまだ未知数であります。運輸省の許可を得れば、市代ダムから最短の長島ダムの向こう側の駅まで連続運転を繰り返しながら観光客を消化していくというふうなことも、本当に川根本町の観光入り込み数を増やす、あるいはそのの周りから地元で宿泊してくれるというような可能性もあると思うんですね。そういう、多分井川から、あるいは島田から潤沢なお客が入ってくる中で、我々の川根本町の地所は約5万ha、中には、我々も知らないようなすばらしいところもあるわけですね、今から新しい施設をつくる、新しいものをつくるというのは財政的に無理であれば、現在あるものを探し出して磨き上げると。

井川地区も大体、大倉喜八郎さんが持っていた民有地2万4,000町歩を含めましても約5万町歩、井川と川根本町を合わせれば大体10万町歩というふうな広大な地所になるんですね。その中には、探して探せば本当に立派な観光資源となるものがたくさんあると思うんですね。そういう意味で、アプトの関連も含めて、自分らの住んでいるところを愛して、隠れた宝物

を掘り出していくようなことを今後我々は、行政をはじめとして、議会も協力しながらやっていきたいというふうに思っております。

まだ時間がありますけれども、大分遅くなりましたものですから、これで質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（中田隆幸君） これで芹澤廣行君の一般質問を終わります。

以上で一般質問を終わります。



### ◎日程第2 川根本町議会議員派遣の件

○議長（中田隆幸君） 日程第2、川根本町議会議員派遣の件を議題とします。

川根本町議会会議規則第129条の規定による議員の派遣については、お手元に配付しました議員派遣の件のとおりです。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（中田隆幸君） 異議なしと認めます。

よって、川根本町議会議員派遣の件については、お手元に配付しました議員派遣の件のとおりに決定しました。



### ◎閉 会

○議長（中田隆幸君） 以上で本日の日程は全部終了しました。

会議を閉じます。

これをもちまして、平成27年第2回川根本町議会定例会を閉会します。

長い間御苦労さまでした。

閉会 午後 4時39分